

5 平沼・阿部・米内三内閣期

275

昭和14年1月18日

在北京秋山(理敏)大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

孔祥熙の使者を通じて蔣政権側へ和平案を提
示したとの何澄内話について

北京 1月18日後発

本省 1月18日夜着

第六一號(部外極秘)

東京及上海ヨリ歸來シ更ニ近日中ニ赴滬ノ筈ナル何澄。カ
八日原田ニ爲セル内話左ノ通り

一、難局ニ逢着シツツアル日支關係ノ打開ハ最早武力ニアラ
スシテ政治ニアルハ何人モ首肯シ得ル處唯問題ハ日本ノ
一、一六聲明タル蔣介石ヲ對手トセストノ人ヲ對象トセ
ル態度ハ具合悪シク日本カ飽迄本聲明ヲ固執スルニ於テ
ハ恐ラク解決ノ日程遠キコトト存セラル依テ今後ハ論事
不。論。人。即チ人ヲ對手トセス事ヲ對象トスル態度ニ改變セ

ラルレハ今後ノ仕事ハ遣リ易クナル次第ナリ

二、自分(何)カ上海ニ於テ蔣介石、汪精衛及孔祥熙代表ニ打
診ノ結果ハ蔣側ニ於テモ之以上ノ抗戦ヲ欲セス何トカ局
面ノ打開ニ苦慮中ノ模様ナルコト明瞭トナレル爲日本側
ノ贊同ヲ得タル一ノ方案ヲ先方ニ通シ置ケルカ(孔ノ代
表ハ本案ヲ携行重慶ニ赴キ近ク歸滬ノ筈)國民黨トシテ
ハ憲政期ニ入ラハ政治ハ國民ニ委ヌルコトトナリ居レル
爲國民政府ト別個ノ全。民。政府ヲ組織シ共產黨ヲ除ケル有
力分子及臨時、維新、蒙疆ノ各政府有力分子ヲ糾合シ右
首領ニ汪精衛ヲ据ヘルコトトナリ而シテ右段取ハ當方ヨ
リスルコトナク國民政府側ヲシテ爲サシムヘク又蔣ノ處
置トシテハ日本側ヨリ壓迫スルコトナク自動的ニ下野ニ
導クコト策ヲ得タルモノト稱スヘク之カ爲ニハ濫リニ日
本側及臨時、維新、蒙疆各政府等ニ於テ反蔣の聲明ハ差
控ヘ暫シ傍觀的態度ヲ以テ臨ムコト本案ヲ成功セシムル
所以ナリ

上海へ轉電セリ

276 昭和14年1月19日 五相會議決定

「孔工作ニ關スル件」

孔工作ニ關スル件

昭和十四年一月十九日

五相會議決定

一、孔ノ代表ノ資格竝ニ汪トノ關係未タ明瞭ナラサルヲ以テ

孔ニ對シテハ暫ク不即不離ノ態度ヲ持シ差當リ

(一)孔ノ蔣ニ對スル眞意

(二)孔ト汪トノ關係

ニ就キ探查逐次五相會議ニ報告セシム

三、之ト同時ニ汪工作者ニ對シテ孔工作ノ概要ヲ通報スルト

共ニ孔ノ蔣ニ對スル眞意、孔ト汪トノ關係ニツキ探查報

告セシム

277 昭和14年1月21日

第七十四回帝國議會における有田外相演說

第七十四回(昭和十四年一月)

有田外務大臣

時恰も支那事變を繞り、我國際關係が愈々複雑多岐とならうとします時に當りまして、茲に我外交政策竝に對外情勢の全般に付きまして説明する機會を得ましたことは、私の最も欣快とする所であります。

帝國外交が國體の本義に立脚し、帝國の道義的使命の達成を以て其の根幹と爲し、常に東亞諸民族と協力提携してその興隆を圖り、進んで世界の進運に貢獻せんとするものでありますことは、今更申すまでもない所であります。

彼の滿洲國の成立しまするや、五族協和日滿兩國の融合發展を以て其の建國の理想とし、帝國政府は日滿善隣不可分の基礎に立ち、同國が獨立國として健全なる發達を爲すことに協力することを國策となし來つたのであります。兩國の此の如き理想に基く協力提携に付きまして、之を以て或は領土的野心の偽裝的發露なりとし、或は列國權益の殲滅排撃を策するものなりとして、論難を加ふる者も少くなかつたことは御承知の通りであります。然るに建國僅に

六年後の実績を見まするに、國內の制度、秩序は着々として確立せられ、各種資源の開発は著しく促進せられ、三千萬民衆は其の業に安んじ、國礎は益々鞏固を加へ、之を承認した國も既に七個國に及んで居るのであります。治安の確立、産業の勃興に連れ列國の享受する利益は著しく増進を見つゝあるのであります。對英及對米貿易の如きも事變前に比較して顯著なる増加を示して居るのであります。是偏に滿洲國朝野一致の努力に依るは勿論、帝國が其の道義的使命に即し、一意同國の健全なる發達に寄與協力したる結果に外ならないのであります。

今次事變に對しても、帝國政府の根本方針と決意とは客年十一月三日の聲明に依り中外に闡明せられたる通りであります。日本の冀求する所は東亞永遠の安寧を確保すべき新なる秩序を建設するにありするのであります。此の新なる秩序の建設とは日滿支三國が、各自の獨立を維持し其の個性を十分に生かしつゝ、相携へて政治、經濟、文化の各般に互り積極的互助連環の關係を樹立し、以て道義的基礎に立つ新東亞を建設せんとすることに外ならないのであります。帝國政府は、斯る新なる秩序の建設こそ、日滿支三

國の存立發展上絶対に必要であるばかりでなく、又世界の眞の安寧平和に資するものであるとの堅き信念を有して居るのであります。更に同十二月二十二日、帝國政府は、支那に於ける同憂具眼の士と相携へ、東亞新秩序建設を共同目的として結合し、相互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げんとするものなる趣旨を聲明致しますると共に、帝國の支那に求むる所のものゝ區々たる領土に非ず、又戰費の賠償に非ずして、帝國は支那の主權を尊重するは固より、進んで支那の獨立完成の爲に必要とする治外法權の撤廢、租界の返還に關して積極的なる考慮を拂ふに吝ならざるものなることを表明致しましたが、之皆均しく帝國の道義に發足する國策を宣明したものであります。

最近一部方面に於きまして、帝國政府累次の説明にも拘らず帝國が愈々支那の門戸を閉鎖するが如き誤解を抱いて居る向のありますのは、詢に遺憾に堪へざる次第であります。固より日滿支三國の互助連環に依り新なる東亞の建設に乗出しまする以上、三國の國防及經濟的自主達成に重大なる影響を及ぼすべき分野に於きましては或程度の制限乃至施設を行ふの要あることは當然であります。右は自ら

前述の目的に必要な限度に限らるゝ次第でありまして、斯る措置は畢竟東亞が内を治め、世界經濟の一環として進んで其の發展に寄與せんとするものに外ならないのであります。従つて右措置以外の廣大なる範圍に於きましては、第三國の經濟的權益、第三國の平和的通商企業等は毫も影響を受くること無きのみならず、寧ろ進んで其の参加をも歓迎せらるゝ次第でありますが故に、全體として第三國の經濟的活動は益々隆盛活潑となることと信ずるのであります。

帝國政府は通商上の各種障礙を除去し、世界各國間の經濟的協力を促進することが、世界人類の繁榮と幸福とを齎す所以なりと信じまして、從來之が爲努力を續けて來たのでありまして、今後も此の方針に變りはないのであります。前に述べました如く、日滿支互助連環の關係に於きまして、第三國の經濟的活動の制限を、國防及經濟的自主達成に必要な最小限度に止めんと致しまするのも、畢竟右の方針に基づくものであります。私は關係列國が帝國の眞意を認識し、東亞の新なる秩序の建設に積極的協力を吝まざるべきを切望し、且期待するものであります。

尙今次事變に際しまして、在支第三國人の個々の權益にして損害を受け、或は其の居住往來を制限せらるゝが如き事態が発生致しましたのは遺憾であります。是等は軍事行動の必要に出でた萬已むを得ない出來事でありまして、關係國に於ても事情を諒とし居るものと信ずるのであります。之等の點に付ては帝國政府としても亦細心の注意を怠らないのでありまして、既に懸案となれる諸案件に關しましては、事情の許すもの、又は調査完了のものより逐次解決するの方針を取り、現在迄に圓滿解決の運びと爲つた案件も少く無いのであります。

佛領印度支那其他を通じて蔣政權側に齎らざるゝ武器輸送の情報に關しましては、累次關係國の注意を喚起し來つた次第であります。必要な場合には帝國として適當なる措置を執る所存であります。今や廣東陥落、武漢三鎮の攻略に依つて支那事變は茲に新なる段階に入り、一面に於ては抗日政權壞滅の手を緩めざると共に、他面積極的に建設に鋭意すべきこととなつたのであります。

惟ふに蔣政權は今尙所謂長期抗戰を標榜して居りますが、既に僻陬に逃避し純然たる一地方的存在と化して仕舞ひま

したるに反し、皇軍占據地域に於きましては反共親日の氣運が勃然として起りつゝあるのでありまして、臨時、維新及蒙疆各政權も各々堅實なる發展を遂げ、着々民心を収めて居るのであります。更に昨年秋には臨時、維新兩政府の間に聯絡委員會の組織をも見、漢口、廣東方面にも地方政權樹立の氣運を見つゝある状態でありまして、帝國政府としては新中央政府が速かに成立し、我方と協力して事變の收拾を圖るに至らんことを期待して居る次第であります。尙最近所謂和平派首領の脱出事件等が起りましたが帝國政府としては其成行に付注意を拂つて居るのであります。

帝國は曩に共產インターナショナルの破壊的活動に對抗するため日獨防共協定を締結し、後更に伊太利國の加盟を見たのでありますが、此の共產インターナショナルの活動たるや隱顯出沒誠に端倪すべからざるものがあるのでありまして、歐羅巴に於ても、亞細亞に於ても、平和秩序の多少なりとも亂されたるが如き事件の背後には必ずや彼等の活動の存することを發見するのであります。彼の勃發以來既に三年に垂とする西班牙内亂の如きは最も顯著なる例でありますが、彼等の常套手段は局部的問題を導火線と

して一般戰爭を誘起し以て世界の赤化を圖らんとするのであつて、誠に彼等こそ秩序破壊、平和攪亂の元兇と云ふべきであります。

東亞に於きましても、今次事變以前より彼等は既に國民政府に働き掛け、蔣をして抗日毎日の政策を執らしめて居つたのであります。事變勃發後は急速度にその魔手を延し、遂に國民政府の軍事及政治の中樞に割込み、軍政兩面に對する領導的地位を獲得しつゝあるのであります。而して所謂長期抗戰、遊擊戰術なるものは、元來共產黨の建策に基くものでありまして、畢竟支那大衆の犠牲に於て出来る限り事變の解決を遷延せしめ、以て支那延ては世界の赤化を招來せんとする陰謀に外ならないのであります。

幸にして日獨防共協定の威力は、共產インターナショナルの破壊工作を、歐羅巴に於けるが如く亞細亞に於ても或程度に之を喰ひ止め得て居るのであります。吾人は過去の經驗に顧み此協定を將來に於て一層擴大強化することが世界平和の保障を一層強からしむる所以であると信じて居るのであります。最近滿洲國及洪牙利國が本協定に参加の決意を表明致しましたことは防共陣營の擴大として慶賀

する所であります。

對蘇關係に付きましては、張鼓峯事件に際し非常に緊迫せる關係に置かれたのでありましたが日本側の適切なる措置によつて大事に至らずして済んだのであります。北樺太に於ける石油、石炭に對する我權利の不法壓迫は依然として已まず、其の行使をして愈々困難ならしむる状態に陥れて居るのであります。又漁業問題に付きましては曩に案文の妥結を見ましたる條約の成立に付、引續き有らゆる努力を拂ひましたるに拘らず、蘇聯邦側に於ては條約と關聯なき問題までも提起致しましたる爲め交渉は今以て纏るに至らないのであります。一方暫定取極も客年末を以て期限満了となりますので同取極の更新方の商議に移りましたが、之に付ても蘇聯邦側は幾多の無理な條件を提起して譲らなかつた爲め年内に妥結を見ず、依て蘇聯邦に對し漁業の現状に變化を來すが如き措置を執らざる様申入れ越年交渉を繼續することゝした次第であります。政府としては蘇聯邦側が誠意を以て本交渉に當り結局取極成立に至るべきことを期待するものであります。我が正當なる既得の權益擁護の爲めには固より適宜の措置を講ずる覺悟であります。

惟ふに世界の恆久平和なるものは、人類親和の道義的基礎に立脚し公正なる均衡を基調としてこそ始めて築き得らるゝものでありまして、今日國際間不安動搖の原因は素より複雑なるものがありますが、要するに事實上不公正なる現状を其の儘維持せんことに努め、功利的精神により新興勢力の發展向上を阻害せんとすることが、其の重大原因たることは争ふべからざる所であります。帝國の企圖する東亞新秩序の建設こそ道義を根幹とし、國際正義に適ふものでありまして、列國との關係を眞に健全なる基礎の上に益々親善ならしめ、眞の世界平和を招來する所以であると信ずるのであります。之に對しては今尙誤解を抱いて釋然たらざる者があるのでありますから、此の國策の遂行に當りましては、國民一般正を履んで畏れざるの覺悟を必要とするのであります。

278

昭和14年1月30日

在北京秋山大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

孔祥熙を通じた和平工作に對する蔣政權側の

反応を何澄内話について

北京 1月30日後発
本省 1月30日夜着

第一〇七號(部外絶對極秘、館長符號扱)

往電第六一號二關シ

三十日何澄力原田ニ爲セル内話左ノ通り

一、過般上海ニ於テ自分(何)トノ打合ヲ濟マシ重慶ニ赴ケル
孔祥熙代表ヨリノ香港經由密電(三十日接到)ニ依レハ同
代表カ孔ヲ通シ蔣介石ニ復命ノ結果蔣ハ意大イニ動キ
(何ノ示セル電文ニ依レハ頗爲動容另詳細談トアリ)引續
キ具體案研究中ノ趣ニテ右代表ハ右具體案ヲ携行更ニ上

海ニ來ル筈ナルニ付自分(何)ハ二日發赴滬スヘク大局ノ
收拾ニ一抹ノ光明ヲ認メ來リタルハ同慶ニ堪ヘサル所ナ
リ由來本案ハ自分(何)カ上海ニ於テ土肥原將軍ト話合ノ
結果更ニ東京ニテ板垣大臣(影佐、今井ヲ含ム)ノ贊成ヲ
得タルモノニテ土肥原中將ハ寧口本件ニ付テハ側面ノ關
係ニアリ

二、吳佩孚ノ和平救國通電(往電第一〇六號參照)モ既ニ發出
セラレタル處次ノ綏靖工作ハ其ノ實現ハ至難トセラレ從
テ本運動ハ差當リ本通電發出ヲ以テ一先ツ梟ヲ付ケタル

モノト言フヘク和平空氣醞釀ニハ多少ノ效果ハアルヘキ
モ大局ニハ左シタル影響無キヤニ觀ラル

上海へ轉電セリ



279 昭和14年2月8日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

杜月笙の上海復歸については蔣介石側との関
係などを充分検討し慎重対応方意見具申

上海 2月8日後発
本省 2月8日夜着

第三〇〇號(極秘、館長符號扱)

⁽¹⁾ 本官發香港宛電報

第二五號

貴官發大臣宛第一二五號二關シ

最近杜月笙力汪一派トノ聯絡進展シ上海復歸ノ意嚮頓ニ動
キツアルヤノ趣ノ處右ハ從來影佐大佐等軍側ノ山下ヲ通
スル工作乃至ハ軍側モ承知ノ岩井ノ周文彬、錢永銘ヲ通ス
ル引出工作(岩井ノ錢及杜兩人引出工作ニ對シ帝國政府ニ
於テ全幅ノ支持ヲ表明スル近衛前大臣ヨリ谷公使ニ與ヘラ

レタル書面寫モ周ヲ通シ錢ニ與ヘアリ右ハ錢ト杜トノ關係ニモ顧ミ自然杜ニモ通シ居ルモノト見テ差支ナシヨリ見レハ大イニ歡迎スヘキ現象ナルハ言フ迄モナキ處汪一派ト杜トノ間ニ如何ナル約束アリヤハ貴電ノミヲ以テシテハ不明ナルモ杜ノ上海復歸ハ同人カ今尙當地ニ隱然タル實力ヲ有シ居ル現状ニ鑑ミ今後上海地方ノ治安狀況ニ善惡何レニセヨ相當ノ影響アリ一應杜從來ノ態度又ハ行動ニ關シ充分ナル檢討ヲ加ヘ

彼カ我方竝ニ汪一派ト眞ニ協力スル決心アリヤ否ヤヲ再吟味スル必要アリ即チ確實ナル情報ニ依レハ

一、杜ハ從來蔣介石ノ手先トナリ多額ノ金錢ヲ貰ヒ我方樹立ノ新政權ニ參加ノ惧アル吳光新、李思浩、章士釗、曾毓雋其ノ他ノ老政客ニ生活費ヲ給シ之カ足留工作ヲ爲シツツアル外杜自身モ生活費トシテ毎月約五萬元ノ支給ヲ受ケツツアリ(XYZ、XY、周文彬何レモ此ノ事實ヲ認メ居レリ)(客年十一月十三日附日高總領事發大臣宛機密第三九八二號參照)

二、杜ハ客臘重慶ニ赴キ蔣ヨリ重慶政權擁護ノ爲沿海二千五百萬鹽民ノ組織方任務ヲ與ヘラレ居レリ(香港發大臣宛

第三五號末段參照)

三、孔祥熙及孔夫人トノ從來經濟的關係深ク今回ノ當地譯報ノ買収モ杜ヲ通シテ行ハレタルコトハ往電第二五七號(大臣宛)ノ通りニシテ

此ノ種流民仲間ノ信義ハ極メテ固キモノニシテ遽ニ孔ヲ裏切ル如キ態度ヲ執リ得サル事情アリ(XYZノ内話)尤モ此ノ點孔從來ノ不斷ノ求和の態度ニ顧ミ孔ノ日本接近ノ意ヲ受ケ居ルトモ見ルヲ得サルニアラサルモ孔ト不仲ノ汪派ニ對シ接近シ居ルコト及爾餘ノ諸情報ハ斯ノ如ク甘キ觀測ヲ許ササルモノアリ

四、杜ハ名譽慾強ク常ニ側近者ニ對シ日本側ヨリ五千萬元提供ヲ條件ニ自分(杜)ノ上海復歸方勸說アリ又再三出馬慾湧ノ使者モ來リ居ルモ何レモ拒絕シ居レリト法螺ヲ吹キ抗日英雄氣取ニテ人氣ヲ固ムルニ腐心シ居リ其ノ結果彼ノ聲望ハ益々昂マリ居リ香港ニ來ル者ハ必ス杜ノ許ニ挨拶ニ出ル現状ニテ從テ態度ノ急轉換ハ爲シ得サル心理狀態ニアリ(XYZノ情報及觀測)

五、一昨年上海退去ノ際杜ハ國民政府委員乃至ハ交通部長就任ノ希望アリ

更⁽⁴⁾ニ政府ニ於テ彼ヲシテ資本金五千萬元ノ西南實業公司ヲ經營セシムヘシトノ約束アリタルニ拘ラス何一ツ實現シタルコトナキニ付テハ心中必スシモ快カラス一部彼ノ部下ハ右ヲ理由ニ蔣政權ニ見切ヲ着ケ上海復歸ヲ希望スル者アルモ以上各種ノ事情アル外他ノ一部部下ハ飽迄徹底抗日ヲ主張シ彼ノ復歸ニハ極力反對シ居リ杜ノ態度如何ニ依リテハ杜ヲ遣ツ付ケ間敷キ勢アリ(XYZノ情報)六、杜カ上海ニ於テ勢威ヲ振ヒタル當時多數ノ人命ヲ殺メ居リ又現在ニ於テハ杜ニ代ツテ上海ノ地盤獲得ヲ夢ミル手合相當アリ是等ヨリノ怨恨ト相當執拗ナル反對ヲ受ケツツアルコト(上海軍側一部ノ杜ニ對スル反對ハ此ノ手合ノ策動モアルヤニ認メラル)(XYZノ内話及客年中村總領事發大臣宛電報林知淵内話參照)

七、⁽⁵⁾杜ノ上海代表ハ徐采丞(大臣宛往電第二五七號譯報買收ノ責任者)及姚惠泉ノ兩名アル處殊ニ姚ノ如キハ上海ニ於テ多數補習學校ヲ經營之ヲ抗日活動ノ機關トシ居リ是等態度ハ何等變化シ居ラス(XYZノ内話)

八、殊ニ當地軍事委員祕密辦事處祕書ニ入りタル情報ニ依レハ最近蔣介石ヨリ杜ニ對シ上海ノ問題ハ矢張り上海人ニ

於テ負責工作スル方宜シカルヘク杜ノ復歸ヲ望ム旨ノ電報アリ右ニ對シテハ杜カ如何ナル返電ヲ爲シタルヤハ不明ナルモ右蔣ノ出馬勸說ハ勿論杜ヲシテ上海ニ於ケル抗日團體ノ組織及江南遊擊隊援助ノ任務ヲ負ハシメル魂膽ニ出テタルコト明白ナリ(XYZ情報及觀測)

果シテ然ラハ杜ノ出馬ノ意嚮カ事實トスルモ其ノ目的ハ我方ニ取リ歡迎ニ値スヘキモノナリヤ否ヤ即チ

(一)假令汪一派ト聯絡ノ手トハ言ヘ右ハ汪派ノ我方トノ關係ヲ熟知シ居ル蔣介石側ニ於テ殊更ニ杜ヲ接近セシメ同派ノ活動監視ヲ爲サシメ(ントスル)反間苦肉ノ策ニアラサルヤ

(二)蔣ノ爲ノ後方攪亂工作ヲ爲スニアラサルヤ
 慎重考慮ノ要アルヘシ尤モ杜カ内心如何ニ意圖ヲ挿ムニセヨ上海ニ來テ了ヘハ我方ノ監視モ一應屆ク譯ナルカ一方租界ノ實情ハ大臣宛往電第二九八號ノ一事ヲ以テモ證明シ得ル如ク我方ノ實力ハ勿論監視モ殆ト及ヒ得サル實情ニアリ從テ杜カ容易ニ我方ト接近ヲ裝ヒ乍ラ裏面ニ於テ如何ニ惡辣ナル反日工作ヲ行フ場合ト雖我方トシテハ容易ニ之ヲ制壓シ得ヌ次第二シテ又我方從來ノ「テロ」工作モ今日迄ノ實

情ニ徴スレハ其ノ技術及效果ニ於テ支那側ノ夫レニ比シ貧弱極マルモノニシテ到底彼等ヲ畏怖セシムルニ足ラス從ツテ杜カ我方ニ對シ誠心誠意協力スル場合ニ於テコソ杜ノ出馬ハ最モ歡迎セラルヘキモノナレト然ラスシテ我方カ彼ヲ歡迎スル意嚮ニ迎合スル如ク見セ掛ケ内實蔣側ノ廻シ者トシテ來ル場合ニハ其ノ弊害ノ及フ所俱ルヘキモノアリ

(7) 累次往電ノ通り最近左ナキタニ積極化シ來レル支那側ノ租界内ニ於ケル抗日工作乃至ハ江南遊擊隊工作ヲ益々助長スル結果トナリ却テ飼犬ニ手ヲ嚙マルル惧ナシトセス

就テハ杜ノ出馬ノ事象ノミヲ見テ無條件ニ之ヲ歡迎スルハ禁物ニシテ汪派ヲ通シ我方ノ了解ヲ求メ來リ居ル今日ノ場合ニ於テモ亦將來影佐大佐ノ手紙ノ結果等ニ依リ直接我方ニ接近シ來ル場合ト雖少クトモ前記各種情報ニ基キ充分杜ノ眞意ヲ質シ上海復歸後ノ條件等ニ付テモ相當嚴重取極メ置ク必要アリト思考セラル

尙當方ト聯絡アリ曩ニ杜ノ招電ニ依リ香港ニ赴ケル市黨部王蔓雲モ既ニ歸滬セルヤニテ又潘子欣(蘇州青幫ノ巨頭ニシテ事變後ハ杜ノ客分トシテ滯滬シ居レリ)モ杜ヨリノ強ツテノ招電ニ依リ近ク南下ノ筈ナルカ其ノ際ハX Yモ他用

旁之ニ同行ノ筈ニモアリ且又X Y Zモ近日中ニハ歸香ノ筈ニ付杜ノ眞意乃至蔣側トノ關係ニ付テハ漸次判明スヘク追報ノ豫定ナルモ右不取敢御參考迄

大臣へ轉電セリ

280

昭和14年2月14日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

対日和平問題をめぐる重慶方面政治情勢に關する情報報告

上海 2月14日後発
本省 2月14日夜着

第三六三號

重慶方面情勢ニ關シ杜月笙及錢新之ノA L聯絡者ニ爲シタル談話要領左ノ通り

一、共產黨ハ對日政策上又廣西派ハ對蔣政策上共ニ抗戰強行ヲ主張シテ讓ラス爲ニ蔣ハ和平ヲ主張セハ下野ヲ餘儀ナクセラレ若シ其ノ地位ヲ保持セントセハ抗戰ヲ繼續セサルヘカラサル状態ニテ全く共產黨及廣西派ノ傀儡タリ尤モ支那ニ對スル英米ノ財政的、蘇聯ノ物質的、人的援助

毛蔣ヲシテ抗戰繼續ヲ決意セシムル一因ナリ

三、支那ハ絶對ニ休戰和平ヲ必要トスルモノナルカ主和派タル陳果夫、孔祥熙、葉楚傖、張公權及吳鼎昌等スラ敢テ之ヲ口ニスル者一人モナク重慶ハ今ヤ抗戰ニ熱狂シ居レリ

三、乍併國民黨内主戰論者トテモ最後ノ勝利ヲ確信シ居ル次第ニハアラス敢テ抗戰繼續ヲ主張シ居ルハ英米ヨリ日本ノ力盡クルヲ俟チ國際的和平會議ヲ開カントスル意嚮アル旨ヲ暗示シ居ルニ依ルモノナリ一方主和論者ハ汪ノ失敗ニ鑑ミ今後ハ先ツ中下層ニ働掛ケ和平空氣ヲ作り漸次輿論ヲ轉換セシメ然ル後ニ地位アル要人ヲ表面ニ立タシムル方策ニ出テサルヘカラスト爲シ居レリ

尙滯滬中ノ丁默村モ當館員ニ對シ重慶歸來者談トシテ目下重慶ニハ主和論者鮮カラサルモ口ニ出ス者一人モナキ旨竝ニ汪派ノ運動モ前記ニ後段ノ「ライン」ニテ準備工作ヲ進ムルコト成功ノ捷徑ナル旨語レル趣ナリ

香港ヘ轉電アリタシ

北京、天津、南京、漢口ヘ轉電セリ

281 昭和14年3月8日

在ハノイ鈴木(六郎)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

龍雲に帰順の意向を非公式打診について

ハノイ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第五一號

龍雲ノ意嚮打診ノ爲舊年末昆明ニ歸省スルYニ託シテ龍ト舊知ノ間柄ナル館員ヨリ非公式ニ「龍カ我方ニ對シ何等意圖ヲ有セサルヤ若シ意圖アラハ河内迄代表ヲ派遣シテハ如何」トノ旨ノ書翰ヲ蔣政府委員タルYノ父ヲ通シ龍ニ届ケシメタル處一昨日歸來セルYノ報告竝ニ雲南狀況左ノ通り一、右書翰ニ對シ龍ヨリ目下ノ自分トシテハ實ニ苦シキ立場ニ在リ殊ニ中央機關(外交及財政部)ノ一部既ニ昆明ニ移遷シ來リツツアル今日中央トノ關係ハ誠ニ機微ナル關係ニ在ルヲ以テ時機ヲ見テ善處致度キ所存ナリ但シ若シ中央機關力全部昆明ニ移轉シ來ルコトモナレハ自分トシテハ如何トモ爲シ能ハサル立場ニ至ルヘキ旨當方ニ回答スヘキ様傳言越セリ

三、雲南ハ二月四日ノ貴陽ニ對スル空爆ノ被害大ナリシコト

我方海南島占據及廣西方面爆撃ノ影響ヲ受ケテ一般人心戰々兢々トシテ經濟界全ク恐慌狀態ニ陥リ居レリ昆明市ノ如キ在來ノ住民ノ三分ノ二ハ有産無産ノ別ナク未戰ノ地方ニ逃避シ晝間ハ市中往來少ク商店ノ如キハ午後二時頃ヨリ夕方迄開店スルニ過キス但シ夜間ハ逃難者集リ來リ賑カナルカ一般ニ商人ハ商品少ク且政府側課稅苛斂ナル爲物價法外ニ暴騰シ商業殆ト停頓狀態ニアリ

目下中央、中國、交通及農民銀行四支店、中央經濟部ノ「バック」ノ下ニ盛ニ銀行券ヲ發行シテ活動シツツアルカ農民銀行券ハ一般ニ氣受好カラス

又舊普滇銀行券ハ三月一日限り使用ヲ禁止セラレ新普滇銀行券流通シ居レルモ爾後ノ發券ヲ禁止セラレ新普滇銀行券二元ニ對シ中央、中國、交通銀行券等一元ノ割ニシテ蔣政府側ノ支持及焦慮アルニモ拘ラス新普滇銀行券ハ一般受渡ニハ喜ハレ居ラス

三、⁽²⁾現在龍雲麾下ノ軍隊トシテハ二個ノ近衛旅(兵力約八千)及二個ノ獨立大隊(約一萬)ト新ニ募集セル二箇旅(約八千)ニ過キス中央ノ徵兵令實施ニモ拘ラス之ニ服セス省内壯丁ハ殆ト山間^(僻カ)遊地ニ忌避逃走シ爲ニ生活ニ窮シ多ク

ハ匪賊ト化シツツアリ龍雲ハ新ニ徵集セル兵力ヲ以テ之カ猖獗ヲ極メツツアル維西方面ニ討伐ヲ行ヒツツアリ飛行基地トシテ完成セルモノハ昆明、呈貢、祥雲、昭通(最モ大規模)、蒙自、麗江、大理ナリ

昆明ヨリ安寧ニ向フ途上馬街子ニ武器彈藥ノ大倉庫アリ又耀龍發電所ノアル石龍壩ニハ漢陽兵工廠(移リ來レルモノ)竝ニ「ガソリン」貯藏大「タンク」アリ

四、敘昆鐵道及滇緬鐵道ハ共ニ二月十六日起工式ヲ行ヒ^(終カ)昆

鐵道ハ各分段共ニ一齊ニ着工シツツアリ

重慶昆明間長距離電話ハ三月一日ヨリ開通セリ(詳細ハ^(詳カ)

追報申進ス)

北京、滿、上海へ轉電アリタシ

282 昭和14年4月6日 在ハノイ鈴木總領事より
有田外務大臣宛(電報)

帰順打診に対する龍雲の反応について

ハノイ 4月6日後発
本省 4月7日前着

第七六號(極秘)

往電第五一號前段ニ關シ

當地防空視察ノ爲雲南ヨリ本月三日海防ニ着セル防空司令官陸軍中將揚如軒カ龍雲ヨリノ傳言ナリトシテ Staff. ヲ通シ橋丸ニ左ノ通り申越セリ

今回自分(龍)ハ信任スル揚司令ヲ通シ過般ノ書翰ニ對スル回答ヲ爲スト前提シ(一)御來示ノ代表派遣方ニ付テハ自分ハ豫テヨリ望ミ居ル所ナリ(二)元來自分ハ獨力ニテ目的達成可能ナリト信ス即チ現在昆明ニハ中央ヨリ監察使派遣セラレ居レルモ監察使ニハ雲南省政府ヲ左右スル丈ケノ實力ナク現在自分ハ動コウト思ヘハ動クコトヲ得(三)乍併今後自分カ動キタル場合日本側ハ如何ニシテ自分ヲ援助セラルルヤ此ノ點極秘裡ニ日本政府ノ意嚮ヲ尋ネ願ヘマシキヤト申出アリタリト

右ニ對シ橋丸ヨリハ不取敢本國政府ニ電報スヘキ旨答ヘシメ置キタルカ本件龍ノ動キハ西南工作上竝ニ武器通路遮斷方策上蔣ノ死命ヲ制スル上ニ極メテ有力且重要ナリト思考セラルルニ付中央ニ於テ軍側共篤ト御協議ノ上何分ノ儀御回示相仰度シ(當方ニ於テハ門松及山田商館聯絡濟)

惟フニ對雲南方策ハ對廣西工作ト平行セシムルコト良案カ

ト存セラルル即チ現在廣西ノ白崇禧ハ廣西ヲ握リ蔣ヨリ離反セリト見ラレ曩ニ白ハ龍ヲ訪問セル事實アリトモ言ハレ從テ白ト龍トノ間ニハ何等話合アルニアラスヤトモ思ハル之カ爲(一語不明)既ニ白參謀連ヲ抱込ミ白ヲ動カシメサル工作ヲ施シ居ル一方蔣ハ李宗仁ト白カ合作スルヲ極力惧レテ阻止シ居レル趣ナルカ將來龍カ起ツ際ニハ白ヲシテ之ニ應セシメ一方龍雲西康貴州ニ呼掛ケ雲南廣西ト相呼應シテ西康貴州ヲ動カシ而シテ四川ヲモ引摺リ込ム工作ヲ執ルニ到ラシメテハ如何カト思考セラル

尙上記龍ノ意圖カ如何ナル程度迄眞實性ヲ有スルヤハ今俄ニ判斷シ能ハサルモ本省ニ於テ前記龍援助ノ具體案アラハ龍ノ使者ヲ當地ニ派遣セシメ之ト討議スル等ノ方法ニ依リ龍ノ意圖ノ程度ヲ察知シ得ルヤニモ思考セラルル右報告旁々卑見何等御參考迄

283

昭和14年4月12日

在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

わが方の和平方針を喬輔三打診について

第四五八號(極秘、館長符號扱)

香港 4月12日後発
本省 4月12日夜着

曩ニ齋輔三ヨリ孔祥熙ノ招電ニ依リ近ク重慶ニ赴ク處孔ノ
和平希望ハ今猶變化ナキニ付日本側最近ノ方針ヲ承知シタ
シト申出アリ依テ本月初篤ト我方針ヲ説示シタル上重慶側
ニ於テ先ツ抗戰容共ヲ放棄シ親善提携ヲ明白ニ表示スル一
方日本ノ要求ヲ俟ツ迄モナク蔣介石自身進シテ一切ノ責ヲ
負ヒ引退スルニアラサレハ和平ハ問題トナラサルヘク又孔
ニ於テ今後和平ニ付テノ話合ヲ遂ケントスル場合ハ先ツ以
テ抗戰實力派ヲ説伏シ内部ノ輿論ヲ統一スル充分ナル確信
ヲ必要トスル旨述ヘ置キタリ齋ハ蔣ノ下野ニ付日本側ニテ
寛大ナル考慮ヲ拂ヒ得ルニ於テハ和平ノ實現左シテ困難ナ
ラスト述ヘ居タルカ往復約一箇月ノ豫定ヲ以テ十日出發シ
タリ

上海へ轉電アリタシ

284

昭和14年4月26日

在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

重慶でカー英國大使が蔣介石に對し対日和平
の可能性を打診したとの情報をめぐる伊国武
官との意見交換について

北京 4月26日後発
本省 4月26日夜着

第五四九號(極秘)

⁽¹⁾ 目下滯京中ノ伊太利大使ニ隨行シ來レル同國大使館附武官
「プリンチピニ」大佐廿五日門脇ヲ來訪シ(本官同日病臥
中)大使ノ命ニ依ル旨ヲ前提シ伊太利大使ハ廿三日在重慶
伊太利大使館參事官ヨリ「同地ニテ得タル情報ニ依レハ先
般上海ニ於ケル「クレイギー」「カー」兩大使會見後「カ
ー」大使力重慶ニ赴キタル際蔣介石ニ對シ日本トノ和平ノ
可能性ヲ打診シタル趣ニテ又「カー」大使ハ日本政府ハ一昨
年十二月南京陥落直後松井司令官力蔣介石トノ直接交渉ニ
依リ時局ヲ解決シ得ヘシト考ヘ居タル當時ト同一ノ條件ニ
依リ時局收拾ヲ辭セサル意嚮ヲ有スルカ如キ印象ヲ有シ居
ル趣ナル旨」ノ電報ニ接セルカ右ニ關スル何等情報ナキヤ
ト尋ネタルヲ以テ門脇ハ「カー」大使ノ赴滬ハ專ラ現地ノ實
情視察ノ爲ナル旨公表セラレ居ルモ其ノ眞ノ目的ハ奈邊ニ

在ルヤ不明ナル處「カ」大使力重慶ニ於テ蒋介石ニ和平問題ヲ持出シタル趣ノ情報ハ當方モ有シ居リ又夫レ位ノコトハアリ得ルコトト存スルモ右カ帝國政府ノ意嚮ト何等關係アルモノトハ考ヘラレス少クトモ此ノ點當館ニ於テ何等情報ヲ有シ居ラス殊ニ南京陷落直後ト現在トハ情勢全ク一變シ居リ約一年半前ノ情勢下ニ於ケル條件ト同一條件ニテ今日和平ノ談合ヲ爲スカ如キコトハ斷シテアリ得ヘカラサルコトナリ「カ」大使カ事實スル印象ヲ有ストセハ一顧ノ價值ナキ錯覺ナリト述ヘタルニ對シ

② 同武官ハ全ク同感ニシテ議論ノ餘地ナキ所ナランモ一應御尋ネシタル次第ナルカ事實茲一年間ニ支那ノ情勢カ一變セリ歐洲ハ御存知ノ通りニシテ英國ハ歐洲ニ備ヘンカ爲極東ノ事勿レヲ願ヒ種々策動スヘキモ日本ハ世界情勢ノ大局ヨリ善處セラルルモノト思考スト述ヘタルヲ以テ門脇ヨリ此ノ點御安心アリテ然ルヘシト答ヘ置キタル由更ニ武官ヨリ之ハ自分一個ノ考ナルカト前提シ伊太利大使ハ未タ信任狀ヲ提出シ居ラサル處其ノ住所ヲ南京上海等何レニスヘキヤヲ考慮シ居ル模様ナルカ右ハ新中央政府成立竝ニ之ニ伴フ首都ノ決定ト關係アル處是等ノ點如何ナリ居ルヤト問ヒタ

ルヲ以テ門脇ヨリ誰シモ新中央政府成立ノ必要ヲ感シ居ルモ此ノ問題ハ急速ニ取運フコト禁物ニシテ鞏固ナル中央政府成立ノ爲ニハ其ノ下地ヲ充分ニ作ルコト肝要ナレハ今ヨリ其ノ成立ノ大體ノ時期ニテモ決定スルコト困難ナリ又首府ノ決定モ豫メ北京南京等ト定メルコトハ臨時、維新兩政府間其ノ他トノ關係ヨリ極メテ機微ニシテ之亦決定ニ至ラサル様承知シ居ルカ何レニスルモ漸次具體的決定ヲ見ル様進行シツツアルモノト思考スト答ヘタルニ武官ハ好ク了承セルモ大使ニハ北京カ非常ニ氣ニ入り居レル旨述ヘ居タル趣ナリ

上海へ轉電セリ

285 昭和14年4月27日 在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側と接触した張熾章の言動につき報告

別電 昭和十四年四月二十七日發在香港田尻総領事

より有田外務大臣宛第五五二号

和平問題に関する張の内話要領

第五五一號(極秘、館長符號扱)

香港 4月27日後發
本省 4月27日夜着

大公報ノ張季鸞ハ政廳側ノ監視ヲ恐レ本官トノ會見ヲ避ケ
來レルカ過般上海ヨリ來香セル波多博ニ對シ二十六日大要
別電第五五二號ノ如キ内話ヲナセリ尙其ノ節ハ舊知ノ間柄
ニモアリ抱キ付イテ嬉ヒ民間ノ同志トシテ和平實現ニ努力
シタシ材料ハ幾何テモアルニ付是非滞在ヲ延期シ協力ヲ與
ヘラレ度シト熱心ニ勸メタルニ對シ波多ハ和平ノ希望アラ
ハ日本ヨリハ寧口重慶カ態度變更ノ先手ヲ何等カノ形式ニ
テ打ツコト肝要ナル旨ヲ一應述ヘ置キタル由同人ハ引續キ
滯留右趣意ニテ連絡啓發ニ當ラシムル考ナリ
上海ヘ轉電アリタシ

(別電)

香港 4月27日後發
本省 4月27日夜着

第五五二號(館長符號扱)

一、重慶側内部ハ黨派、階級、老若ヲ論セス依然蔣介石ノ統

率下ニ在リ共產黨ノ如キモ黨トシテハ其ノ主張ヲ棄テ鋒
芒ヲ現ハシ居ラス其ノ活動ハ河北、山西、山東、綏遠等
占領地域ノ攪亂ニ集中サレ居リ舉國一致ノ抗戰氣分盛ナ
ルカ右ハ英、米、佛、蘇ノ援助ニ依ル變態の熱病トモ謂
フヘク實際ニハ戰爭ニ依ル人的及物的損害夥シク之カ回
復ハ既ニ容易ノ業ニアラス今平和トナルモ果シテ支那カ
立チ直リ得ルヤモ疑ハルル程ニテ内心戰禍カ更ニ増大ス
ルヲ避ケル爲事變ノ終結ヲ欲シ居リ半年カ一年内ニハ何
ントカセサルヲ得サル立場ニ在リ

一、戰爭ノ繼續ハ日本トシテモ蘇聯ノ思フ壺ニ嵌ルモノナル
カ陝西ノ共產軍訓練所ニ在ル學生青年層一萬五千人ノ内
ニハ良家ノ子弟モ相當アリ日支ノ將來ノ爲憂慮セラル

(2)
一、和平實現ノ爲ニハ日本カ先ツ蔣ヲ相手トセストノ聲明ヲ
何等カノ形ニテ緩和シ實際上國民政府ヲ相手トスルコト
肝要ナル處若シ此ノ點日本側ニ妙案アラハ條件ニ付テハ
支那ノ内部ハ容易ニ纏マリ得ル見込ナルカ唯對蘇軍事同
盟ヲ即時締結スルコトハ困難ナリ

一、汪兆銘ハ重慶ニテハ一度モ和議主張ヲ爲サス五全會議ノ
内容ヲ暴露シ(事實其ノ通りナリ)又高宗武ヲ再度日本ニ

派遣スル等其ノ遣口陰謀のナル爲反感甚タシク特ニ軍人側ハ反逆ノ首魁トシテ處斷スルコトヲ主張シ居ル實情ナリ和平ハ一個人ノ私スヘキモノニアラス

一、新聞ニ日本ノ實力ヲ低ク評價シ又與太ノ戰捷記事ヲ書キ居ルハ已ムヲ得サル所ニテ自分ハ素ヨリ重慶側要人モ日本カ先ニ參ルトハ信スル者ナシ

上海ヘ轉電アリタシ

286 昭和14年5月9日 在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛

孫潤宇の時局談につき報告

機密第五三一號 (5月23日接受)

昭和十四年五月九日

在中華民國(北京)

大使館參事官 堀内 干城(印)

外務大臣 有田 八郎殿

前河北省政府孫秘書長ノ時局談ニ關スル件

前河北省政府秘書長孫潤宇(目下閑職ニ在リ)カ當館諜者ニナセル時局談何等御參考迄ニ左記ノ通り報告申進ス

記

一、中央政府樹立問題

臨時政府内ノ各要人中ニ王克敏ニ不滿ヲ懷クモノ少カサル模様ナルカ當分ハ王ノ天下ナルヘシ所謂中央政府ハ汪精衛、吳佩孚合作ノ下ニ組織セラルルヲ最モ適當トス而シ臨時政府維新政府ノ各要人共ニ成立ノ當初コソ餘リ我儘モ言ハサリシカ今日トナリテハ其上ニ支配者ヲ戴クコトハ必ス不服ナルヘキヲ以テ之ニ對シテハ日本ノ力ニテ抑ヘルヨリ外ニ方法ナク先ツ日本側ノ方針ヲ統一スル要アリ然ラスンハ支那側ノ統制ハ素ヨリ中央政府ノ實現モ亦不可能トナラン

二、重慶政府問題

駐支英大使ノ重慶行ニ關シ支那側ノ一部ニハ之カ和平ノ導火線トナルヤモ知レスト想像セルモノアリタルカ其後ノ經過ハ全ク之ニ反セリ同政府ヲ凹マスニハ外交手段ヲ以テ英、米、佛トノ關係ヲ引離スヨリ外良策ナカルヘシ同政府部内ノ暗闘カ割合ニ表面化セス又出先各軍隊カ依然抗日ヲ繼續シツツアルハ一ニ英、米等ノ經濟的軍事的援助カ斷絶セサル結果ナリ從テ王克敏ハ梁鴻志トノ間ニ

之カ對策トシテ一大反英運動ヲ起シ同時ニ天津上海租界
ヲ回收スヘク談合セル趣ナリ

三、汪精衛ノ和平運動

汪ハ曩ニ重慶政府脫出後雲南ニ赴キ同地ノ軍隊ヲ有スル
勢力家ヲ自派ニ引入ルヘク劃策セルモ之ニ失敗シ河内ニ
逃避セル經緯モアリ目下其背後ニ實力者ヲ有セサル同人
ノ和平運動ハ容易ニ成功シ難カルヘシ

四、閻錫山ノ動向

閻錫山ハ元來共產黨トハ相容レサルニ拘ラス之ト抗日ニ
協力シツツアルハ蔣介石ヨリ約束ノ軍資金ヲ受ケ居ル結
果ニシテ萬一右供給杜絶セハ我方ニ抱込ムコトハ絕對不
可能ニ非ス若シ山西、綏遠、甘肅等ヲ一國トスル政府ヲ
造成シ同氏ヲ其長トナシ得レハ時局ノ收拾上多大ノ效果
アルヘシ單ニ北京等ニ形式的ノ反英運動ヲ起シテモ大ナ
ル效果ナカラン

本信寫送付先 上海 南京 天津

(欄外記入)

同ジモノガ他館ヨリ來テ居ルノハ醜態ナリ

昭和十四年六月六日 五相會議決定

「新中央政府樹立方針」

付記一 昭和十四年六月三日

右方針案提案に関する陸軍省軍務局長説明要
旨

二 昭和十四年六月三日、東亞局作成

右方針案に関する外務省意見

新中央政府樹立方針

昭和十四年六月六日

五相會議決定

一、新中央政府ハ汪、吳、既成政權、翻意改替ノ重慶政府等
ヲ以テ其ノ構成分子トナシ支那側ノ問題トシテ此等ノ適
宜協力ニ依リ之ヲ樹立スヘキモノナリ

二、新中央政府ハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シテ日
支ノ國交ヲ正式ニ調整スヘク之カ構成分子ハ豫メ右原則
ヲ受諾スヘキモノナリ

三、新中央政府ノ構成並樹立ノ時期ハ全局ニ亘ル戰爭指導上
ノ段階ニ即シ自主的の見地ニ基キテ律セラル之カ爲特二人

的要素及基礎の實力ノ具備ヲ必要トス

四、支那將來ノ政治形態ハ其ノ歴史及現實ニ即スル分治合作主義ニ則ルヘキモ其ノ内容ニ關シテハ日支新關係調整方針ニ準據シ北支ヲ國防上及經濟上(蒙疆ハ特ニ高度ノ防共自治區域)又揚子江下流域ヲ經濟上ノ日支強度結合地帶トシ南支沿岸特定島嶼ニ特殊地位ヲ設定スルノ外内政問題トシテ支那側ニ委スルヲ本則トシ努メテ之ニ干渉スルコトヲ避ク特ニ新中央政府ノ形態ニ即シ且其ノ爲政者ノ意志ヲ尊重スルト共ニ既成政權ニ對スル我特殊關係ノ處理ヲ考慮ス

五、國民黨並ニ三民主義ニ關シテハ容共抗日ヲ放棄シ親日滿防共ヲ方針トスル如ク改ムルニ於テハ他ノ親日防共ヲ主義トスルモノト等シク其ノ存在ヲ妨ケス

六、重慶政府カ抗日容共政策ヲ放棄シ且所要ノ人的改替ヲ行フコト並前記第一及第二項ヲ受諾シタル場合ニハ之ヲ屈伏ト認メ新中央政府構成ノ一分子タラシム

別紙

「汪」工作指導腹案

一、指導ノ方針

汪ヲシテ吳及既成政權等ト協力シ文武ノ實力ヲ具備セル強力ナル政府ヲ樹立セシム之カ爲先ツ所要ノ準備ヲナサシメ且其ノ間特ニ重慶政府諸勢力就中其ノ要人ノ獲得ニ努力セシム

二、指導要領

1 汪ヲシテ吳及既成政權等ト協力シ強力ナル政府ヲ樹立スル爲所要ノ準備工作ヲナサシム

而シテ準備工作ハ基礎地盤ノ設定、對重慶工作、既成諸勢力ノ糾合、資金準備、兵力整備等ノ各般ニ互ルモノトシ之ニ對スル我方ノ表面的干與ハ努メテ之ヲ制限ス

2 新中央政府ノ樹立ハ我自主的の戰爭指導ノ段階ニ即應シテ律セラルヘク之ニ關シ帝國トシテ汪ニ要望スヘキ條件左ノ如シ

イ、新中央政府樹立準備期間ニ於テ汪、吳、既成政權等相協力シ極力重慶政府諸勢力就中其ノ要人ヲ獲得スルニ努ムルト共ニ基礎地盤ヲ確立シ以テ文武ノ實權ヲ具備セル強力ナル政府ヲ樹立セシム

口、新中央政府ハ日支新關係調整ニ關スル原則ヲ認ム
ヘク之カ樹立時機竝其内容等ハ右準備工作ノ進展、

就中人の要素及基礎の實力ノ具備ノ報度^報ニヨリ日本
側ト協議ノ上之ヲ定ムルモノトス但シ支那將來ノ政

治形態ハ分治合作ノ主義ニ則リ其内容ハ日支新關係
調整方針ニ準據シ北支ヲ國防上及經濟上(蒙疆ハ特

ニ高度ノ防共自治區域)又揚子江下流地域ヲ經濟上
ノ日支強度結合地帶トシ南支沿岸特定島嶼ニ特殊地
位ヲ設定スルコトヲ受諾セシム、又既成政權ニ對ス

ル我特殊關係ニ就テハ十分考慮セシム

ハ、國民黨竝ニ三民主義ニ關シテハ容共抗日ヲ放棄シ

親日滿防共ヲ方針トスル如ク改ムルニ於テハ他ノ親
日防共ヲ主義トスルモノト等シク其存在スルヲ妨ケ

ス

二、事變中我カ占據地域内ニ於テハ日本側ノ認メサル

國旗等ヲ掲揚スルヲ許サス

三、所要經費

本工作實施ノ爲既定經費以外ノ支出ヲ必要トスル場合ハ

別途考慮スルモノトス

四、本工作ニ關シテハ日本側トシテ必要ノ積極的內面支援ヲ
與フルモノトス

(註) 吳及既成政權等ニ對シテモ亦汪ト協力セシムル如
ク工作スルモノトス

(備考)

應對要領

(イ) 事變處理ノ方針ヲ自主的ニ堅持シ其根本方針ニ就テ
ハ汪ヲシテ服從セシムルモ其他ハ彼ノ意志ヲ暢達セ
シメテ前途ノ光明ト絶對信賴ノ印象トヲ附與ス

特ニ東亞新秩序建設乃至日支關係調整ニ關スル信念、

事變處理ニ關スル決意竝我正義ト寛容トヲ宣示スル

コトヲ主眼トシ細部ニ迄立入りテ詮議立テセサルモ
ノトス

(ロ) 汪ニ面接スル範圍ハ五相及近衛前總理ト豫定ス

(付註一)

新中央政府樹立方針ニ就テ軍務局長説明要旨

六月三日 於第一會議室

御手許ニ差上ケタ新中央政府樹立方針ニ就テ御説明申上ケ

マス

(主任者ヲシテ朗讀セシム)

本案ノ基本的觀念ヲナスモノハ新中央政府ヲ何故ニ樹立セ
ネハナラヌカ。又之レカ樹立方針ハ如何ナル考ヘニテ決定
セラルヘキカノ問題テアリマス。此ノ事ニ關シマシテハ次
ノ様ニ考ヘテ居ルノテアリマス

(別紙ノ要旨説明)

次ニ内容中ノ要點ヲ説明シマス。第一項ノ構成分子中總意
改替ノ重慶政府トハ蔣介石及共產黨ヲ除イタモノカ抗日
容共政策ヲ放棄シタ場合ニ起リ得ルモノテアリマシテ重慶
政府カ一括シテ來ル場合ト其ノ内ノ部分的分子カ入ル場合
トヲ考ヘテ居リマス

第二項ノ日支新關係調整ニ關スル原則トハ日支新關係調整
方針中支那側ニ示スヘキ原則テアリマシテ其ノ内容ハ必要
ニ應シ別ニ定メラルヘキモノテアリマス

第三項ハ只今説明シタ通り帝國ト致シマシテハ今後ノ推移
ニ應シ如何ナル中央政府ヲ樹立スヘキカト云フ方針ヲ極メ
マシテ必要ナル内外諸般ノ準備ヲ整ヘ十分ナル決意ト責任
トヲ以テ自主的ニ之カ方針ヲ決定スヘキモノナルコトヲ明

示シタノテアリマシテ殊ニ樹立セラルヘキ中央政府カ人的
要素及基礎の實力ヲ具備スルヤ否ヤハ帝國ノ態度決定ノ要
素テアルト考ヘテ居ルモノテアリマス

第四項ノ政治形態ニ就テハ日支新關係調整方針ニ明示サレ
テ居ルノテ別ニ説明ヲ要シナイト思ヒマスカ南支沿岸特定
島嶼ノ件ハ主トシテ軍事上ノ問題テアリマシテ政治的ニハ
主トシテ厦門ヲ指シテ居ルノテアリマス

第六項ハ重慶政府カ如何ナル場合ニ新中央政府構成ノ一分
子タルカヲ明ニシタノテアリマスカ帝國カ蔣介石ヲ相手ト
シ之ヲ中央政府ノ首班トスルカ如キ事ハ絕對ニアリ得ナイ
問題テアルコトハ申ス迄モアリマセン

次ニ別紙ニ就テ御説明致シマス

別紙ハ汪ヲ中心トシテノ指導ノ腹案テアリマシテ今後ノ指
導上多少ノ裕リノアルモノテアリマス

第一ノ指導方針ハ中央政府樹立ノ爲ノ準備ヲ主眼トシテ居
ルノテアリマシテ今後ノ汪工作ハ準備ニ重點ヲ指向スヘキ
モノト考ヘテ居マス

尙既成政權等トアルノハ重慶政府諸勢力以外ノ黨派等ヲ指
スノテアリマス

第二ノ指導要領ノ1ハ前述ノ方針ニ基キ準備工作ノ内容ヲ列舉シ成ル可ク表面ハ彼等自體ノ力テヤル様ニ仕向ケ帝國トシテハ內面的ニ支援ヲ與フル如クシ度イト考ヘテ居ルノデアリマス

2ハ新中央政府樹立ノ條件デアリマシテ此ノ點ハ既ニ新中央政府樹立方針ニ就テ御説明申シ上ケテアルノテ詳細ノ説明ヲ省略致シマス

別紙

新中央政府樹立ノ必要ト之レカ決定ニ關スル

帝國ノ態度ニ就テ

(昭和四、五、三)

一、事變ノ長期持久化ニ伴ヒ擴大セル占據地域ノ治安維持、民心安定ノ施策等ヲ適切強力ナラシムル爲今ヤ從來ノ既成政權ノミヲ以テシテハ満足シ得サル事態ニ當面セリ

一、一方蔣政權ハ打續ク敗戦ノ重壓下ニ其基礎弱化石和平反戰ノ空氣濃厚トナリ帝國カ茲ニ不退轉ノ決意ト責任トヲ以テ和平ヲ標榜スル中央政府ノ出現ヲ支持スルトキ時局解決ノ見透シ必スシモ困難トセス

一、更ニ對第三國關係ニ就テ見ルニ英米等ハ帝國ノ決意ト實力トニ對スル認識ヲ缺キ時局ノ推移ヲ憂慮シツツモ尙且援蔣行爲ニヨリ帝國ノ企圖ヲ斷念セシメ得ルカノ如キ錯覺ニ陥リツツアリ

從テ帝國カ斷乎タル決意ヲ以テ重慶政府ニ代ルヘキ新中央政府ノ出現ヲ支持スルコトハ自己ノ利害ニノミ立ツ彼等ニ對シ根本的反省ヲ促ス機會ヲ與フヘク殊ニ租界工作或ハ通貨對策等ヲ徹底化スル爲ニハ中央政府ノ出現ヲ絶對ニ必要トスヘシ

一、讎テ帝國國內ノ情勢ヲ見ルニ事變ノ持久化ト作戰ノ一段落トニ伴ヒ事變見透シニ對スル國民ノ焦慮覆ヒ難キモノアリテ中央政府ノ出現ヲ要望スル聲モ漸ク旺ントナリツツアリ

一、以上客觀的ニ見ルトキ強力ナル統一政府カ成ル可ク速ニ現出スルノ必要ナルコトハ何人モ認ムル所ナルヘシ

一、然レトモ此場合現出スヘキ中央政府ハ自力ヲ以テ事態ヲ解決スルニ足ルヘキ實力ヲ具備スルコト肝要ニシテ此期待ニ應シ得サルカ如キ微力ナルモノナルニ於テハ却テ帝國ノ負擔ヲ大ナラシメ事變處理ノ爲必スシモ有利ナラス

ト史料セラル

一、今觀點ヲ別ニシテ新中央政府ノ實體ヲ考フルニ概シテ次ノ二案ニ大別セラルヘシ

(一)ハ帝國ト正式ニ國交ヲ調整スルノ對象タリ得ヘキ實力ヲ具備スルモノニシテ此場合ニ於テハ重慶政府ノ全部又ハ大部ハ右政府ノ構成分子タルカ或ハ事實上壞滅シアルヘキコトヲ考ヘラルルモノニシテ右ノ如キ政府ノ出現ハ事變解決上最モ希望スル事態ト言ヒ得ヘシ

(二)ハ單ニ皇軍ノ獲得セル占據地域ヲ地盤トシテ之レ等ノ地域ヲ糾合シテ帝國ノ企圖スル事變處理ニ隨伴スル所ノ新中央政府ナリ、而シテ此場合ニ於テハ新中央政府自體ノ力ニヨリ事變ヲ解決スルコトニ付テハ多ク期待シ得サルモノナルコトヲ覺悟セサルヘカラス從テ斯クノ如キ中央政府ヲ樹立スルニ付テハ帝國トシテハ事變解決ヲ近ク豫定スルコトナク大持久戰爭ノ決意ヲ以テ其指導ヲ強化徹底スル事絶對必要ナリ而シテ此場合ニ於テモ重慶政府諸勢力ノ切崩、獲得等ニハ依然努力セシムヘキモ新中央政府ト重慶政府トノ對立状態ノ現出ハ豫期セサルヘカラス

一、從テ重慶政府ヲ含ム中央政府ノ出現スルコトハ他ノ客觀的條件ヲ白紙ニシテ考フルトキハ事變解決ノ爲最モ希望スヘキ方式ナリト言ヒ得ヘキモ之レカ實現ニ關スル見透シト前述ノ如キ内外諸般ノ情勢ヨリ考察スルトキ此希望ニ執着スルノ餘リ延テ起ルヘキ各般ノ弊害ニ付テモ亦深ク省察セサルヘカラス

殊ニ之レカ見透シニ重大ナル示唆ヲ與フルモノハ今次ノ汪ノ來朝ニシテ此機會ニ時局收拾方策ニ關スル汪ノ本心ヲ十分聽取シ殊ニ重慶政府諸勢力就中其要人獲得方策等ニ付一切ニ拘泥スルコトナク彼ノ眞底ヲ究明スルト共ニ彼ヲシテ今後ノ準備就中重慶政府勢力ノ獲得ニ全力ヲ傾注セシメ之ニ對シ帝國トシテ積極の内面支援ヲ與フルコトニヨリ期待スヘキ中央政府ノ輪廓ヲ明瞭ニシ得ヘク之ニ基キ帝國ノ採ルヘキ方策モ自ラ決定スルモノト考ヘアリ

一、即チ帝國トシテハ以上内外ノ情勢並諸工作準備ノ關係等ヲ考慮シ概ネ年内ヲ目途トシ汪ヲシテ重慶ヲ含ム中央政府ノ現出ニ努力セシメツツ已ムヲ得サル場合ニハ重慶ヲ含マサル政府ノ樹立スルコトアルヲ豫期シ之カ爲ニ必要

(欄外記入)

ナル内外諸般ノ準備就中大持久戰移行ニ關スル施策ヲ強化シ情況特ニ右諸準備促進ノ情勢ニ鑑ミ全局ニ互ル戰爭指導上ノ見地ニ基キ決意ト責任トヲ以テ如何ナル中央政府ヲ樹立スヘキヤ、竝其時機ヲ決定スヘキモノナリトス

(付記一)

新中央政府樹立方針ニ關スル意見

昭和十四年六月三日

東 亞 局

一、速ニ新中央政府樹立工作ヲ促進シ今秋(能フ限り双十節ヲ目標トス)之カ實現ヲ期ス

二、所謂準備工作ニ依ル實力具備ヲ俟チ中央政權ヲ樹立スルニ非スシテ先ツ汪工作ヲ基幹トスル中央政權ヲ樹立シ之ニ依リ中國各派ヲ吸收シ政府ノ基礎ヲ鞏固ニスルト共ニ重慶政權ノ崩壞ヲ期ス

三、中央政府成立ノ上ハ帝國政府ハ適當ノ時期ニ之ヲ承認シ帝國ノ牢固タル決意ヲ中外ニ宣明シ以テ帝國々策ノ進路ヲ確立シ一ハ列國ノ援蔣ヲ斷念セシメ他面支那要人ヲシテ反共和平ノ決意ヲ固メシム

四、帝國ノ外交ハ右國策ノ遂行ニ副フ如ク之ヲ調整スルモノトス

(欄外記入)

昭和十四、六、三、栗原東亞局長ヨリ陸軍町尻軍務局長ニ手交セリ

288 昭和14年6月6日

陸軍省部で起草した吳佩孚工作の指導腹案

「吳」工作指導腹案

昭和十四年六月六日

陸 軍 省 部 案

一、指導方針

吳佩孚ヲシテ新中央政府樹立方針ニ即シ「汪」工作ニ協力策應スル如ク蹶起セシムルニ在リ

二、指導要領

1. 吳ヲシテ實際的ニ出馬シ汪ニ合作セシム

汪、吳兩者合作ニ關スル折衝ハ主トシテ汪、吳相互ニ

實施セシムルモ日本側ハ之カ具現促進ニ關シ積極的ノ理解ト援助トヲ與フルモノトス

2. 吳ノ名義ヲ以テ實施スル重慶政府ノ軍權切崩シ工作ハ之ヲ益々強化ス、右工作ハ同時ニ新中央政府ノ軍隊建設工作ノ意義ヲ有スル如ク指導スルモノトス

三、所要經費ニ關シテハ別ニ定ム

289

昭和14年6月10日

在香港田尻總領事より
有田外務大臣宛(電報)

重慶政權の外交政策や内政事情に関する諜報報告

香港 6月10日後発

本省 6月11日前着

第七四六號

⁽¹⁾重慶側内情ニ關シXYZカ各方面ヨリノ聞込ヲ綜合シ内報セル所左ノ通り

重慶方面數月來ノ國策ハ政治主。軍事主。守ニシテ政治ハ特ニ外交ニ重キヲ置キ居レリ

一、外交ニ付テハ英蘇接近ノ傾向アルヤ重慶ハ國際調停說ヲ拋棄シ反侵略陣營ヘノ加入ヲ企圖シ英蘇協定中ニ極東ノ

紛争包括方ヲ希望セルモ英國ノ同意ヲ得ラレス見込違ヒトナレル爲今ヤ工作ノ目標ヲ主トシテ米國ニ集中シ來リ同國ノ對支援助不徹底ニシテ軍需品ノ對日輸出モ猶未タ停止サレサル現狀ニ顧ミ其ノ傳統的極東政策ノ運用ニ依リ日本ノ行動ヲ掣肘セシムル様仕向ケントシツツアリテ孔、孫、馮等胡適反對ノ先鋒連中ハ胡ノ交迭ヲ主張シ居ル一方對外宣傳亦米國ニ主力ヲ注キ宣傳下手ノ胡ノ輔佐役トシテ于斌、張彭春、梁士純及紐育中國商會長李國欽其ノ他教會牧師等多數ヲ特派シ(往電第⁽²⁾六八〇號參照)每月四、五萬米弗ヲ支出シ居レリ

二、内政方面ニ於テ重慶ノ當面セル困難アリ即チ

(一)龍雲ハ依然雲南王トシテ容易ニ中央ニ服從セス殊ニ龍汪會見後ハ益不安アル爲重慶ハ周鐘嶽ヲ内政部長ニ据エ龍ノ懷柔ヲ策シ居ルモ(往電第⁽²⁾六八四號)現ニ過般汪精衛ニ與ヘタル書面ノ如キ王ト會見セシ當時ノ實際トハ符合セサル點モアリ五月初旬重慶ヨリ派遣ノ三團ノ憲兵カ雲南入境ヲ拒絕サレ又數次重慶側ヨリ軍事委員會及中全會列席ノ爲龍ノ來渝方勸告ニ對シ其ノ都度口實ヲ設ケ出席セサル等龍ハ油斷ナリ難キ存在ナリ

(二) 盛世才ハ蘇聯ノ技術人材物資ヲ利用シ建設ニ努力中ナルモ決シテ共產黨ニアラス唯重慶側一部ニ從來盛追出シノ計畫(昨年秋某重要軍人ハ二、三師派遣ノ上盛ノ追出シ方主張セシコトアリ)又以前新疆往訪ノ中央派遣員力種々盛ニ不利ナル舉動ヲ爲セルコト發覺セシコトモアル由)アルニ顧ミ其ノ地盤維持ニハ汲々タリ中央派遣員ニ對シテハ極度ニ警戒シ概ネ其ノ入境ヲ拒絕スルノ態度ニ出テ纔ニ蘇聯ヨリノ軍需品通過ヲ認メ居ルノミニシテ中蘇航空聯絡カ一回限りニテ停止セシハ盛ノ反對ニ依ルモノト見ラル

(三)³⁾ 國共兩派ハ戰時緊張時ニハ合作シ屏息時ニハ反目ヲ起スコト過去二十四箇月ノ常例ニシテ現ニ暗鬭頗ル猛烈ナリ尤モ國民黨ノ上層部ニ於テハ大局の見地ヨリ單ニ消極のニ共產黨ノ活動ヲ制止シ或ハ共產黨入り青年ヲ横取スル等其ノ反共的態度微温のナルニ反シ下級幹部ハ積極のニシテ印刷物ニ依ル公開の反對、共產黨員ノ逮捕事件等屢次發生シ居レル處(往電第七二三號參照)國民黨ノ反共工作ハ大シタ效果モ舉リ居ラサル模様ナリ

(四) 白崇禧、陳誠等ハ政治改革ヲ熱心ニ希望シ居リ五月初旬以來孔祥熙ヲ辭職セシメ蔣ヲシテ院長ヲ兼任セシメントシ右ハ差當リ實現ノ模様ナキモ漸次重要ナル政治問題化シツツアリ

三、軍事方面ニ付テハ蔣ハ第三次參政會中假令武器彈藥供給斷絶ストモ二箇年ヲ支フルニ充分ナリト豪語セル處右ハ軍事主守ヲ支持シ同時ニ消極退守ヲ意味ス軍事狀況ノ詳細ハ判明セサルモ新軍編成ノ地點ハ僅ニ廣西、貴州、甘肅ノ三省ニ過キス(四川ハ土匪横行シテ手ノ着ケ様ナシ)更ニ軍事防守モ晋南鄂北方面ニ重點ヲ置クノ外ナキ状態ナリ

四、⁽⁴⁾ 經濟建設ニ關シテハ後方工業建設ノ如キ全く紙上計畫ニ過キス漢口方面(大部分ハ上海ヨリ來レルモノ)ヨリ四川へ移入セシ機械ハ三萬餘噸工場合計二百餘軒ナルモ都市ノ爆撃ニ依リ動力供給困難ニシテ操業ヲ開始セシモノ少ク民間日用品自給ノ程度ニスラ達セス昆明方面ニテ準備中ト稱セラル製紙、「セメント」、製粉等^(粉カ)各工場ノ如キモ亦口頭禪の宣傳ニ過キス(之ニ對シ上海租界内工場ハ半年内二千餘軒ヲ増加セルハ注意ヲ要ス)最近重慶方面ハ

萬策盡キ已ムヲ得ス退イテ教會西洋人主唱ノ中國工業合作社運動ニ贊同シツツアル處右ハ一種ノ商工業遊擊運動

ニシテ注意ヲ要スル現象ナルモ之ヲ以テ後方ニ於ケル民生問題ヲ解決シ得ト見ルハ誤ナリ

上海、北京へ轉電アリタシ



290 昭和14年7月7日

事変二周年に際しての有田外相談話

昭和十二年七月七日、蘆溝橋事件勃發以來既ニ二周年ヲ閱シタ。ソノ間、皇軍ノ武威ハ全支ヲ風靡シ、西南ノ輿地ニ逃竄シタ蔣政權ヲシテ愈々最後ノ沒落段階ニ於ケル苦惱ヲ深刻ナラシメテキル。即チ敗戦ヲ重ネタ軍事の勢力ノ頽廢ハ、最近ノ所謂第二期抗戦局面ニ於テ、ソノ無力ヲ遺憾ナク暴露シ、且ツ多大ノ期待ヲ掛ケタ「ゲリラ」戦法カ、多クノ第三國觀察者ノ證言ニ待ツマテモナク、全ク無價値ナコトカ實證サレタ。而シテ蔣政權カ赤化勢力ト苟合シテソノ驅使ニ甘シ、支那民衆ノ堪ヘ難キ犠牲ニ於テ無益ノ抗戦ヲ繼續スル妄狀ニ不滿ヲ抱ケル憂國ノ國民黨員ノ間ニハ、

和平要望ノ機運カ日ニ増シ昂騰シ、重慶政權ノ内部の崩潰ノ豫兆ヲ顯然タラシメテキル。且ツマタ主要都市並ニ海港ノ占領ト沿岸航行遮斷ノ強化カ抗戦經濟力ニ致命的打撃ヲ加重シ、全面的潰滅ニ拍車ヲ掛ケテキル實狀テアル。我國ハ帝國ノ道義的的使命ノ達成ヲ期シ、東亞新秩序ノ建設ニヨリ世界ノ進運ニ寄與セントスルモノテアルカラ、毫モ第三國ノ經濟的權益ヲ毀損セントスル意圖ナク、常ニ之カ尊重ニ深甚ノ考慮ヲ拂ツテキルノテアル。然ルニ支那ヲ依然トシテ半植民地扱ヒニスル舊觀念ヲ持スル第三國カ、我カ平和的意圖ヲ理解セス、支那ニ生起シツツアル現實ノ新事態ニ目ヲ蔽ヒ、蔣政權援助ノ態度ヲ捨テス、之カタメニ無用ノ紛議ヲ繁カラシメテキルノハ遺憾ニ堪ヘナイ。殊ニ「コミンテルン」ノ破壊の魔手カラ援蔣政策ノ名ニ隠レテ、赤化陰謀ヲ露骨ニシ、各種陰險ナル策謀ヲ弄シテキル事實ハ、防共ヲ今次聖戰ノ主要眼目トスル帝國ノ斷シテ默視シ得サルトコロテアル。

斯クテ我等ハ事變窮極ノ目的達成ノ途上ニ、尙ホ幾多難關ノ存スルコトヲ覺悟シナケレハナラナイカ、堅忍不拔ノ精神ヲ持シ、國際正義ト防共ノ大旆ノ下ニ、東亞民族ノ自主

自存ノ理想ヲ實現シ、平和的新體制ノ樹立ヲ全ウセサレハ
已マサル決意ヲ、此機會ニ新ニセンコトヲ欲スルモノテア
ル。

編注 本文書は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第四號)から抜粋。

291 昭和14年8月31日 在香港田尻総領事より
阿部(信行)外務大臣宛(電報)

孔祥熙が阿部新内閣の和平促進に期待してい
るとの喬輔三内話について

香港 8月31日後発
本省 9月1日前着

第一一七一號

三十日夜喬輔三八館員ニ對シ民衆ハ戰爭ノ慘禍ヨリ日本ヲ
恨ム半面強ク生活ノ安定化ヲ欲シ知識分子及上級階級ハ現
下ノ混亂セル國際關係カ結局歐米各國ノ利害ヨリ發シ何等
日支兩國ニ寄與セサルコトヲ看取戰爭繼續ノ無意味ヲ悟リ
各方面ニ平和促進ノ希望増大シ來レルカ汪ノ運動ハ信望モ

ナク實力モ缺ケル爲之二依テ全國ノ抗戰人氣ヲ轉換シ和平
百年ノ基礎ヲ固ムルカ如キハ先ツ困難ナルヘシ孔祥熙ハ日
本新内閣ニ多大ノ期待ヲ掛ケ居ル旨述ヘタルヲ以テ館員ヨ
リ何時モノ事乍ラ孔ノ和平希望カ實力派ヲ指導シ得ル確タ
ル成算アリテノコトナラハ其ノ具體的意見ヲ承知シタシト
應酬シ置ケリ

292 昭和14年9月2日 在香港田尻総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

事変処理は従來の経緯にとらわれず白紙に
還って再検討の必要ある旨意見具申

香港 9月2日後発
本省 9月3日前着

第一一七七號(館長符號扱)

⁽¹⁾、我事變收拾策ハ汪精衛ヲシテ統一政府ヲ組織セシメ速ニ
之ニ國際性ヲ與ヘ其ノ力ニ依リ重慶政府ノ瓦解乃至吸收
ヲ計ルニ在リト承知シ居ル處重慶ノ陣營ハ大ナリ小ナリ
幾多ノ綻ヒノ徵候ヲ見セ乍ラ對日抗戰ノ氣分衰ヘス支那
人ノ人氣ハ依然汪ヨリハ蔣介石ニ集マリ彼カ重慶ノ頭目

トシテ存在スル限り容易ニ其ノ團結力崩壞スルモノト考
ヘラレス依テ我方ハ新政府ノ組織及充實ヲ急キ又長江上
流及兩廣方面等ニ於テ重慶ニ對シ更ニ軍事的大打撃ヲ與
ヘ以テ重慶内部特ニ國共間ノ破綻ヲ擴大スルカ如ク施策
スルト共ニ新國際情勢ニモ鑑ミ第三國ヲシテ新政府ニ協
力セシムル一面所謂援蔣政策ヲ放棄セシムル爲ノ努力
愈々必要トナリツツアル處果シテ其ノ名ニ叛カサル程度
ニ充實セル統一政府カ成立シ財界ヲ始メ青年層及華僑等
ノ人心ノ轉換把握ヲ圖リ得ヘキヤ又必要ナル作戰カ近ク
實行サレ重慶カ崩壞スヘキヤト云フニ樂觀シ得ヌ事態ニ
在リト判斷セラレ一方蘇聯ノ態度ニハ注意ヲ要スヘク伊
太利ハ問題ナカルヘキモ獨逸カ新政府ヲ直ニ承認スルヤ
ハ怪シクナリ又英國ニ對シテハ後述ノ通り余リニ多クヲ
期待スルコトハ誤算ナルヘシ
然リトセハ事變ハ新政府ト重慶トノ長期對立トナリ終結
ハ早急ニハ望ミ難ク我方トシテ成ルヘク速ニ自由ナル立
場ニ還リ國際政局ノ變轉ニ對處セントスルモ當分ハ否應
ナシニ事變處理ニ縛ラレ對内的ニ必要ナル經濟政策ノ實
行ハ遷延セラレ外交的ニ打チタキ手モ打テヌ狀態ヲ續ク

ルノ外ナキヲ惧ル

二、獨蘇協定締結及日獨伊軍事同盟ノ不成立ハ英米ニ對日關
係改善ノ希望ヲ與ヘ特ニ英ハ獨逸包圍政策ノ破綻ヨリ歐
洲ニ於ケル地位一層不利トナリ東亞ニ於テ日本トノ妥協
ヲ欲スルモノト認メラレ我方トシテモ此ノ際兩國關係ヲ
調整シテ之ヲ事變解決ニ利用スル策ヲ樹テ東亞新秩序建
設ノ前提タル和平ヲ速ニ招來スルコトヲ緊要ナル處支那
ヲ速ニ半植民地ヨリ開放セントスル我方針ハ堅持スヘキ
ノミナラス内外ノ情勢上種々ノ行懸モアリ右調整ニハ幾
多ノ迂餘曲折アルヘク果シテ近キ將來ニ之ヲ期待シ得ヘ
キヤ即チ對英問題ニ對シテハ占領地ニ關スル有田「クレ
ーギー」協定ヲ一般の援蔣政策ノ拋棄ニ迄押進メ行クコ
ト我既定方策ナルヘク而シテ我方カ英ノ立場乃至面目ヲ
或程度ニ認メヤル用意アリ其ノ全面的屈伏ヲ強ユルニア
ラサレハ(絕對必要ナル一面餘リ無理ヲ伴ハヌ壓迫ヲ必
シモ排除セス)英モ相當我主張ヲ容レ來ルヘキ處英カ占
領地新政府ヲ承認スヘキヤ又未占領地、緬甸特ニ香港ニ
於テ援蔣態度ヲ拋棄シ(廣東發香港宛電報第一九八號參
照)又ハ重慶ノ抗戰繼續ヲ「デイスカレチ」スル迄ニ其

ノ態度ヲ根本的ニ變更シ來ルヘキヤ疑問ナリ

結局速急事變終結ニ英ヲ利用セントスルモ質的、時間的
 二限度アルヘク又東亞ニ於テ比較的の自由ナル立場ニ在ル
 米ハ必スシモ英ト常ニ撥^{撥カ}ヲ合セ來ラサルコトモ帝國トシ
 テ留意ヲ要スヘキ處何レニモセヨ國際會議ノ陷穽ニ引懸
 ルコトナク且如上考慮ノ下ニ先ツ對英外交方針ヲ確立實
 行スヘキ時機到來セリト認メラル

三、茲ニ注意スヘキハ最近當方面ニ擡頭シ來レル重慶トノ和
 平説及汪ニ對スル人氣ナリ即チ重慶ハ我方カ之ヲ相手ト
 セサル限り抗戰ヲ繼續スヘキモ相當ニ弱リ込ミ和平氣分
 強キコトモ亦事實ニシテ汪ニ對スル反對ハ主張ノ相違ヨ
 リモ寧口出シ抜カレタト云フ感情的ノモノ多分ニ存スル
 ヲ以テ若シ日本カ重慶ヲ相手ニセハ汪トノ關係調整ニ付
 テハ多少曲折アランモ和平條件ノ如キハ問題ナク纏マル
 ヘシ何故ニ日支双方ハ歩寄リノ方式ヲ眞面目ニ考ヘサル
 ヘキヤ

⁽⁴⁾又日本ノ朝野ニ於テハ統一政府ニ依リ且之ノミニ頼リ新
 支那カ生レ東洋ニ眞ノ平和招來サルヘシトノ期待アルヘ
 キモ如何ナル支那政府ト雖新裝國家思想ノ澎湃タル潛勢

力ニ逆行シ得サル立場ニ置カルヘキ今日汪カ日本ニ約束
 シ得ルコトハ重慶モ亦内心考ヘ居ルコトニシテ而モ夫レ
 以上ニ出テス又日本カ現ニ汪ニ要求シ得ルモノハ汪ノ約
 束ニ依リ實現スルニアラスシテ日本ノ實力ニ依リ實現セ
 シメ得ルニ過キス結局日本ノ實力ノミカ最後ニ物ヲ言フ
 譯ナリトセハ日本ハ之以上戰禍ノ擴大ニ依リ民衆ノ反感
 ノ深刻化スルヲ防ク一方日支ノ和平ニ依リ相共ニ歐米ノ
 新情勢ニ善處スヘキモノニシテ今ヤ最後ノ「チャンス」
 到來セルカ之ニハ蔣介石ヲ日本カ利用スルコト最捷徑ニ
 シテ至急實現ヲ要ストノ主張各層支那有力者間ニ力説サ
 レ來レルハ一方汪ニ對シテハ遂ニ國家ノ將來ヲ託スルニ
 足ル人物ナラストシ從來示サレタル關心カ近來急速度ニ
 冷却シツツアルハ事實ナリ(日本カ徹底的ニ彼ヲ支持ス
 ルヤニ對シテモ猶疑深シ)

⁽⁵⁾四、右和平論ハ日本及汪從來ノ主張及立場ヲ如何ニ取扱ハン
 トスルヤ例ヘハ重慶カ汪ノ主張ヲ容認シ時局ノ解決ヲ彼
 ヲ首班トスル代表又ハ改組政府ニ一任スト云フカ如キ何
 等ノ具體案ヲ伴ハス從テ實際運動トハナラサルモ一面ヨ
 リ見レハ重慶側及眞面目ナ支那人カ國際新情勢ニ依リ脅

威ヲ受ケ居ル證左ト認メラレ日本政府ニ於テ新情勢ニ對處スル爲事變收拾ヲ急ク要アリトセハ以テ利用スヘキ動向ナルヘシ素ヨリ斯ク言ヘハト汪精衛工作ヲ始メトシ

從來ノ方針ニ依ル對支諸般ノ工作ヲ直ニ中絶スル意味テモナク第三國關係ノ調整ヲ計リ時局收拾ニ之ヲ利用スルコトヲ排除スルモノテモナク寧口之等ヲ先ツ速急ニ進展セシムルコトニ依リ重慶ニ更ニ強キ壓迫感ヲ與ヘ始メテ實行性ヲ具現シ來ル性質ノ動向ナルヲ以テ當方トシテハ引續キ既定方針ノ下ニ微力ヲ盡シ居ル次第ナルカ政府ニ於テ之等諸問題ヲ中心トシ事變處理方策ニ對シ一應白紙ニ還リ再檢討アルコトモ肝要ナルト共ニ新聞通信等カ憶測ヲ加ヘタル放送ヲ續ケ居ル際成ルヘク速ニ明確ナル御指示ヲ仰度シト存シ當地限りノ情勢觀測及卓見電報ス上海ヘ轉電アリタシ

293

昭和14年9月7日

在上海三浦總領事より
阿部外務大臣宛(電報)

岩井副領事による政治工作の進展に伴い工作

費支出方稟請

第二五四九號(極秘、館長符號拔)

上海 9月7日後発
本省 9月7日夜着

豫テ岩井ニ於テ努力中ノJK工作ハ單ニJKノ轉向ニ依ル大「センセイシヨン」ヲ狙ヒ居ルノミナラス同人及同人トノ連絡者XYヲ中心ニ重慶側少壯有爲分子ヲ吸收シ(今般來滬セルXYZモ元來徹底セル反國民黨、反蔣ナルカ期セスシテ岩井ト同様新勢力ノ結成ニ依リ汪ノ援助ヲ考ヘ居リ本工作ノ重要幹部トシテ參加ノ可能性アリ)汪ノ率ユル國民黨ニ優ルトモ劣ラサル一大親日勢力ヲ結成シ(新黨組織ヲ目標トス)一面新中央政權ノ強化ニ資スルト共ニ他面動モスレハ一黨專制ニ墮セントスル國民黨一派ノ陰謀ヲ牽制シ公明ナル政治ト一貫シテ變ラサル對日親善政策ヲ堅持セシメントスルニ在リ從テ本工作ハ今直ニ汪側ト直接合作スル譯ニアラサル關係上汪ノ工作關係者トノ間ニ何等誤解發生ノ惧モアリタル處今般岩井ヨリ陸軍側影佐、今井、海軍側菅ニ工作目的ノ大要ヲ内話シ軍側ノ協力ヲ求メタル趣ナルカ何レモ贊成ニシテ工作ノ成功ノ一日モ早カランコトヲ切望シ居リ必要ニ迫ラレタル本工作ノ準備事務所モ軍側ヨ

り提供ヲ受ケ本工作モ愈々本格的活動ニ入ルコトナレリ然ルニ本工作ノ重要人物タルJKノ決意ヲ更ニ固メシムル必要上香港總領事館側ニ於テ同人ノ活動ヲ援助スル(本官發香港宛電報第一二五號參照)外最モ重要據點タル當地ニ於テ差當リ相當強固ナル活動ノ地盤ヲ作り行ク必要アリ右ニ基キ昨今藍衣社ノ有力分子ノ抱込工作ハ既ニ積極的ニ進メラレ又青年「インテリ」分子ノ抱込乃至一般民衆ニ對スル宣傳及組織工作ニモ將ニ着手スル許リニ進捗シ居リ又固ヨリ本工作ノ詳細且具體的ナル計畫ニ至リテハ目下關係者ニ於テ銳意作成中ニテ何レ九月末來滬ノ筈ナルJKトモ協議報告ノ筈ナルモ御承知ノ通り此ノ種工作ヲ此ノ程度ニ持來ス迄ニハ從來ノ個人的友誼關係カ物ヲ言ヒ左程ノ經費ヲ要セサルモ愈々自今本格的活動ヲ開始セハ先立ツハ金ニシテ例ヘハ事務所開設費、事務所用自動車ノ購入費、關係者身邊保護費等ハ勿論宣傳ニ、組織ニ相當潤澤ナル經費ヲ持ツ必要アリ就テハ右様事情篤ト御諒察ノ上差當リ谷公使及森島參事官時代ノ了解ニ基ク政治工作費(曩ニ御支給ヲ受ケタル經費殆ト残り少シ)三箇月分十五萬圓至急御電送相成様致度ク何分ノ儀御回電請フ

香港へ轉電セリ

294

昭和14年9月9日

在北京堀内大使館參事官より
阿部外務大臣宛(電報)

蔣介石の防共共同戦線参加を企図した興亜院の張群に対する工作には北支那方面軍などに
反対がある旨報告

付記一 昭和十四年九月十一日、梅機関作成

「張群問題ニ關スル汪側ノ意向」

二 昭和十四年九月十五日、興亜院華北連絡部政

務局調査所作成

スチュワート工作に關する王克敏内話情報

三 昭和十四年九月十六日、興亜院華北連絡部政

務局調査所作成

右王克敏内話情報統報

北京 9月9日後発

本省 9月9日夜着

第一〇三二號(部外絶對極秘、館長符號扱)

往電第一〇一七號ニ關シ

連絡部政務局係官ノ内報左ノ通り

當地連絡部ヨリ華中連絡部經由影佐少將ニ對シ本件王克敏ノ意嚮ニ付竹内^(編註)ノ意見ヲ聽取方打電セル處興亞院中央部ヨリ當地連絡部ニ對シ歐洲情勢ノ變化ニ際シ蒋介石ヲシテ防共共同戰線參加ヲ表明セシムルハ極メテ好都合ニ付張群ヲ北京ニ引張り出シ右工作ヲ進行セシメテ然ルヘキ旨來電アリタル由ナリ右ニ對シ當地軍、連絡部トモニ蒋介石ニ對スル工作ハ竹内工作ニ多大ノ支障ヲ來スモノニシテ我方トシテハ飽迄竹内ヲ助ケテ蒋介石打倒ニ進ムヘキモノナルカ何レニスルモ竹内ノ意嚮ヲ充分見計ハスシテ實行スルコトハ不可ナリトノ意見ニテ興亞院宛右趣旨ヲ電報セル趣ナリ影佐本件^(脱?)九日上京セル由ナリ

上海へ轉電セリ

編注 「竹内」は「汪兆銘」を意味する符牒。

(付記一)

昭和十四年九月十一日

張群問題ニ關スル汪側ノ意向

梅機關

張群問題ニ關スル汪、一田第一次會談ノ要旨

昭和十四年九月十日午前九時(一田、清水)

一、一田、(汪ニ北京來電ヲ示シ一讀セシメタル後)之レニ對シ如何ニ考ヘラルルヤ

汪、大體喜多長官ノ意見ト同様ナリ

若シ蒋介石カ果シテ誠意ヲ以テ和平運動ニ乗出スモノナラハ今尙少ナカラサル地盤ト實力トヲ有スル關係上時局ノ收拾ヲ速カナラシムル效果アルヘシ又若シ蔣ニシテ誠意ヲ有セス張群ヲ派遣スルコトニ依リ何等カノ陰謀ヲタクラムモノトセバ(一)喜多長官ノ電報ニモアル通り自分ト王克敏、梁鴻志トノ結合ヲ離反セシムル工作ヲナシ(二)自分ノ廣東ニ於ケル放送及其ノ後ノ宣言、聲明、通電等ニ依リ和平ノ氣分濃厚トナリ動搖ヲ始メタル軍隊ヲシテ自分ノ方ヘ走ラザラシムル爲ノ工作トシテ此ノ舉ニ出テントスルモノナルヘシ即チ蔣ハ軍事長官ナルヲ以テ部下ノ軍隊ニ對シテハ和平ノ場合ニハ自ラ之ニ當リ直チニ日本ト話合ヲナシ得ヘシ。汪精衛ナドニ附ク必要ナシト宣傳スル腹アルヘシ

假リニ蔣カ前記ノ如キ陰謀ヲ以テ張群ヲ派遣スルトスルモ此ノ陰謀ヲ施スニ餘地ナカラシメ却ツテ之ヲ我方ノ有利ナル方向ニ持チ來ラシムルコトモ不可能ニ非ス 即チ蔣介石カ假令虚偽ニモセヨ和平ヲ唱フルナラハ重慶政府部内ヲ初メ全國ニ亘リテ和平熱ヲ高メ結局吾人ノ和平工作ニ有利ナル環境ヲ造ルコトトナルヘシ又張群カ王克敏、梁鴻志等ニ對シ汪ナドト聯合スルヨリ直接重慶政府ト連絡シテ一舉ニ時局ヲ解決スルコト得策ナリナドト甘言ヲ弄シテ離間策ヲ計ルトスルモ王、梁ト自分トノ三人ノ結合カ鞏固ナラバ之レニ乗セラルル餘地ナシ 是等ノ點ヲ心得テ應待スルナラハ心配ナシ張群ヲ上海ニ呼ヒ南京ニ伴ヒ行クコトハ面白キ企ナリト思フ

二、一田、張群カ蔣ノ代表トスレハ之ヲ貴下ノ工作ニ引入ルルコトハ重キ重慶ヲ輕キ竹内側ニ引込ムコトトナリ主客逆ニナル惧アリト思フカ如何 其ノ際之ヲ防止スル何等カノ妙案アリヤ 又其ノ際蔣介石ヲ如何ニ取扱フ心算ナリヤ

汪、自分ハ元來和平ヲ以テ國家ヲ救ハントノ希望ニテ努力シツツアルモノナルヲ以テ主客顛倒ナドノコトハ何等

意ニ介セス國家ノ爲ナラハ喜ンテ之ニ應スヘシ次ニ蔣介石ノ問題ナルカ抑モ日本ハ蔣ヲ相手トセスト言明シ居ラルルカ蔣ヲ相手トスルコト可ナリヤ相手トセサルコト宜敷キヤ コレハ何レニモ理窟アリ 相手トセサルヲ可トスルノ論ハ蔣ノ性格カ常ニ首鼠兩端ヲ持シ信用出來サル點ヲ見テ立テタル議論ニテ今日假令彼カ和平ニ贊成スルモ何日カハ又抗日ヲヤリ出スカモ知レストノ懸念アリ此ノ點ヨリ見レハ蔣ヲ相手トスルコトハ危険ナリ蔣ヲ相手トスルコト然ルヘシトノ議論ハ一舉ニ時局ヲ解決スル爲ニハ重慶ノ實權者タル彼ヲ利用スルコト捷徑ナリト云フ理由ニ出ツルモノナリ 唯今日ニ於テハ從前ト大分情勢カ變化セルヲ以テ假令蔣カ乘出ストスルモ到底昔日ノ如キ勢力ヲ盛り返スコトハ出來サルヘシ彼カ若シ和平ニ贊成シ來ルナラハ第一ニ今日迄自分等ノ和平運動ヲ妨害シタル不明ヲ天下ニ暴露シ却ツテ自分(汪)ノ政治の見識ノ優レタルニ屈服スルコトトナリ第二ニハ王克敏、梁鴻志等ニ相當頭ヲ抑ヘラルルコトトナルヘシ

三、一田、唯今ノ質問ハ日本ト蔣ト直接交渉ヲナス場合ノコトヲ尋ネタルニ非ズ自分ノ知ル限りニテハ日本ハ絶對ニ

蔣ト談判スルコトナシ 事件解決ハ一ニ汪先生ヲ中心トシテ之ニ當リ若シ重慶側ニ具眼ノ士アラハ汪先生ノ傘下ニ來リ參スレハ可ナリトノ方針ヲ堅持シ居ルモノナリ今回ノ張群問題ニシテモ此ノ方針ノ下ニ貴下ノ意見ヲ尋ネ居ル次第ナリ此ノ點篤ト留意ノ上改メテ張群ヲ呼フコトノ可否、其他ニ付テ御意見承リタシ

汪、張群ノ來ルコトハ日本側及ヒ我々(汪、王、梁)サヘ注意シ居レハ問題ナシ 彼カ和平ノ爲メ來ルモノナルコトヲ天下ニ公表シテ之ヲ我方ノ和平工作強化ニ利用シ得ラルレバ寧口吾々ニ取り面白キ結果トナルヘシ

四、一田、日本ノ方針ハ前述ノ如キモノナルヲ以テ張群カ重慶側ヲ代表シテ來ル場合ニハ之レニ接觸セス一切貴下ノ處ニ廻スト云フ建前ナリ今回ノ問題ニテモ張群ハ先生ノ下ニ來ルカ至當ナリ王克敏ハ單ニ仲介ノ勞ヲ取ルト云フ形式ニ非サレハ不可ナリト思考ス

汪、張群ハ王克敏ヲ目當テニ來ルモノナルヘシ自分ノ處ヘ來イト云ヘバ恐ラク最初ヨリ來ラサルヘシ若シ張群カ來ルトスレバ絶對的條件トシテ同人カ和平交渉ノ爲來ルコトヲ最初ヨリ公開スルコトヲ要ス其ノ行動ヲ祕密ニス

ルトキハ必ス重慶側ノ謀略ニ陥ルヘシ以前香港等ニ於テ萱野、小川氏等ガコソ々々ヤリタルガ如キ手ハ絶對ニ用ヒサルコトヲ要スコレ直チニ重慶側ニ利用セラレタル先例アレハナリ 張群カ公開シテ和平交渉ノ爲メ出テ來ルト云フ事實丈ケヲ利用シテ重慶側ノ抗戰態勢ヲ崩壞セシムルヲ得バ政治的ニ寧口吾方ノ成功ナリ

又張群ガ來ル時ノ條件ノ第二ハ必ズ先ツ上海ニ來リタル上必要アラハ北京ニ赴カシムルモ可ナリ

五、一田、北京ニ赴カシムルコトハ更ニ研究ノ要アルヘシ必要アラバ王克敏ヲ媒介者トシテ貴下ニ面會スルガ本筋ナラスヤ

汪、此ノ點ハ更ニ研究スベシ要スルニ日本側ノ態度ガ嚴然トシテ居リ自分ト王、梁トノ結合ガ鞏固ナル限り何等恐レルニ足ラス而シテ「公開的ニ來ルコト」ト「上海ヘ來ルコト」トノ二條件ヲ附スレバ自分ニハ異存ナシ

明日ノ大連汽船ニテ王克敏ノ連絡者來ル筈ニ付其ノ報告ヲ聽取シタル上更ニ詳細申上グベシ

一田大佐、周佛海第一次會談要旨

一四、九、一〇午後

九月十日午前張群問題ニ關シ汪精衛ノ一田大佐ニ語リタル意見ハ結論トシテ張群ヲ呼出スコトハ何等差支ナキモ「公開シテ來ラシムルコト」及「上海ニ來ラシムルコト」ノ二條件ヲ附スルノ要アリト謂フニ在リシカ次テ同日午後周佛海ハ一田大佐ニ對シ汪精衛ノ旨ニ依リ右條件中ノ「公開」問題ニ關シ左記要旨ノ通修正敷衍スヘキ旨申入レタリ

重慶側ニ對シ最初ヨリ公開シテ來ル様申入ルル時ハ重慶側トシテ固ヨリ之ヲ受入ルル筈ナク實質的ニハ初ヨリ「來ルナ」ト言フニ均シカルヘシ 從テ午前ニ御話セシ「公開シテ來ラシム」ノ條件ハ最初ヨリ公開スル場合ト當初ハ穩密トシテ適時公開スル場合トアルヘク當方トシテハ先ツ重慶側ヲ引出スコトカ先決問題ナルヲ以テ兎モ角モ一應張群ヲ當地ニ呼出シ公開時機ニ關シテハ交渉推移ノ情況ニ依リ適時決定處理スルヲ適當トスル汪精衛ノ意見ナリ 周佛海個人トシテハ敢テ公開ニ固執スルコトナク出來得ル限り工作ヲ試ミ暗礁ニ乗上ケ前進ノ目途ヲ失ヒタル場合ハ最後ノ手トシテ公開スルコトアルヘキモ交渉順調ニ進ミ所期ノ目的ヲ達シ得ル場合ハ其ノ儘公開セスシテ終ラシムルコト亦有

リ得ヘキ腹案ノ下ニ工作ヲ開始スルヲ適當ト考ヘアリ

一田大佐、周佛海第二次會談要旨

一四、九、一午前

一田、蔣カ代表トシテ張群ヲ派遣スル以上ハ蔣ハ日本ノ絕對的要求タル下野ヲ決行スルヤ否ヤ

周、蔣介石ノ性格ト今迄ノ經歷ヨリセハ今更下野セサルヘシト思フ

一田、然レトモ張群ヲ代表トシテ話ヲセントスル氣カアルナラハ蔣カ下野ヲセサル事ハ意味ヲ成サザルニ非スヤ

周、其ノ事ニ就テハ昨夜汪先生トモ種々研究セシカ若シ蔣カ下野スルナラハ次ノ如キ條件ヲ附スルモノト考フ即

蔣カ下野ヲスル代リニ汪先生ハ重慶ニ歸リテ國民政府ヲ主宰シテ貫ヒ度シト言フナラン
其ノ事ハ汪派トシテハ最モ困ル問題ナリ

何トナレハ蔣カ下野シテ四億ノ民衆ヲ救フ爲ニ重慶ニ歸ルヘク願出タル場合ハ之ヲ斷ルヘキ名分ナシ

之ヲ斷ラハ蔣ハ必スヤ次ノ如キ宣傳ヲ行フヘシ

汪精衛ハ自分ノ身ヲ捨テテ四億ノ民衆ヲ救ハントノ聲明ヲ屢々發出シタレトモ事實上四億ノ民衆ヲ救ヒ得ヘキ重慶入りヲ肯セサルニ非スヤ 汪ノ發スル聲明ハ支那民衆ノ爲ニ非スシテ自己生命ノ安全ヲ圖ラシカ爲ノミト

右ハ目下支那民衆ニ擴延シツツアル汪先生ノ和平運動ニ最大ナル打擊ヲ與フルモノト考フ

故ニ蔣ハ事實上出來サル相談ヲ持チ掛ケテ自ラハ下野セサルニ非スヤト考フ

一田、汪先生カ重慶ニ行カスシテ南京ニ政府ヲ歸還セシムレハ可ナラスヤ

周、蔣側ニテハ次ノ如キ理由ニテ南京歸還ヲ肯セサルヘシ 日本ハ中國ノ獨立ヲ害スルモノニ非スト稱シアリ然リトセハ支那ノ首府カ日本軍ノ占領地域ニ在リトセハ甚タ不合理ナリ

日本軍カ撤兵スル迄ハ重慶ノ現政府ヲ其ノ儘殘置セシムルヲ當然トス

從テ汪先生モ國民政府ノ首班ニナルナラハ其ノ時機

迄重慶ニ在ルヲ至當トス

斯ル理由ヲ盾トシテ日本軍ノ南京附近ヨリノ撤退ニ期限ヲ附スルニ違ナシ

若シ日本ニシテ撤兵セサレハ何時迄ニテモ重慶ニ居ルトテ頑張ルナラン

一田、重慶政府ノ要人カ多數一時ニ先生ノ下ニ來ル場合ハ却テ困ラサルヤ

周、如何程來ルモ困ルコトナシ 何トナレハ南京ニ來ル人ハ悉ク平和贊成者ノミナレハナリ 又我々トシテハ重慶側ニ斯ル空氣アル場合ハ先方ノ内部攪亂ヲ圖リ人物ヲ選擇スルコト可能ナリト思フ

一田、蔣側カ誠心誠意先生ト時局解決ニ當ル意志アル場合ハ汪派トシテハ如何ナル對策ヲ以テ蔣ト交渉スルヤ

周、(一)蔣、汪直接會談ヲ行ハシメ問題解決ニ當ル其ノ會見場所ハ上海トス

(二)蔣ニシテ次ノ事ヲ承諾セハ汪先生カ重慶ニ行クモ差支ナシト認ム

(イ)蔣、汪直接會談ノ上蔣ヨリ汪ニ對シ軍隊ノ指揮權ヲ移スヘキ蔣自筆ノ承認狀ヲ與ヘシムルコト

(ロ) 蔣下野セハ彼ヲシテ支那軍隊指揮ヲ不可能ナラシムル爲日本若ハ日本軍ニ於テ充分保護監視シ得ヘキ地域ニ移ラシムルコト

張群問題ニ關スル汪、一田第二次會談要旨

(昭和十四年九月十一日午後九時四十分)

本件談話ハ王克敏ノ使者潘某カ汪ニ會見シ王ノ傳言ヲ果シタル直後二一田ニ面談シ聽取セルモノニシテ周佛海同席セリ

一、精衛ハ只今潘ト面會シ克敏ヨリノ傳言ヲ聽取セルニ付其ノ内容ヲ御話シスヘシトテ左ノ通り語レリ

潘ノ齋セル報告ノ内容ハ大体喜多長官ヨリ影佐少將ニ宛テタル電報ト同一ナルモ只少シク詳細ニ亘レル點アリ其ノ言フ所ニ據レハ去ル七月末蔣介石ノ使者トシテ鄧悌北京ニ來リ「スチユアート」ノ紹介ニテ王克敏ニ面會セル際鄧ハ克敏ニ對シ和平ニ關スル意見ヲ求メタルニ付克敏ニ對シ蔣介石ノ意見ナリトテ

(一) 克敏ノ各方面一致シテ和平ニ努力シ度シトノ希望ハ

蔣モ同感ナルカ只精衛一派ダケハ除外スルヲ要ス

(二) 日本側ニ蔣ヲ對手トスル可能アラハ張群ヲ派遣シク敏竝ニ日本側ト談合ヲセシムヘシ

トノ二點ヲ傳ヘタリ而シテ「ス」ノ言フ所ニ據レバ蔣ガ右傳言ヲ「ス」ニ託セル際蔣ノ許ニハ孔祥熙、翁文灝、張群ノ三名同席シタルガ「ス」ハ其ノ後更ニ孔ト會見シ口先タケノ話ニテハ歸燕後證據ナキ憾アルヲ以テ何カ書物ヲ貫ヒ度シト述べ孔ハ次ノ四項目ヲ記セル文書ヲ「ス」ニ交附セリ

(一) 克敏及「ス」ノ努力ハ自己ノ爲メニ非スシテ全ク國家ノ爲ヲ思フ念ニ出テタルモノト認ムルコト

(二) 現在猶蔣ヲ相手トスル和平ノ可能性アリヤ否ヤヲ互ニ研究スルコト

(三) 重慶側ハ何時ニテモ人ヲ派遣シ和平ノ交渉ニ應スル用意アルコト

(四) 王克敏ヨリ日本側ノ誠意ノ有無ヲ重慶側ニ通報スルコト

右四項目ノ(四)ニ記セル日本側誠意ノ有無トハ日本カ蔣ト談合ヲナス意思アリヤ否ヤヲ指セルモノナリヤ否ヤ明カナラズ尙右文書ニハ孔ノ署名ナク克敏ノ宛名モ無ク又其

ノ書体ヨリ見テ孔ノ直筆ニ非サルコト明白ニシテ單ニ孔ノ祕書カ記セル「メモ」ノ程度ナリ克敏ハ右「ス」ノ話ヲ聞キ之ヲ杉山喜多兩將軍ニ傳ヘタルニ兩將軍ハ直チニ根本少將ヲ東京ニ派遣セリ根本少將ガ東京ニ到着セル二日目ニ獨「ソ」協定成立ノ發表アリタルカ根本少將ヨリハ其ノ後今日ニ至ル迄何等ノ返事ニ接セストノ事ナリ以上ハ潘ノ報告ノ内容ナリ余ハ右報告ヲ聽取セル後潘ニ對シテ克敏ハ東京ニ赴キ度シトノ意嚮ヲ有スルヤニ聞及ヒ居ル處如何ト尋ネタルニ潘ハ以前ハ眼病ノ治療ノ爲メ渡日シ度シト言居リタルモ治癒シ渡日ノ意ナキモノノ如シト答ヘタリ依テ更ニ克敏ハ本件重慶側ノ申出ニ對シ如何ナル意見ヲ有スルヤト訊シタルニ潘ハ其ノ點ニ付テハ克敏ヨリ何等聞キ居ラス只克敏トシテハ阿部内閣ハ或ハ對支政策ヲ變更スルニ非スヤ、阿部ハ武人ニシテ而モ文治派ナルカ爲多數ノ武人ノ候補者中ヨリ選バレテ組閣ニ成功シ外交政策ヲ變更シ得タルカ對支政策モ亦變更スルモノナリヤ否ヤハ不明ナリト觀察シ居ル模様ナリト答ヘ余ニ對シ意見ヲ求メタルニ付余ハ余ノ意見ハ極メテ簡單ナリ日本ハ既ニ蔣ヲ相手トセスト聲明シ阿部内閣モ亦對

支處理方針ノ不變更ヲ言明シ居レリト述ヘ更ニ附加シテ余ガ東京ニ赴ケル際若シ日本カ蔣ト和平ノ交渉ヲナスナラハ余ハ在野ノ一人トシテ之ヲ支援スヘシト言明セシコトアリ之ハ克敏モ知悉シ居ル筈ニテ日本ト蔣ト談合ヲナス際余ヲ除外スルトハ奇怪ナル話ナリト告ケタルニ潘ハ呵々大笑シテ笑殺セリ

尙潘ハ此ノ儘上海ニ止マリ克敏ノ南下ヲ待チ受ケ共ニ歸燕スル豫定ナル由

二、汪ハ右一談ヲ語り終ルヤ引キ續キ左ノ如ク自己ノ觀察ヲ述ヘタリ

(一) 潘ノ話振り及其ノ持參スル克敏ノ書翰ノ内容ヨリ察スルニ潘ノ來滬ハ余ノ意見ヲ打診セシカ爲メニシテ結局曩ニ當方ヨリ上海ニテ面會方打電セルニ對シ潘カ上海ニ來ル序ニ其返書ヲ持參セルニ過キサルヘシ潘ハ克敏ノ側近者ナルヲ以テ克敏ノ心境ノ變化ハヨク知悉シ居ルモ其ノ他ニ重要ナル政治上ノ任務ヲ有シ居ラサルカ如シ(汪ハ克敏ノ態度怪シキモノト考ヘ居ルコト明白ナリ)

(二) 尙克敏ノ手紙ハ九月七日附ナルカ其ノ中ニハ今回南京

ニ來ル日程ヲ記シ次ニ張群問題ニ關シテハ別ニ南京ニ於テ御話シ致シ度シト記シアリ、之ニ據レハ潘ノ報告ノ外ニ克敏ヨリ余ニ話スヘキコトアルモノト察セラル而シテ其ノ内容ハ潘ニハ傳ヘ居ラサルモノト思ハル

(三)重慶方面ヨリ斯カル事ヲ克敏ニ申出デ居ル以上恐ラク梁鴻志ニ對シテモ何等カ申來リ居ルモノト察セラレ

(九月五日汪梁會談要旨參照)只梁ハ克敏ノ如ク卒直ニ當方ニ洩ラサスニ居ルニ非サヤト推測セラレ

(四)潘ハ局長級ノ人物ニテ政治上ノ事ハ餘リ知ラサルモ克敏ノ心境ニハ通曉シ居ル人物ナルヲ以テ潘ノ語レル如ク克敏ハ充分日本側ノ方針ニ付承知シ居ル筈ナルカ今回阿部内閣成立後何等カ變更アルニ非サヤト思ヒ居ルコトハ事實ナルベシ尙潘自身ハ阿部内閣ノ對支政策ハ變更ノ可能性アリト觀察シ居レリ

(五)之ヲ要スルニ余トシテハ張群引出工作ハ中止セラレ度ク日本カ本問題ニ對シ嚴然タル態度ヲ示サルル事カ重慶側ヲ動搖セシメ我方工作ヲ強化セシムルモノト確信ス尙余ニ時局收拾ヲ擔當セシメラルル以上余ハ重慶ヨリ重要人物引出ニ全力ヲ注キツツアルヲ以テ重慶側ニ

對スル此ノ種工作ハ全部余ニ任セラレ度ク熱望スル次第ナリ

三、汪ノ談話終リタルヲ以テ一田ヨリ何カ此ノ外ニ話ナキヤト尋ネタルニ汪ハ克敏ガ本件ニ付極メテ卒直ニ潘ヲシテ報告セシメタルニ對シ余ハ好感ヲ以テ之ヲ迎フルモノナリ唯克敏ハ阿部内閣ノ對支政策ニ變更アルヤモ知レスト思考シ居ルコトハ事實ナルヘシト答ヘタリ

四、終リニ一田ヨリ明日東京ニ赴クヘキガ影佐少將ニ傳フル事ナキヤト尋ネシニ汪ハ左ノ通り答ヘタリ

(一)影佐少將ハ十七日迄ニ歸滬セラルルコトヲ希望ス

(二)影佐少將、一田大佐離滬中ト雖モ余等ノ工作ハ既定計劃通り進行セシムル心算ナリ余等ハ日本ノ方針ニハ何等變更ナキモノト信ス

五、汪トノ會談ヲ終リ汪退席シタル後周佛海ハ影佐少將ニ左記ノ通り御傳ヘヲ乞ウトテ曰ク

本件ハ豫テ日本側カ祕カニ此ノ種工作中ナリトノ情報ヲ取得シアリ汪先生モ子モ實ハ之ヲ默殺シ居リタリ先般阿部總理ノ談話中(日本新聞紙掲載)ニ幅廣キ言ヒ振リアリテ對支政策變更ノ可能性ヲ暗示セシムルカ如キ節アリ今

同ノ事件ハ必ズシモ右情報ノ眞實性ヲ證明スルモノトハ
思ハサルモ日本ノ態度ガ多少グラグラシアリトノ印象ヲ
克敏乃至重慶側ニ與ヘタル結果發生セルモノト思考ス
要スルニ本件ノ關鍵ハ東京ニ在リト確信スト簡單ニ答ヘ
タルガ更ニ附加シテ重慶側ハ本件ヲ以テ日本側ノ肚裏ヲ
探ル材料トシ阿部内閣成立後ハ特ニ其ノ政策ニ變更アル
ニ非スヤト思ヒ一層力ヲ入レテ策動スルニ至レルモノト
察セラル尙重慶側ハ梁鴻志ヘモ同様ノ申入ヲナシ居ルモ
ノト推セラルト述ヘタリ

別ルルニ際シ周モ汪ト同様余等ハ既定ノ方針通り工作邁
進スベシト述ベタル上一田大佐上京ノ上ハ阿部内閣ノ對
支方針ノ變更ノ有無成ルベク速カニ電報セラレ度旨依頼
スルト共ニ對支政策ニシテ確固タラハ聯合委員會等ノ機
會ヲ利用シ日本側ヨリ克敏及梁鴻志等ニ適確ニ申シ渡サ
ルル様處置方懇望セリ

以上

(付記二)

王克敏委員長ノ汪精衛運動觀及ヒ蔣介石密使ノ

新シキ申出

王克敏氏談

過般汪精衛ノ招集セル國民黨六全大會ハ集マリシ顏觸ニ大
シタ有力者無ク一般ヨリハ大シタ反對モ無キ代リニ大シタ
贊成者モ無カ如シ、決局大シタ力有ルモノカ出來タトハ言
ヘヌ様ナリ、此ノ次ハ中央政治委員會ヲ作り、次ニ國民大
會ヲ開キ、中央政權設立ト言フ段取りトナルカ、現在ノ情
況ヨリ判斷スレハ、出來上リシ政府ノ力ナルモノハ、予等
ノ臨時政府ト比ヘテ少シハ勝レタ者カ出來ルカモ知ラヌカ、
遠慮無ク言ヘハ予等ノ政府ト大差無キモノナルヘク大シテ
力有ルモノカ出來上ルトハ思ヘヌ有様ナリ

一方重慶政府トシテハ歐洲ノ變局ト共ニ共產勢力ノ増大ヲ
來シツツアリ、然ルニ汪ノ新國民黨運動ノ強化ト共ニ蔣、汪
間ノ惡感情益々激烈トナリシ如ク、此儘ニ進ム時ハ蔣ハ汪
ニ對スル反感、及ヒ破レカブレノ經緯ヨリシテ蔣ヲ驅リテ
共產ノ方ニ追ヒヤル危險充分ニ有之カ如シ、重慶ニ於テハ
國共同ノ摩擦益甚シク、蔣モ大ニ之ニ惱ミ居ルカ如ク、最
近心境ノ變化ヲ來シ居ルカ如シ

右ノ證明ハ蔣ハ最近密使ヲ吾カ方ニ送り來リ、蔣カ日本ト
ノ間ニ直接和平ヲ講シ度ク、汪ニ對シテハ非常ニ反對ニテ、

汪工作ニハ飽迄妨害ヲ加フヘキモ、和平其モノニ對シテハ日本カ公正ナル條件ヲ出シテ呉レルナラハ其ニ應シタク、其仲介ハ臨時政府ニ頼ミ日本政府ニ取次ヲ乞ヒ度ク、日本政府ニテ其意有ラハ大員ヲ派遣セラレタシ、トノ事ヲ申込來リシニヨリ之ヲ知ルヲ得ヘシ、予ハ取不敢其筋ニ其旨ヲ報告シ置キシニヨリ、其筋ニテハ中央ニ報告サレシコトト思フカ、時恰モ中央ニテ内閣交迭ノ際ナリシニヨリ、其二對スル意向ハ未タ承ラス、予ノ見ル處ニヨレハ汪氏カ聲ヲ舉クレハ孔祥熙、張群等ヲ始メ、重慶側ノ有力者及ヒ香港等ニアル有力者モ必ス之ニ呼應スルモノト豫定セシモノラシカリシカ、今日ニ至ルマテ有力者ノ參加殆ント望無キカ如シ隨ツテ汪氏ノ運動カ強キ力ヲ持チ得ルヤ否ヤハ聊カ疑問無キ能ハス、之ニ反シ、蔣即重慶政府自體カ其衝ニ當レハ、其力遙カニ汪ノ勢力ヲ凌駕スヘク、眞個ノ和平ヲ實現スルニ至ルヘシ

併シ茲ニ考慮スヘキ問題ニ點有リ、一ハ此工作カ進ム時ハ汪ノ工作ト如何ナル關係ヲ生スヘキヤ、日本ハ汪工作ニ對シ力強キ支持ヲ與ヘ居ルコトナレハ、其間ノ調整ヲ如何ニスヘキヤ痛シ痒シノ感無キ能ハス第二ノ點ハ日本カ蔣ノ申

出ヲ取上テ大員ヲ派遣セシ場合、蔣カ果シテ現在申出ノ如ク眞面目ニ此ニ應スルヤ否ヤ、予トシテハ必ス然リト云フ丈ノ充分ナル自信ヲ未タ持テヌコトナリ、要之ニ蔣ハ和平ハ汪ニ遣ラサスシテ自分ノ手ニテ遣リタシト考ヘ居ルコトハ事實ナルカ如シ

註 王氏ハ尙談ヲ續ケル筈ナリシカ急用出來ニツキ、談ヲ打切り南京へ出發前ニ再ヒ機會ヲ作り再談スルコトトナレリ

汪精衛ノ工作實狀調査ノ爲メ在北支有力者ノ

赴南ト對四川將領工作

汪工作ニ對スル北支方面有力者ノ意向ハ、成功ハサセ度シ、但北支方面ニ國民黨勢力其儘ヲ持來ルコトハ大ニ考慮ヲ要ス、隨ツテ北支ニハ第三勢力ヲ樹力シ、(一)汪ヲ支持シ成功ヲ援ク、(二)汪カ誤リアル時ハ之ヲ是正ス、(三)汪カ失敗スル時ハ其後ヲ引受クトノモツト一ノ下ニ一勢力ノ結成ヲ必要トスルコトニ一致シ來リシカ、其前提トシテ汪ノ工作實際狀況ヲ知ル必要アリトシテ、其役目ヲ引受ケ中國公論社長喻熙傑氏ハ十五日上海方面ニ赴クコトトナレリ

尙四川軍閥ノ操縦ハ從來ヨリ之ヲ必要トサレ、四川出身者ノ間ニ折々工作ヲ進メツツアリシカ、時機至リシモノノ如ク其前提トシテ先ツ四川省外ニアル軍隊將領ヲ操縦スル爲メ、上海ニ其根據ヲ置ク可ク、四川出身吳將軍秘書長陳廷傑氏ノ甥ニシテ元劉湘ノ部下タリシ陳新尼氏カ其二當ルコトニナリ、近ク三四日內ニ上海ニ赴クコトトナレリ

(九月十三日 北京)

編注 本付記は、昭和十四年九月十五日、興亜院華北連絡部

政務局調査所作成「興華北連政調特秘情報」第十二号

より抜粋。

(付記三)

汪精衛工作及ヒ蔣側提案ニツイテ王克敏ノ意向

(十三日談話ノ續、十五日王蔭泰總長同席談話)

王委員長曰ク、昨年十二月汪氏カ河内ヨリ聲明書ヲ發表スルヤ、予ハ次ノ如ク感シタリ、蔣ハ直接日本ト講和ヲ言出シ難キニツキ蔣ハ合意ノ上汪ヲシテ重慶ヲ脱出セシメ和平工作ノ聲ヲ上ケシメシモノナラン、時局ノ完全ナル收拾ニ

ハ蔣汪兩者ノ力ヲ合ササレハ完成セサルヘシト、汪カ來北セシ際、天津ト北京トニテ會見セシ際モ、談其事ニ及ヒタリ

一、蔣方面及ヒ國民黨要人方面ノ參加ノ見込如何

二、軍隊方面ノ參加如何

右兩者共汪氏ハ見込アリトノ見解ヲ述ヘラレ、次ニ中央政權ト地方政權トノ關係ニツキテ強力ナル中央集權ハ不適當ナリ、地方政權ノ存在ヲ認め、其地方ニ特有ノ情態ニ應シタル政治ヲ行フヲ必要トスルコト、華北ノ特殊性ヲ認ムルコトニツキテモ兩者ノ意見大體一致ヲ見タルニヨリ、汪工作ヲ支持スルコトニ方針ヲ決定シ今日ニ至ルマテ其意見變更無シ、但シ之カ前提トシテ、汪工作カ強力ナルモノナラサル可ラサルコト是ナリ、然ルニ其後ノ經過ヲ見ルニ、國民黨六全大會ニ集マリシ人達ニ國民黨内ノ有力者ノ參加ヲ見ス、最初蔣汪兩者暗黙ノ諒解有ルモノト推測セシニ全く其事無ク、蔣ハ汪ニ對シ非常ノ惡感ヲ抱キ居リ到底合作ノ見込無ク、重慶方面ノ要人ノ參加絶望ノ事明トナリシ上ニ更ニ香港上海等ニ在ル有力者ノ參加モ見ル能ハサルノミナラス、軍隊方面ニテハ全く一兵モ參加無キコト判明シ、汪

ニ對スル期待カ裏切ラレタル如ク最近感スルニ至レリ、重慶方面ノ參加無クシテ幸ニ他ノ方面ノ有力者參加スル場合ニ於テモ、和平ハ不可能、第二ノ西班牙トナルノミニシテ之ニテハ我等ノ希望ト反スルコトニナルカ、今日ノ汪ノ現狀ニテハフランコ將軍丈ノ力ヲ保持セシムル事サヘ不可能ナラント觀察サル

此際ニ蔣ヨリ前回談話ノ如キ密使來リ、臨時政府ニ對シ日本トノ橋渡ヲ依頼シ來リシモノナルカ、其眞偽ノ程度如何ヲ疑ヒ居リシ際、昨十四日其密使再ヒ來訪セリ、其密使トハ米國教會ノ牧師スチユワード氏ナルカ密使カ決シテ怪ム可キモノニアラサルコト及ヒ蔣ノ依頼ヲ受ケ居ルモノナルコトヲ證明スルニ足ル、米國大使館ノ書類ヲ所持シ居レリ、密使ニ對シ果シテ蔣カ眞面目ニ言ヒ出シ居ルモノナリヤ否ヤヲ質問セシ所彼曰ク

此事ニ關シテハ、米國カ英國ト圖リテ方針ヲ決定シ、蔣ニ勸メシモノニシテ、蔣カ假リニ米英ノ言ヲ聽カサル場合ハ米、英、佛、共ニ援蔣ヲ打切ルコトニナリ居ルニヨリ必ス應スルコトニナリ居レリトテ、重慶ノ電報ヲ大使館ノ用紙ニ受信シタルモノヲ示シタルニヨリ、予ハ蔣カ

汪ニ合流シテ局面收拾ニ盡シテハ如何ト言ヒタルニ對シ彼ノ答ハ蔣ハ絶對ニ汪ト合流セス、汪トノ合流ヲ要望スルトキハ局面悪化シ蔣ハ共產方面ニ走ルヘシ、然シ第三國ノ紹介ハ日本カ承知セサル可キニヨリ、臨時政府ニ紹介橋渡ヲ依頼セシモノナリ

トノ説明ヲ爲シ、此ノ後方ニハ米、英ノ對蔣強力壓迫アリ、其ノ意味ハ蔣ヲ共產ニ走ラセス、ソ聯勢力ノ發展ヲ防禦スルヲ目的トスル爲メ、蔣ト日本トノ妥協、支那ノ和平恢復ヲ希望スルモノナリト説明セリ

右昨十四日ノ密使スチユワードノ談ハ未タ日本側ニ報告シ居ラサルニヨリ至急報告シ置キタシト考ヘ居レリ

但シ茲ニ右工作ヲ進メル場合ニ於テ、從來汪ヲ支持シ工作ヲ進メシメアリシ點ヲ如何ニ調整スルカ、蔣汪合作カ出來ル様ニ適當ニ努力スルコトハ必要ト思フカ、其カ出來サル時、然シテ蔣カ妥協ニ應スル意向明瞭ニナリシ時ニ、對汪處置ハ非常ニ複雑デリケートノ問題トナルヘク、汪ヲ強ク支持スル爲、蔣ヲ共產陣ニ追ヤルコトモ將來時局ヲ此上長引カセ、然カモ徹底のニ討伐ヲヤル以外ニ方法無キコトトナリ、更ニ日支兩方ノ消耗疲弊ヲ招クコトトナルヘク、之

又好マシカラサルコトトナル可ク、眞ニ六ヶ敷ジレンマニ
陥リシ感アリ、此點ニ就テ日本當局ハ如何ニ處置サルルヤ、
熟慮ノ上ニ熟慮スルヲ要シ、然シテ斷ノ一字ヲ振フヲ要ス
ルト思フ

此時王蔭泰總長ハ、臨時政府ノ態度ヲ定ムヘク閣僚會議ヲ
開キシ際ノ模様ヲ語り、閣僚ノ内、齊總長ハ軍事顧問ノ注
意ニヨリ態度決定ヲ保留スト云ヒ、湯總長ハ汪合流ニ不贊
成、他ノ閣僚ハ默シテ語ラス、故ニ予ハ吾カ政府成立ノ意
義ハ、中央政權成立シ和平統一ヲ圖ル前提ノ一ノ序次トシ
テ成立セシモノナリ、故ニ名カラシテ臨時政府ト云フ、今
和平統一ノ爲メ中央政權成立セントスル場合ハ、一切個人
ノ立場等ノ事ハ之ヲ打捨テ、將ニ生レントスル中央政權ヲ
全面的ニ支持シ其二合流スヘキモノナリ、但シ汪工作ノ力
弱リ、中央政權設立ノ見込薄ナリトノ判斷ツキシ際ハ之又
卒直ニ日本ニ云フ可キナリトノ意見ヲ提出シタル處、王委
員長ハ右ニ贊成セラレ、爾來臨時政府ノ態度ハ右ニヨリテ
進退スルコトトナレリト語レリ

王委員長ハ更ニ曰ク、來ル二十日ニ開ク南京會議ニ列席ス
ヘク十七日出發シ二十三、四日歸來スルカ、今度南京ニ行

ケハ大體汪工作ノ狀況如何ノ見透モツクヘク最後ノ態度ハ
其上ニテ決スルヲ得可シト思フ 云云
(九月十五日 北京)

編注 本付記は、昭和十四年九月十六日、興亜院華北連絡部

政務局調査所作成「興華北連政調特秘情報」第十四号
より抜粋。

~~~~~

295 昭和十四年9月18日

陸軍省部が作成し外務省に検討を要請した「歐  
洲戦争二伴フ當面ノ對外施策」について

付記 昭和十四年十月二日、陸軍作成

〔現下情勢ニ應スル英國利用方策〕

歐洲戦争二伴フ當面ノ對外施策(陸軍案)ニ關スル件

(昭和十四、九、十八 亞一)

九月十八日陸軍省軍務局高山中佐東亞一課長ヲ來訪シ別添  
「歐洲戦争二伴フ當面對外施策」ヲ手交シ左ノ通り説明ヲ  
加ヘタリ

一、本案ハ陸軍部内省部決定ナリ

二、外務省ニ於テ本件御立案ノ際本陸軍案ヲ参照セラレ度キ趣旨ナリ尤モ本案ハ相當尊重セラレンコトヲ希望ス(陸軍側ハ本案ヲ基礎トシテ外務省ニ於テ討議シ貫ヒ度キ希望アルヤニ感セラレタリ)

三、當面ノ對外施策ハ結局ニ於テ外陸海三省決定トシ置キタシ

四、本陸軍案ニ付御希望アラハ何時ニテモ説明ニ參上致スヘシ

(別添)

歐洲戰爭ニ伴フ當面ノ對外施策

方針

帝國ハ中立の態度ヲ維持シ國際情勢ヲ利導シテ既定方針ニ基ク事變處理ノ強化促進ニ資スル如ク自主豁達ナル對外施策ヲ實施ス

特ニ對ソ關係ノ正常化、對英施策、對佛印及蘭印工作ハ現下我緊急施策ノ重點トス

戰爭ノ初期ニ在リテハ戦局ノ擴大セサルコトヲ考慮シテ施

策シ特ニ焦燥ヲ戒ム

要領

一、日ソ關係ノ正常化ニ努ム之カ爲日ソ直接交渉ニ依ルヲ本則トスルモ獨ノ仲介ヲ利用スルコトアリ

イ、國交正常化ノ爲ニハ一般國境問題解決、懸案解決、

通商協定締結等ヲ考慮ス

ロ、一般國境問題解決ノ爲ニハ日滿ソ蒙間ニ於テ國境ノ

安全ヲ尊重シ國境紛争ハ武力ニ訴フルコトナク平和的

折衝ニ依リテ之ヲ解決スルノ趣旨ニ於テ國境紛争處理

及國境劃定ノ兩委員會ノ設置ヲ企圖ス

ハ、不侵略條約ハ差當リ之ヲ締結スル意志ナキモ先方ヨ

リ提議アリタル場合ニハ之ヲ取扱フコトアリ

三、英國ニ對シテハ彼ヲシテ我事變處理ニ同調協力セシムル

コトヲ主眼トシ之カ施策ヲ重視ス此際特ニ米國トノ不可

分關係ニ留意ス

支那ニ於テハ彼ヨリ協調ヲ求メ來ル場合ニ在リテハ之ヲ

利導シ然ラサルニ於テハ歐洲情勢ヲ利用スル強硬施策ト

其權益ニ對スル措置トニ依リ之ヲ善導シテ我ニ同調協力

スルノ止ムヲ得サルニ至ラシム、具体案ニ就テハ別ニ研

究ス

天津問題ニ關スル交渉再開等ノ場合努メテ之ヲ事變處理  
一般問題ニ關スル交渉ニ發展セシムル如ク之ヲ誘致ス

以上ト共ニ帝國ノ支那ニ於ケル對英措置ト相俟ツテ歐洲  
情勢ノ機微ヲ利用シ英屬領竝ニ南洋方面ニ於ケル我貿易、  
通商ニ對スル障礙ヲ除去スルニ努ム

三、佛國ニ對シテハ英ニ準スルモ特ニ之ヲ利用シテ對英措置  
ヲ容易ナラシムル如ク施策スルノ考慮ヲ加フ  
情勢ノ推移ニ應シ佛印ニ關シ左ノ件ヲ要求ス

イ、援蔣及抗日援助行爲ノ放棄

之カ爲佛印ヲ通スル重慶側ニ對スル軍需品ノ輸送監視  
ニ關シ所要ノ取極メ設定ヲ提議ス

ロ、平等互惠ノ原則ニ基ク通商條約ノ改訂

ハ、情況ニ依リ事變處理ノ爲我措置ニ對スル便益供與

之カ爲要スレハ佛印ノ安全ヲ保障スルコトアリ

四、米國ニ對シテハ對日干渉ノ口實ヲ與フルコトヲ避ケルト  
共ニ極東ノ新事態ニ對スル認識ヲ改メ實質的ニ我ニ同調  
セシムル如ク努ム

イ、在支權益ニ對シテハ適宜友好的ニ取扱ヒ特ニ無用ノ

刺激ヲ避ケルコトニ留意ス

之カ爲在支米人ノ保護、通商旅行ノ制限緩和、懸案ノ  
迅速解決等ニ關シ徹底促進ヲ企ル

ロ、在支交戰國警備權益等ノ米國移管ニ關シテハ之カ阻  
止是正ニ努ム

但シ之カ爲強制措置ニ出ツルコトハ慎ム

ハ、事變處理ニ關シ支那ニ於ケル米ノ活動及權益ニ對ス  
ル措置ニ關スル帝國ノ意向ヲ明示シ我ニ同調セシムル  
ニ努ムルト共ニ新通商條約ノ締結促進ヲ企圖ス

之カ爲要スレハ有力ナル經濟使節ヲ派遣ス

二、比島トノ交友關係設定ニ努ム

五、獨伊ニ對シテハ依然友好關係ヲ保持シ特ニ之カ活用ニ努  
ムルト共ニ日獨伊ノ疏隔ヲ印象付クルカ如キ措置ハ嚴ニ  
之ヲ慎ム

六、貿易ノ振興竝ニ國防自給圈確立ヲ促進強化スル目的ヲ以

テ情勢ヲ利導シ列強トノ經濟關係ヲ調整スルト共ニ一般  
通商ノ偏在的關係ヲ調節シ特ニ南洋方面ニ對スル施策ヲ  
重視ス

イ、蘭印ニ於ケル通商協定ノ改正及企業開發ニ關スル制

限ヲ緩和スル爲和蘭トノ交渉ヲ開始スルニ努ム之カ爲  
其安全保障ヲ約スルコトアルヲ考慮ス

口、タイ國ニ對シテハ相互親善關係ヲ助長スルト共二貿

易振興竝ニ重要資源ノ取得利用ヲ企ル

之カ爲要スレハ不可侵ヲ約スルコトアリ

ハ、中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟進出ヲ促進ス  
備考

戰局ノ擴大狀況ノ變化等ニヨリ更ニ施策ヲ研究スルモノ  
トス

(付記)

現下情勢ニ應スル英國利用方策

昭和十四年十月二日

最近ニ於ケル英國ノ動向ヲ善導シテ我カ對支處理ニ同調セ  
シムル如ク施策ス但之カ爲對「ソ」國交調整及對獨親善關  
係ヲ阻害セサル如ク留意スルト共ニ爲シ得レハ之ヲ對英牽  
制ニ利用ス

一、日英基本交渉(於倫敦)

帝國ノ對支處理方針ニ關シ重光大使ニ豫メ左ノ件ヲ示シ

英國政府トノ交渉ニ任セシメ交渉ノ經過中英國ノ誠意ヲ  
認ムレハ適宜之ヲ英國政府ニ了解セシム

1. 支那新中央政府樹立方針

2. 日支新關係調整原則

3. 在支ノ第三國就中英國權益ノ取扱ニ對スル方針

右ニ對シ英國側ノ東洋就中支那ニ對スル希望ヲ開陳セシ  
メ以テ兩國意見ノ一致ヲ圖リ英國ヲシテ帝國ノ對支處理  
ニ同調協力セシムル如ク指導ス

右日英基本交渉ハ天津會談ト併行シテ行フ

備考 九ヶ國條約ニ對シテハ之ニ觸レサルヲ希望スルモ

已ムヲ得サル場合アルヲ顧慮シ之ニ對スル觀念及

取扱ニ關シ研究準備ス

二、右ノ對英交渉カ成功シタル場合若クハ少クモ英國ノ對日  
態度ニ積極的同調ノ誠意ヲ認メ得タル場合日英兩國ハ  
「汪」及重慶ニ對シ左ノ如ク施策ス

(イ)日本ハ先ツ汪精衛ト左ノ件ニ關シ根本觀念ヲ一致セシ

ム

日本及「汪」ハ英國ヲシテ協力セシムル爲ニ如何ニ之

ヲ利用スヘキカ

日本及「汪」ハ英國ヲシテ重慶ニ對シ如何ナル働キヲ  
ナサシムヘキカ

(ロ)英國ハ先ツ「汪」ニ對シ其日本及重慶ニ對スル意嚮ヲ  
傳ヘ「汪」ヲ支持スヘキコトヲ了解セシム

(ハ)英國ヲシテ重慶政府ニ對シ左ノ如ク橋渡しセシメ我工  
作ト相俟テ日支直接交渉ノ端緒ヲ開カシム

(1)停戰許容條件ノ内示(日本ノモノヲ取次ク)

(2)蔣ノ自主的下野ノ懲瀆(日本ノ意志ヲ英國ノ意志ト  
シテ取扱フ)

(3)汪トノ合作ニ對スル斡旋

296

昭和14年9月22日 在北京堀内大使館參事官より  
阿部外務大臣宛(電報)

新中央政府樹立は急ぐ必要がないとの北支那  
方面軍の軍中央への意見上申について

北京 9月22日午後発  
本省 9月22日夜着

第一〇六四號(館長符號扱、部外極祕)

當地連絡部係官ノ内報ニ依レハ當地軍側ヨリ中央ニ對シ支

(欄外記入) 那中央政府權ハ餘リ急ク要ナキ旨意見具申セル由ニテ連絡部  
ニテモ大體右ニ同意見ナル旨近ク興亞院ニ上申ノコトトナ  
ルヘキ趣ナルカ其ノ理由トスル所ハ元來中央政府樹立ハ我  
方カ實力ヲ以テ征服シ得サル場合政府ニ對シ其ノ内部的の瓦  
壤ヲ招來セシメ以テ時局收拾ヲ急速ナラシムル一種ノ謀略  
的ノモノニシテ從テ中央政府樹立カ右目的ニ達セサル結果  
ヲ招來セハ右樹立ノ意義ヲ没却スル次第ナルカ此ノ際過早  
ニ政府ヲ樹立セハ必然的ニ重慶側トノ對立關係ヲ生シ結果  
ハ却テ重慶側態度ヲ硬化セシメ之ヲ驅ツテ蘇聯ニ投セシメ  
斯テ實力ヲ有スル抗日政府ノ永久的存在トナリ事實上ノ時  
局收拾ノ結果ヲ舉クルコト困難トナリ政府樹立ノ目的ニ反  
スルコトナキヲ保セス然ルニ重慶政府ハ先般來相當和平ニ  
熱心ニシテ之カ爲孔祥熙又ハ張群邊ヲシテ交渉ニ當ラシム  
ルヲ辭セサル意嚮ヲ有シ居ル旨ノ情報モアリタルカ(往電  
第九六三號參照)最近ハ特ニ歐洲諸國及日蘇間國際情勢ノ  
變化ニ伴ヒ重慶側ハ何トカ速ニ事變ヲ終結セシメタキ強キ  
希望ヲ有シ居ルカ如キヲ以テ英米ハ蔣介石カ完全ニ蘇聯ニ  
走ルコトヲ惧レ速ニ日本ト和平スヘキ旨寧口脅迫的態度ニ  
テ説得ニ努メ居ル旨ノ情報アリ

右ノ形勢ヲ利用シ寧ロ實力ヲ有スル蔣政權ノ崩壊ヲ策シ重慶側要人ノ抱込ヲ計リ強力ナル政府ヲ樹立シ以テ新中央政府ヲ唯一ノ支那政府タラシムルコトカ眞ノ時局收拾ノ途ナルヘク依テ過早ニ中央政府樹立ニ焦ラス事前ニ右ノ意味ニ於ケル相當ノ工作ヲ要スヘシト言フニ在ルカ如シ  
上海へ轉電セリ

(欄外記入)

九、二三幹事會ニテ興亞院側ヨリ披露アリタリ



297 昭和14年9月27日

在上海三浦総領事より  
野村(吉三郎)外務大臣宛(電報)

孔祥熙と汪兆銘の和平に向けた合作を樊光が

褚民誼に提議したとの情報報告

第二七七七號

上海 9月27日後発  
本省 9月27日後着

褚民誼カ二十六日清水ニ内話スル所ニ依レハ最近孔祥熙ノ代表樊光(目下上海ニ在リ)ハ人ヲ褚ノ許ニ派遣シ來リ孔祥

熙ハ目下熱心ニ和平ヲ考慮シ居ルニ付竹内モ孔ト合作シテ和平工作ニ當ラレンコトヲ希望スト申越シ來レルニ付褚ハ之ニ對シ若シ孔ニシテ衷心和平ヲ希望スルナラハ竹内ノ傘下ニ馳セ參スレハ可ナリ竹内モ素ヨリ之ヲ歡迎スヘシ唯此ノ際注意スヘキハ主客ヲ顛倒セサルコトナリ即チ竹内カ孔ノ運動ニ參加スルコトハ御斷リナリ宜シク孔カ竹内ノ運動ニ參加スヘキモノナリト回答シタル處樊光モ之ヲ諒トシ早速之ヲ孔ニ傳フルト共ニ必要アラハ樊自身重慶ニ赴クヘシトノ意ヲ表示シタル趣ナリ  
北京、天津、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ



298 昭和14年9月27日

在上海三浦総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

蒋介石の四川省主席兼任は下野への布石であ

るとの諜報報告

第二七七八號

上海 9月27日後発  
本省 9月27日夜着

日支和平問題ニ關シ四月離渝シ二十四日來滬セル徐謨ノ秘



書徐某ノ當地中國通信社三宅ニ對スル談話要旨左ノ通り

日支和平ノ順序ハ汪派ト日本側トノ初步的和議二次キ蔣介石側ト日本側トノ協定ニ依ル眞ノ和平回復ノ二段階ニ分チ得ヘシ尤モ後者ノ段階ニ於テ蔣ノ下野ハ不可避ノ情勢ニア  
ルモ現下ノ難局ニ處シ蔣ヲ措イテ他ニ支那ヲ統制スル人物  
ナキヲ以テ今次蔣カ四川省主席ヲ兼任スルコトトナリタル  
ハ彼カ右情勢ニ善處スル爲一時軍事委員長ヲ辭シ一地方領袖トシテ同省ニ逃避スル準備工作タルノミナラス一面日支  
和平ノ前途ニ對スル彼ノ明確ナル意思表示トモ言ヒ得ヘシ  
又同時ニ蔣ハ將來自己政權ノ重要據點トシテ四川省ノ計畫  
ニ乗出シ現ニ同省ヲ三省ニ分チ重慶、成都、敘府ヲ夫々省  
城所在地ト爲シ何レモ蔣ニ於テ各主席ヲ兼任スルコトトナ  
リ居ルノミナラス今次ノ第四次國民參政會ニ對シ四川省同  
復三年計畫案ノ決議方要請スル等永久の基本事業トシテ同  
省ノ開發經營ニ當ルコトトナリタリ

北京、南京、漢口、香港へ轉電セリ

299

昭和14年9月28日

在香港田尻総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

### 萱野工作ひとまず打切りについて

香港 9月28日後発

本省 9月28日夜着

第一二七四號(館長符號扱)

茅野<sup>(註)</sup>ハ老國民黨員ニシテ比律賓有力華僑タル黎耀西(致公

堂首領)ノ懐柔ニ當ラシムル爲當地ニ留メ置キ黎ノ引出シ

(欄外記入)  
ニハ成功セシモ黎ハ來香早々罹病シタルニ加ヘ戴笠ヨリ重慶ニ赴ク様執拗ニ迫ラレ遂ニ馬尼刺ニ逃ケ歸レルニ付本工

作ヲ一ト先ツ打切り茅野<sup>(註)</sup>モ五日發歸國ノ豫定ナリ尙同人ハ

重慶ニ對シテハ何等働キ掛ケス接近シ來ル者アラハ當方ノ

指導ニ依リ汪精衛ノ立場ヲ無視シ重慶カ和平工作ヲ爲サン

トスルモ效果無キ旨ヲ説カシメツツアリ巷間色々ノ取沙汰

アル矢先ニ付爲念

上海、廣東へ轉電アリタシ

(欄外記入)

最近小川平吉氏ノ黃田領事ニ語レル所ト相違ス

300

昭和14年9月29日

在上海三浦総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

蔣介石が短期間の下野を承諾する事変收拾案

を独ソが検討中との情報に対しその危険性を

指摘した汪兆銘意見について

上海 9月29日前發

本省 9月29日後着

第二七九三號(極秘、館長符號抜)

二十四日竹内ハ影佐ニ對シ眞偽不明ナルモ最近獨逸蘇聯邦ハ重慶ヲシテ日本ト講和セシメタキ意圖ヲ有スルコト竝ニ獨逸ハ日本カ蔣ヲ相手トセサル從來ノ方針ヲ變更シ蔣トノ間ニ話合ヲ爲サンコトヲ要望シ其ノ代リ蔣ヲシテ停戰後六箇月間ハ其ノ地位ヲ離レシムル考案ヲ有スル旨ノ情報ヲ入手セリト報告セル後大要左ノ通り意見ヲ述ヘタル趣ナリ

一、蔣ハ西安事變ニ於テ共產黨ト關係ヲ生シテ以來自主的ノ立場ヲ失ヒ殊ニ現在ニ於テハ蘇聯邦ノ絕對的支配力ノ下ニ在ルヲ以テ蘇聯邦ノ了解ナクシテ日本ト講和スルコトハ不可能ナル實情ニ在リ從テ蔣ヲシテ講和セシムルニハ蘇聯邦ノ壓力ヲ必要トス而シテ萬一蘇聯邦カ蔣ニ壓力ヲ

加ヘ日本トノ講和ヲ慫慂スル場合アリトセハ蘇聯邦ハ如何ナル魂膽ヲ藏スルヤ測リ知ルヘカラサルハ勿論蘇聯邦ヲシテ日支問題ニ介入セシメ之ニ何等カノ報酬ヲ與ヘサルヘカラサル破目ニ陥ルヘシ元來英帝國主義ト蘇聯邦ノ共產主義トハ日支ノ共通ノ目標ナル處萬一蘇聯邦ニ斯ル發言權ヲ與フルコトハ右目標ニ一大狂ヒヲ來スコトトナルヘシ

二、假ニ蔣カ半年間下野ヲ承諾スルコトアリトセハ蔣トシテハ恐ラク我等カ日支國交調整ニ努力シツツアル間蔭ニ隱レテ講和反對ノ策動ヲ爲シ和平折衝ヲ不可能ニ陥ラシメタル後機ヲ見テ我等ヲ排撃シ再起ヲ圖ラントスルノ下心ニ出ツルモノナルコト蔣ノ心理ヲ熟知スル我等ノ豫想シ得ル所ナリ從テ半箇年ノ期間ヲ以テ彼ヲ下野セシムルコトハ極メテ危険ナリ

三、日本カ蔣ヲ相手トシテ停戰ヲ行フト言フコトハ理論トシテハアリ得ヘキモ和平ノ妨害者タル蔣ト直接停戰スルコトハ實際上面白カラス蔣ヲ下野セシメタル後停戰ヲ實行スル如ク指導セラルルコト上策ト思考ス

北京、南京、廣東、香港へ轉電セリ

昭和14年9月30日

在北京堀内大使館參事官より  
野村外務大臣宛(電報)

汪兆銘から閩錫山に対し合作を提議した書簡

は監視が厳しく未だ手交不能との蘇體仁山西

省長内話について

別電

昭和十四年九月三十日發在北京堀内大使館參

事官より野村外務大臣宛第一〇八七号

右書簡要領

北京 9月30日後發

本省 9月30日後着

第一〇八六號(部外絶對極秘、館長符號扱)

大倉林ノ内話ニ依レハ同人ハ在南京谷萩參謀ノ密令ヲ帶ビ  
九月上旬太原ニ赴キ省長蘇體仁ヲ通シ閩錫山ニ對シ汪精衛  
トノ合作方別電第一〇八七號ノ如キ申入ヲ爲シタル趣ノ處  
偶々來京中ノ蘇省長ハ三十日原田ニ對シ目下閩錫山ハ高桂  
滋軍(陝西軍)及蔣介石ヨリ特派セラレタル國民黨青年團等  
ノ監視裡ニ在リ其ノ眼ヲ盜ミ書翰ヲ手交スルコトハ到底不  
可能ニシテ襄ニ河邊村ニ在リタル閩ノ副官ヲシテ本件同様  
書翰手交方取計ハシメタル處中途發見セラレタル爲閩ハ前

記青年團ヨリ諮問ヲ受ケタルコトアリ從テ前記書翰ハ今猶  
自分(蘇)ニ於テ保管シ居リ適當ノ機會ニ特使ヲ派シ口頭ヲ  
以テ傳達スル所存ナル處閩ノ家族ハ目下四川ニ居住シ居ル  
關係モアリ其ノ態度慎重ニシテ急速ニ右ニ應スルモノトハ  
思料セラレサル旨内話セル趣ナリ  
別電ト共ニ上海、南京ヘ轉電セリ

(別電)

北京 9月30日後發

本省 9月30日後着

第一〇八七號(部外絶對極秘、館長符號扱)

貴下ト志ヲ同シウスル汪精衛ト合作シ東亞新秩序ノ建設ニ  
當ラレンコト切望ニ堪ヘス左ニ私見ヲ述ヘ置キタル處右ニ  
御不滿ノ點アラハ改メテ斡旋ノ勞ヲ執ルヘキニ付何分ノ御  
回示相成度シ

(一)貴下ノ生命財産ニ對シテハ特別ノ保障ヲ爲ス

(二)元老トシテ新政府ノ工作ニ從事ス

(三)山西軍ノ全部ヲ改編シ新政府ノ軍隊トナス

(四)沒收ノ私有財産ハ全部返還ス

302

昭和14年9月30日

在上海三浦総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

スチュワート工作は汪兆銘による新中央政府

樹立工作の妨害を目的とする重慶側の策動で

あるとの観測について

上海 9月30日午後

本省 9月30日午後

第二八〇六號(極秘、館長符號拔)

<sup>(1)</sup>北京發貴大臣宛電報第一〇一七號二關シ

九月十日王克敏ノ使トシテ他用ヲ帶ヒ來滬セル潘某カ竹内ニ報告セル所ニ依リ「スチュアート」カ克敏ニ齎セル傳言ニ依レハ蔣介石ハ日本トノ和平交渉ニ當リ竹内ヲ除外スヘキコトヲ第一ノ條件トナシ克敏ヲシテ日本ノ意嚮ヲ打診セシメントノ希望ナルコト明カトナリ竹内側ニテハ之等ノ情報ニ基キ詳細檢討ヲ加ヘタル結果右ハ全ク竹内工作ニ對スル牽制ナリト看做シ充分警戒ヲ加ヘツツアルカ克敏トシテハ新内閣ニ於テ或ハ右直接交渉ヲ受容ルル可能性全然ナキ次第ニモアラサルヘシト想像シ多少其ノ方面ニ色氣ヲ出シタル形跡アリ南京ニ於ケル所謂三巨頭會議ニ於テモ克敏ハ

竹内及梁ニ對シ再三右重慶側ノ和平工作ノ話ヲ爲シ氣ヲ引キタル模様ニテ從テ新政權樹立ノ協議ニモ最初ノ間ハ餘リ氣乗セサル態度ヲ示シ結局十九日午後赴寧セル參謀本部樋口第二部長及影佐少將ヨリ三巨頭同席ノ所ニテ蔣ヲ相手トセサル日本ノ方針ニ變リナキコト、日本側ハ絶對的ニ竹内ヲ支持シテ新政權ノ樹立ニ邁進スル方針ナル旨政府ノ意向トシテ明確ニ之ヲ傳ヘ一時南京會談ヲ蔽ヒタル暗雲モ之カ爲漸ク一掃セラレタル實情ナリ

其ノ後右重慶側ノ克敏ニ對スル働キ掛ケノ經緯ハ當地方ニ於テモ相當廣ク知レ亘リ最近ハ其ノ他ノ筋ヲ通スル放送モアリ一方投機業者ノ故意ニ放送セル「デマ」等モ加ハリ之カ爲一般支那人ハ其ノ真相ヲ捕捉スルニ苦シミ結局暫ク竹内工作ヲ見送り今後ノ推移ヲ見極メントシテ形勢觀望ノ氣配濃厚トナリ新中央政府樹立ニ對シ熱ヲ冷却セシメ居ル傾向アリ

<sup>(2)</sup>右重慶側ノ策動ハ國際情勢ノ變化ニ依リ窮地ニ陥リタル局面ヲ打開セントスル最後ノ足掻ナリト觀ル向アルモ支那人消息通ハ右ハ全ク竹内工作ニ對スル離間策ニシテ之ニ依リ竹内工作ノ進展ヲ引延ハシ日本ヲシテ結局重慶ニ手ヲ延ハ

ササルヲ得サル様仕向クル爲ノ謀略ナリト判斷シ又政治ニ關係ナキ方面ノ識者ハ今後支那ノ政權ヲ握ル者ハ必ス和平運動ニ成功シタル者ナルヘキヲ以テ重慶側要人等ハ竹内ノ運動ノ成功ヲ妬ミ何トカシテ之ヲ挫折セシメ自ラ別ニ和平運動ヲ試ミントスルハ當然ニシテ要スルニ政權爭奪ノ一現レナリト觀測シ居レリ尤モ重慶方面ノ消息ニ比較的通シ居ル者ハ蔣ハ陳誠、孫科、馮玉祥、白崇禧等ノ主戰派及共產黨ニ圍繞セラレ居ルヲ以テ到底自ラ日本側ノ希望スルカ如キ條件ニテ和議ノ交渉ヲ爲シ得スト看做シ何等實現性ナキ一時ノ謠言ナリトシテ之ヲ默殺シ一方比較的竹内側ニ好意ヲ有スル者ハ日本ハ今頃一氣ニ停戰和平ヲ期待スル空想ヲ以テ重慶ノ誘ヒノ手ニ引懸ルトキハ重慶側ニ翻弄セラレテ時局解決ハ更ニ二、三年引延ハサルコトナリ且場合ニ依リテハ虻蜂取ラスニ終ル處アリ此ノ際充分日本ノ眞意ヲ了解シ居ル竹内ヲ支持シテ速ニ中央政府ヲ組織セシメ日本側カ眞ニ言行一致近衛聲明ノ精神ヲ以テ之ニ對處スルコト時局收拾ノ最捷路ニシテ重慶ヲ内部ヨリ分裂セシメ之ヲ崩壞ニ導キ以テ全國の和平ヲ來スニハ之以外ニ術ナシト看做シ居レリ

北京、南京、天津へ轉電セリ

303 昭和14年10月4日

興亜院作成の「支那事變處理促進ノ爲ノ工作

方針(案)

支那事變處理促進ノ爲ノ工作方針(案)

(昭四、一〇四)

一、諸工作ヲ一途ノ方針ノ下ニ集中的ニ行ヒ其ノ綜合勢力ニ依リ速ニ蔣政權ノ壞滅ヲ策ス

二、重慶政府内ニ於ケル國共兩派ノ軋<sup>(確)</sup>礫ヲ助長激化シ其ノ抗戰勢力ヲ弱化シ爲シ得ル限り速ニ蔣ヲ下野セシムル如ク指導ス、之ガ爲特ニ第三國ヲ巧ニ利用スルコトニ努ム

(1)日英會談ノ速ナル結末ヲ遂ク、之カ爲我方ノ條件ヲ別紙第一ノ如ク限定ス

(2)第三國關係懸案解決ノ促進ヲ圖リ第三國ヲシテ權益ヲ蹂躪セラルルカ如キ疑念ヲ去ラシムルト共ニ揚子江ノ一部解放等ヲ活用シテ對第三國特ニ對米外交ノ好轉ヲ期ス

(3) 前二項ノ工作ニ依リ第三國特ニ英國ヲシテ援蔣行爲ヲ放棄セシムルト共ニ爲シ得レハ蔣介石ノ下野竝ニ翻意改替ノ重慶政府ヲ汪ノ傘下ニ入ラシムル如ク協力セシム

(4) 汪ヲ中心トスル關係各方面ノ重慶側切崩シハ更ニ之ヲ活潑ナラシム

三、前諸項實施ノ爲益々國防態勢ノ強化ヲ圖リ武力ニ依ル無言ノ睨ミヲ活用スルト共ニ狀態ニ依リテハ統帥部ノ許容限度ニ於テ武力ノ積極的の直接協力ヲ期待ス

四、第三國ノ日支和平斡旋ニ對スル帝國ノ態度別紙第二ノ通り

五、歐洲方面戰況ノ推移ハ巧ニ之ヲ利用スルコト特ニ英國ノ戰爭遂行意志ノ強化ニ關シ統一の施策ヲ實行スルコト

六、東洋問題ニ事寄セル彼等ノ大同團結ニ對シテハ機ヲ失セス之カ封止ノ策ヲ講ス

七、以上施策ハ本年末ヲ目標トシ内外各機關一貫シテ之カ實行ニ當ルコト其ノ細部ハ別ニ計畫ス

◎備考 事變處理ニ對スル帝國ノ態度竝ニ方寸ヲ爲シ得ル限り民衆ニ知ラシメ輿論ノ統一喚起ヲ圖ル

別紙第一

(昭四、一〇、一)

北支問題處理ニ關スル日英會談再開ノ場合ニ於ケル我方ノ態度

中央ノ交渉ニ於テハ經濟關係事項ニ付英國ヲシテ左記原則の承認ヲ爲サシムルモノトス

記

一、京津兩市現銀保管委員會保管現銀ニ對スル臨時政府側ノ如何ナル措置ニ對シテモ英國側ハ行政的ニモ將又軍事的ニモ何等妨害行爲ヲ爲ササルコト

(註) 現銀ニ對スル我方ノ措置トシテハ必ズシモ即刻ノ搬出ノミニ之ヲ限定セズ別途ノ處置ヲモ包含セシメ得ル餘地ヲ存セシメントスルモノナリ

二、北支ニ於ケル聯銀券ノ圓滑ナル流通ニ關シ英國側ハ積極的の協力ヲ爲スコト

(註) 法幣ノ流通禁止ト聯銀券ノ流通促進トハ結局スルニ表裏不可分ノ關係ニ在リ、然レドモ先方ニ面シテ其他ノ問題アルヲ考慮シ正面ヨリ先方ヲシテ屈伏

セシムルノ途ヲ擇バズ裏面ヨリスル表現ニ依リ我方ノ要求ヲ満足スルノ方法ヲ採リ其ノ間異ル所アルガ如キ感觸ト多少要求實現上ニ於ケル時間的乃至段階的ノ餘裕ヲ含蓄セシムル意ナリ

三、一及二ニ洩レタル支那側銀行及錢舗ニ對スル取締等重要ナル要求事項ヲ一般のナル表現ノ下ニ抱擁セシメテ之ヲ補フト共ニ將來ノ措置ニ對スル言質取得タルノ餘地ヲモ存セシメントスル意ナリ

備考

一、會談ハ大掛ニ行ハザルコト

二、日英會談ハ兩者ノ意見合致シ圓滑ナル妥結ニ到達セリ

トノ發表位ニ止ムルコト

別紙第二

(昭四、一〇、四)

第三國ノ日支間和平斡旋ニ對スル帝國ノ態度(案)

一、第三國ノ日支和平斡旋如何ニ拘ラス帝國ハ汪ヲ中心トスル新中央政府樹立ニ關スル既定方針ニ基キ着々諸具體策ヲ實行ス

三、第三國ノ斡旋(但シ蘇聯ノ斡旋ヲ除ク)ハ重慶政府ノ崩壞屈伏ニ重點ヲ置キ先ツ以テ蔣介石ノ停戰、下野ヲ促進シ繼意改替ノ重慶政府ヲ汪ノ傘下ニ入ラシムル如ク指導ス

三、第三國ノ和平斡旋ニ對スル交渉ハ其ノ努力ニ酬ユル具體案ヲ暗示シテ堂々ト工作シ卑屈ニ陥ラサル態度ヲ堅持ス

304 昭和14年10月6日

在上海三浦總領事より  
野村外務大臣宛(電報)

カー英國大使が自らの和平腹案を重慶側に提示する心算との諜報報告

上海 10月6日後発

本省 10月6日後着

第二八五一號(極秘)

四日「カー」大使ノ張國輝(當館政治部諜者、人名鑑参照)

ニ對スル談話中參考トナルヘキ點左ノ通り

張ヨリ大使ニ對シ支那全國民衆ハ何レモ和平ヲ希望シ居ル處和平實現ノ捷徑ハ此ノ際歐米列國殊ニ英國ノ對蔣援助ヲ中止スルコト必要ナリト述ヘタルニ對シ「カー」ハ日支間ノ和平ハ素ヨリ贊成ニシテ自分ハ兩國交渉ノ橋渡(居中調



停ニアラスト言ヘリ）ノ役ヲ努ムルニ咨ナラサル次第ナルカ日本カ蔣政權ヲ相手トセス無力空名ニ等シキ汪政權ヲ相手トシテ和平ヲ畫策スル限リ其ノ和平ハ僞物ニシテ從テ兩國ノ抗爭ハ永續スヘク又重慶側トシテハ共產黨ニ牛耳ラレ居レリト言フハ日本側ノ宣傳ニシテ蔣ノ威令完全ニ行ハレ居ルコトニ對シテハ太鼓判ヲ押シテモ可ナリト言ヘルニ付然ラハ眞ノ和平方策如何ト問ヘルニ「カー」ハ

(一)兩國ノ戰鬪行爲中止

(二)重慶側及汪精衛派等ヨリ代表ヲ選出シテ代表團ヲ組織シ日本側ト和平條件ヲ交渉セシメ

(三)國民大會ヲ召集シテ兩國交渉ノ結果ヲ諮リテ和平ヲ策スルコト

最實際的ニシテ實現性アルヘク自分ハ他用ヲ以テ五日離滬香港經由往復約二週間ノ豫定ヲ以テ重慶ニ赴クヘキ處適當ノ機會ニ重慶側ニ對シ本私案ヲ提示シテ見ル積リナリト述ヘタル趣ナリ

北京、南京、廣東、香港へ轉電セリ

305

昭和14年10月12日

在香港岡崎(勝男)総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

和平問題に対する重慶側の意向など宋子文の

時局談話情報につき報告

香港 10月12日後発

本省 10月12日夜着

第一三二五號(極秘)

十二日李思浩ノ内話左ノ通り

六日歸香ノ宋子文ハ唐壽民ニ對シ重慶ハ和平希望漸次強キモ直接交渉ニ依ル場合日本カ果シテ全面的ニ成案ヲ履行スルヤ不安カル氣分濃厚ナルヲ以テ第三國調停ノ形式ヲ執ラストスルモ之ニ對シ例ヘハ英米ヨリ保障ヲ得ラルルコトトモナラハ何トカ打開ノ途アルニアラスヤト語リタル由ナルカ自分(李)トシテハ和平ノ際最モ懸念サルルハ共產黨ニシテ他ノ實勢力ニハ格別問題起キサルヘク又蔣介石ニシテモ日本カ彼ノ面子ヲ考ヘ將來ニ對スル約束ヲ與ヘル等餘裕置ケハ(例ヘハ一時的下野)強チ下野ニ反對セサルヘシト思考ス一方汪精衛ノ運動ニハ幾多ノ困難伏在シ例ヘハ維新政府側ハ兎モ角トシ王克敏ト眞ノ協調迄ニハ相當骨力折レル

ノミナラス汪派ノ牽引力弱ク(陳璧君ハ寧ロ邪魔ニナル程ナリ)又最近ノ長沙戰況ハ汪派カ目當トスル各地軍隊及政治勢力者ヲシテ更ニ消極的ナラシメタリ王克敏ハ宋子文ト今猶聯絡ヲ續ケ(絶對極秘ニ願度シ)可成リ重慶ノ手力強ク働キ居ルモ同人ハ北京ヲ離ルルコトヲ好マサル模様ニ付汪トシテハ當分ノ措置トシテ彼ノ希望ヲ容レテ遣ルコトモ必要ナルヘク又日本ハ占領地ヲ外國ニ鎖ス遣方ヲ緩メ此ノ際寧ロ彼ノ經濟力ヲ利用シ勢力下ノ繁榮省民ノ福利ヲ圖ルコト上策ト存セラル尙宋子文ノ駐米大使說ハ孔祥熙ノ仕業ナルモ本人ハ就任ノ氣持ナク「カー」大使ハ七日飛行機ヲ借切リ重慶ニ豫告ナク飛ヒ周作民ハ重慶側ノ誤解ヲ解ク爲近ク來香ノ旨申越セリ

北京、上海、廣東へ轉電アリタシ

306 昭和14年10月

### 小川平吉作成「重慶方面關係經過概要」

昭和十四年十月

#### 重慶方面關係經過概要

去ル六月子ガ香港ヨリ歸京後孔祥熙ヨリ「具體的意見ヲ研究シ指導ヲ乞フ」旨ノ電報アリタルハ赴香始末末尾所記ノ如シ然レドモ當時日支双方ノ事情ニ鑑ミテ深く考慮スル所アリ汪兆銘新政府樹立ノ目標タリシ及十節ニ近キ九月頃ヲ以テ交渉再開ノ好機ナリト思惟シ冷靜緩徐ノ方針ヲ以テ彼レニ臨ミタル末八月上旬ニ至リ萱野氏ニ一書ヲ贈リテ日本政府當局ノ意向ヲ報告シ「蔣ノ下野二代ハルベキ先決問題タル予ノ私案(共產黨討伐云々)ハ兼々明言セル通り蔣又ハ孔二代ルベキ重要人物ト直接會見ノ上ナラデハ之ヲ示シ難キモ蔣ニシテ反共親日ノ誠意ヲ有スルナラバ該私案ハ必ず兩國政府ノ承認ヲ得ベキコトヲ確信スルコト及ビ先方ノ希望ナラバ昨年ノ軍艦會見ノ例ニ倣フコトモ可能ナルベク此場合ニ於テモ結局協調ヲ見ルニ至ルベキコトヲ信ズル」旨ヲ述ベ併セテ英露ニ對スル支那側ノ蒙ヲ啓ラクニ足ルベキ事情等ヲ申送リタル處萱野氏ハ之ヲ蔣、孔ノ代表ニ示シ彼等ハ直チニ重慶ニ電報シタル由ナルガ間モナク侍從副官張某來港、關係者ニ就イテ予ノ書面ヲ借覽シ撮影ヲ乞ヒタルモ許サレズ張ハ數回繰リ返ヘシ熟覽ノ上欣然歸重シタル由ナリ

然ルニ八月二十六日付ニテ重慶ナル柳雲龍ヨリ「昨日參政會常務員會ニ於テ和平問題ヲ議決シ張君勳(交通大臣張公權ノ弟ニシテ國家社會黨員反共ノ急先鋒)ヲ代表トシ各派ニ交渉セシムルコトナリタリ」ト電報アリ引續キ同人ヨリ、「蔣下野セズトモ和議開始可能ナル」旨發電ヲ求メ來リタルヲ以テ當方ヨリ「日本ハ蔣ニシテ排共親日ノ誠意ヲ示セバ下野セズトモ和議開始可能ナル」旨ヲ萱野氏宛返電シタリ、時恰モ重慶ニハ汪兆銘新政府樹立ガ予定ノ及十節ニ間ニ合ハズ延期サルベキ旨ノ情報アリタリトノコトニテ彼等ハ大イニ喜ビテ新政府成立前ニ事ヲ成サント欲シ着々準備ヲ進メ行政院長孔祥熙ハ一身ヲ犠牲ニスルノ決心ヲ以テ和平案ヲ參政會ニ提出シタル由ナリ、然ルニ是ヨリ先キ我ガ國ハ新タニ軍司令部ヲ南京ニ新設シテ新政權ノ援助ニ便スルコトナリ上海南京方面ヨリ重慶ニ向ツテ日本ハ蔣トノ講和ヲ絕對ニ排斥スル旨ノ報告頻々タル折柄九月十四日日本政府ノ汪兆銘新政權支援ノ聲明發表セラレタルガ爲メ彼等ハ日本ノ意向ニ對シテ疑懼ヲ感じ形勢急變シテ「講和ノ機會ハムシロ汪新政權ノ實力試驗ノ後ニ在リ」トノ意見多數ヲ占ムルニ至リ參政會ハ和平案ノ提出セラレタル會

議ノ最終日九月十六日ニ之ヲ否決シ去リタリ(上記電報ハ既ニ報告済ナリ)、重慶政府ガ朝野共ニ和平ヲ希望セルニ拘ハラズ形勢急變參政會ニ於テ否決セラレタル理由トシテ彼等ノ報告スル所ヲ綜合概括スレバ

一、汪兆銘新政府支援ノ聲明并ニ之ニ關聯スル現地日本側ノ報告ニヨレバ重慶政府ニ於テタトヘ和平交渉ニ着手スルトモ現在ノ情勢ハ到底和議ヲ成立セシムルノ見込ナク萬一中途失敗セバ非常ノ窮地ニ陥ルベキコト

二、日本ハ汪兆銘ノ新政府ニ多大ノ望ヲ屬シ居リ之ニヨリテ支那ノ統治ヲ擴張シ、之ニヨリテ蔣政權ノ崩壞ヲ期待シ居ルガ如キモ之ハ大ナル錯誤ナリ汪ハ已ニ逆賊ノ名ヲ負ヒタレバ支那ノ人民一般ハ之レニ與ミセズ又重慶側軍政要人ハ和戰共ニ蔣一人ニ統一スベシトノ議ニ一致シ居レバ軍政兩方面ノ有力者ハ一身ノ危険モアリ旁々蔣ヲ去リテ汪ニ就ク者ナシ

三、又汪ノ新政府樹立ニ付テハ日本トノ政治經濟其他ノ取り極メニ關シ汪ハ其ノ立場上各種權益ヲ回收セントスルモ日本ハカノ戰爭ヲ終結スルコト能ハズ且ツ統治力ノ微弱ナル新政權ニ對シテ軍ノ占領權ニ由ル權益ヲ拋棄スルヲ

肯ズマジクタクトへ交譲妥協ヲ見ルトモ結局有力ナル政  
權ノ成立ハ不可能ニシテ日本ハ遂ニ新政權ニ失望スルニ  
至ルベシ從テ和平ノ機會ハ汪政權ノ實力試驗後ニ在リト  
思惟スルニ至リタル事

四、日本ノ所謂日滿支新秩序ナル文字ハ日本ガ支那ヲ以テ滿  
洲國ト爲サント欲スルモノナリト解釋スル事(之ハ今春  
議會ニ於ケル有田外相ノ答弁其他ニヨリテ一旦疑惑氷釋  
シタル筈ナルガ曲解力誤解力近來又々コノ解釋ヲ主張ス  
ルモノアリト見ヘタリ)

五、露國ノ増援期待ノ外米國朝野ノ反日思想ガ旺盛且ツ深刻  
ナルヲ見テ其ノ支援ヲ期待シ特ニ來年一月日米通商條約  
消滅後軍需品向日輸出禁止ヲ以テ日本ヲ壓迫シ得ル時機  
ニ達セバ自ラ和平ノ機會ヲ發見シ得ベキ事

等ニ在リ依テ此上尙ホ應答ヲ繼續スルモ無益ナルヲ以テ最  
終ノ説諭ヲ試ミタル上萱野氏ハ去ル十三日一ト先ヅ香港ヲ  
引揚ゲテ廿三日東京ニ歸還シタリ

重慶ニ於ケル官民ノ大多數ハ戰爭長期ニ亘リ日支兩國共ニ  
疲弊シテ共產黨ノ獨リ勢ヲ逞ウスルヲ見ルニ忍ビズ和平ノ  
希望頗ル熾烈ナルモノアリ、特ニ共產黨ハ近來蔣介石ノ彈

壓ニ對シテ心ニ平カナラザルモノアリシガ今夏香港ノ和平  
交渉ヲ探知シテ憤懣ノ情ヲ増シタル處去ル九月中旬和平案  
ノ參政會ニ提出セラレタルヲ見ルニ及ンデ彼レ等ハ遂ニ國  
共共同抗戰ノ前途ニ失望シ、スターリントモ協議ノ上國共  
決裂後ニ於ケル自己ノ地盤ヲ築クニ汲々トシテ兩者ノ反目  
ハ日ニ益々激化シツツアリ、從ツテ重慶ノ官民ハ益々對日  
和平ノ必要ヲ痛感スルニ至リタルモノノ如シ

然ルニ蔣介石ガ進ンデ和議ヲ開始スル能ハザル所以ノモノ  
ハ香港ニ於ケル予等交渉ノ經過ニ徴スルモ、又今回和平頓  
挫ノ經緯ニ徴スルモ彼レハ我方國ニ於ケル硬派ノ人々ガ蔣  
介石下野ノ議ヲ固執シ之レガ爲メニ和議ノ交渉ガ中途決裂  
シテ自己ガ窮地ニ陥リ共產黨ノ乘ズル所トナルヲ深憂セル  
ガ爲ナル事極メテ明白ナリトス、故ニ我方政府ガ適當ナル  
機會ニ於テ、『蔣介石ニシテ我が主張ニ服從シ排共親日ノ  
誠意ヲ示サバ必ズシモ下野ヲ主張スルモノニ非ルコト』ヲ  
明白ニセバ彼レハ必ズ何等カノ方法ヲ以テ和議ニ着手スル  
ニ至ルベシト思料ス、重慶ノ要人等ガ『和戰ノ鍵ハ日本ノ  
手ニ在リ』トイヘルハコノ意味ナリ、萬一コノ場合ニ至ル  
モ蔣ガ共產黨ニ和シテ講和ヲ肯ンゼズンバ重慶ノ軍政要人

ハ蔣ノ和平救國ニ絶望シ彼レヲ離レテ獨立セントスル者ヲ生ズルニ至ルベク重慶政府ヲ瓦解セシムルコト難キニ非ルベシ此點ハ特ニ注意ヲ要スベキモノナリト信ズ

我方國ノ一部ニハ今春議會ニ於ケル平沼首相ノ言明アルニ拘ハラズ今尙ホ蔣介石ヲ下野セシメテ而ル後チ和ヲ議スベシト主張スルモノアリ、又聞ク所ニヨレバ現内閣ハ蔣ニシテ講和ノ意アラバ汪兆銘ヲ通ジテ交渉ヲ開始セシムベシトノ意向ナルガ如シト雖モ予ノ見ル所ヲ以テスレバ兩者共ニ到底不可能ノ議ニシテ究竟ハ戰爭ヲ繼續スベシトノ結論ニ達スルノ外ナシ今ヤ内閣新タニ成ルノ時ニ際シ予ハ茲ニ聊ガ愚見ヲ述ベテ當局諸公ノ參考ニ供セント欲ス

(一)汪兆銘ヲ援助スルコトハ昨年來予モ亦熱心ニ主張セル所ナレドモ汪ニ對スル重慶側官民ノ反感ハ汪ガ日本來朝以來俄カニ熾烈トナリテ逮捕令ハ發布セラレ新聞紙ハ汪ヲ目スルニ逆賊ヲ以テシテ其ノ稱呼ニハ必ズ逆ノ字ヲ附シテ汪逆ト稱スルニ至リ汪ト重慶トノ關係ハ殆ント讎敵ノ間柄ニ似タルモノアリ、カノ面目ヲ重ンズル蔣等ニシテ之ヲ通ジテ日本ト和ヲ講ズルガ如キハ今日ノ情勢ニ照ラシテ殆ンド想像シ能ハザル所ナリ、故ニ一應ノ策トシテ

之ヲ試ムルハ則チ可ナルモ汪ヲ經由スルニ非ズンバ徹頭徹尾和議ヲ開始セズト主張スルハ畢竟講和其物ヲ絶對ニ否認スルト同一ノ結果ニ歸着スベク恰モ蔣介石トハ絶對ニ和ヲ議セズトノ主張ト同一筆法ニシテ思慮アル政治家ノ執ルベキ態度ニ非ルベシ

(二)我が聖戰ノ目的トスル所ハ國民政府ヲシテ容共抗日ヲ捨テシムルニアリ、故ニ彼レニシテ容共抗日ヲ捨テテ我が排共睦隣ノ主張ニ服從セバ直チニ講和ヲ開始スベキハ當然ノ順序ナリ、蔣ヲ下野セシムベキヤ否ヤハ講和條件ノ一トシテ之ヲ協定シテ可ナリ元來講和ナルモノハ戰爭ノ相手タル敵將ト交渉スベキモノナリ戰爭ノ相手ト交渉セズシテ誰レト講和スベキヤ常識ニテハ諒解ニ苦シム所ナリ柳毛昨年一月ノ我が聲明ハ國民政府ガ講和不誠意ナル無禮ノ態度ヲ詰責シタル威嚇の宣言ナリ故ニ彼レ若シ其ノ態度ヲ翻ハシテ我レノ主張ニ聽從シ誠意ヲ以テ和ヲ講ゼントセバ直チニ之ニ應ジテ可ナリ何ゾ必ズシモ自己ノ宣言ニ束縛セラレ尾生ノ信ヲ守リテ橋下ニ溺死スルヲ要センヤ況ンヤ其ノ宣言ナルモノハ何人トモ約束セシモノニ非ズ一時權宜ノ意思表示ニ過ギザルニ於テテヤ、然ル

二蔣ノ抗日ヲ憎ムノ餘リコノ宣言ニ據リテ講和ヲ阻止セ  
ント欲スルハ決シテ我ガ皇道仁義ノ精神ニ合スルモノニ  
非ズト信ス

予ハ今回事變ノ性質ト敵國ノ實情トニ鑑ミ戦局ノ際限ナク  
發展スベキヲ憂ヒ一昨年七月當局者ニ對シ、『苟モ機會ダ  
ニ來ラバ之ヲ捕捉シテ戦局ヲ收拾スベキコト』ヲ切言シタ  
リシガ我軍ノ北京天津占領ヲ見ルニ及ビ北支ニ於ケル我ガ  
勢力確立ノ可能ナルヲ思ヒ双方撤兵停戦ノ議ヲ建言シテ成  
ラズ、次イデ南京攻略ニ際シ再ビ當局ニ進言シテ『今回ノ  
事變ハ恰モ漢ノ匈奴ニ於ケルガ如ク又唐ノ突厥ト戦フト似  
テ懸軍萬里撃テバ逃レ止マレバ反攻シテ底止スル所ヲ知ラ  
ズ、タトヘ高祖平城ノ難、那翁モスコノ敗ヲ招クコトナ  
キモ前途ノ困難ハ容易ナラサルモノアリ』トノ趣旨ヲ再三  
陳述シ殊ニ共產露國ガ北方ニ虎視眈々タルヲ指摘シテ講和  
ヲ切論シタルガ當局者モ亦當初ヨリ戦局ノ收拾ニ關シテ苦  
心焦慮セラレタル折柄偶々獨乙大使ノ斡旋アリテ和議ニ着  
手スルニ至リタリ然ルニ不幸ニシテ事成ラズ已ニシテ漢口  
ノ攻略ニ際シ復タ講和ノ建議ヲ爲シタルガ恰モ好シ孔祥熙  
ノ萱野氏ニ對スル發案ニ初マリ日支兩國代表會見ノ順序ニ

運ビタルモ偶然ノ事情ハ九俎ノ功ヲ一篲ニ欠クニ至リタリ  
爾後今春ニ至リ陳誠ノ萱野氏ニ對スル發意ニ初マリ予モ亦  
其間ニ斡旋シタルハ赴香始末ニ記スル所ノ如シ

今ヤ戦亂已ニ三年ニ亘リ皇軍ハ疾風ノ勢ヲ以テ敵軍ヲ驅逐  
シ全世界ヲ驚倒セシメタルモ蔣介石ハ容易ニ没落セズ其ノ  
軍隊ノ勢力モ尙ホ侮ル可ラザルモノアリ加之支那國民ノ抗  
戰意識ハ頗ル旺盛ニシテ最後ノ勝利ヲ得ベシトノ宣傳ヲ信  
ズルモノ少ナカラザルノ實情ニ在リ而シテ汪兆銘ノ新政府  
ハ近ク成立スベシト雖モ其ノ統治ノ實力ハ容易ニ我軍ノ占  
領地域以外ニ及ボシ難カルベク支那地方ノ大部分ハ依然ト  
シテ敵國ノ支配下ニ在ルノ實情ナリ此クノ如クニシテ交戦  
久シキニ亘ランカ我カ聖戰ノ目的ニ反對シテ日支ノ親善ハ  
益々障害セラレ共產黨ノ勢力ハ日々ニ猖獗ヲ加ヘ支那ノ事  
態ハ紛糾錯亂收拾ス可ラズ之ヲ統一シテ東洋ノ平和ヲ確立  
スルハ前途遼遠ノ感ナクンバアラズ不幸ニシテ國際關係上  
一朝不慮ノ變ヲ生ズルガ如キコトアラバ之レガ對策ハ實ニ  
容易ナラザルモノアリ予ハ我軍ガ益々進ンデ敵ヲ殲滅スル  
ヲ冀フト同時ニ當局諸公ガ東洋平和ノ確立ニ就キテ深く思  
ヲ致サンコトヲ切望シテ止マザルモノナリ

(欄外記入)

307

昭和14年10月24日

外務省作成の「事變處理ト之ニ對スル外交的措置」

事變處理ト之ニ對スル外交的措置

(十四、十、廿四)

(一)今次事變ハ歐洲戰爭長引クトノ見透シ未タ判然タラサル國際情勢(見通ラズ)(別紙甲參照)及事變處理ヲ速ニ完成シテ日滿支三國經濟的自給自足ノ體勢ノ急速確立ヲ必要トスル外對米關係ノ惡化ハ事變處理竝國防及戰時經濟體制ノ既定計畫ノ遂行ヲ不可能ナラシムルト云フ帝國經濟財政上ノ必要(別紙乙號參照)(別紙乙號參照)等ニ鑑ミ可及的速ニ且既定ノ事變處理方針ニ基キ此カ處理ノ完成ヲ計ルト共ニ英米ニ對スル關係ヲ調整シ彼等ヲシテ右帝國ノ事變處理ニ協力セシムル様誘導スルコト目下ノ急務ナリト認ム

編注 野村外相、谷外務次官、堀内東亞局長の閱了サインあり。

(二)事變處理ノ完成ヲ計ル爲ニハ第一ニ其目標トスル中央政

府ノ樹立ヲ促進シ之ヲシテ速ニ支那四億民衆ノ人心ヲ把握セシメ之ニヨリ占領地全域殊ニ中南支ニ蠢動スル共匪遊擊隊土匪ニ對スル一般民衆ノ支持ヲ阻止シ依テ以テ治安恢復土匪討伐ニ對スル軍ノ活動ヲ最少限度ニ局限シ得ル如ク仕向ケルコト極メテ肝要ナリ之ノ目的ヲ達スル爲ニハ

(1)中央政權ニ對スル日本ノ把握ヲ絕對必要ナル最少限度ニ止メ中國人ヲシテ新政權ハ正シク眞實ノ中華民國ノ政府ニシテ日本カ屢次聲明セル事變處理ニ對スル國策ハ決シテ羊頭狗肉ニ非ラス之ニ依リ支那ノ領土主權ハ完全ニ保持セラレ新政權ノ從來ノ國民政府ト異ル所ハ容共抗日ニ對シ反共親日ヲ其ノ根本國策トナシ日滿支三國ノ政治經濟文化ノ提携ヲ強化スルト謂フ日本側ノ希望ニ合作スルモノニシテ右ハ獨リ日滿兩國ノ利益タルノミナラス中國ノ生存及國民民福ノ増進ニ寄與スル所以ナリト考ヘシメ全面的ニ新政權ヲ支持スルカ如キモノタルヲ要スルト共ニ

(2)北支ノ特殊性ニ就テモ右(1)ノ如キ中央政府ノ建前ヲ沒



却セシメサル限度ニ於テ之ヲ具体化スルコトヲ必要トスルモノニシテ萬一北支特殊性ノ強化カ恰モ滿洲國又ハ蒙疆政府ノ如キニ到ルコトアラバ其レハ日本ハ獨立性アル中央政權ヲ看板トシテ支那國民ヲ僞瞞シツツ北支ヲ實質的ニ併合シ次テ中南支ヲモ同様ノ運命ニ陥レルモノナリトノ深刻ナル疑惑ヲ抱カシメ新政權ニ依ル支那人心收攬ノ目的ヲ達スルコト能ハス結局日本ハ數百萬ノ大軍ヲ支那全域ニ配置シ武力ヲ以テ長年月ニ亘リ支那征服ヲ計ルノ外事變收拾ノ道ナキニ立到ルモノニシテ如斯キハ帝國國運ノ前途ヲ危殆ナラシムルモノナリ。

(3)前記ノ如キ事變處理ノ方針ハ帝國朝野ノ識者ノ何人モ異存ナキ所ナレバ右方針ノ決定ハ左マテ困難ナラサルヘキモ其ノ實行カ極メテ困難ナルコトハ從來ノ實例ニ徴シ頗ル懸念セラルル所ナルヲ以テ此際右方針ヲ確實ニ實現シ得ル様政府トシテ充分綿密ナル措置ヲ決定スルコト亦極メテ肝要ナリ。

(三)事變處理ノ第二ノ目的タル日滿支三國間ノ緊密ナル經濟提携ニ就テモ又同様ニシテ即チ

(1)經濟提携ハ日本國民ニ依ル支那國民ノ搾取ニ墮スルコト無ク名實共ニ三國民ノ互助連環共存共榮ヲ實現セシムル様我實業家ヲ始メ出先各機關全體ヲ指導スルコト必要ニシテ之カ爲先ツ現ニ行ハレツツアル幾多ノ不合理ナル搾取の經濟合作事業乃至軍管理事業ハ漸次之カ調整ヲ計ルコト必要ナリ

(2)右經濟合作ノ現狀ニ就キテ見ルニ中支ハ素ヨリ北支ニ於ケル經濟開發ノ核心ヲ爲ス國策會社ノ事業即鐵道其他ノ交通通信鑛山電力擴充等ノ所謂基礎的產業ノ現狀ハ何レモ機材ノ不足ノ爲之カ計畫ノ實行ハ遲々トシテ進マス當分才預ケノ形ニ在リ之カ打開ノ爲ニハ勢ヒ外國側ノ實物出資ヲ認メ極力之ヲ誘致スル外道ナシ又經濟開發ノ他ノ主要部門タル農產物殊ニ棉花ノ改良増產ニ就テハ數年前ヨリ設立セラレタル文化事業部所屬ノ華北產業研究所ハ實業部ノ管理下ニ立チ其ノ技術的研究ト指導ノ計畫ヲ着々進メツツアルモ今回ノ北支大水害ニ於テ之カ實現ハ尙相當ノ年月ヲ要スルコトトナルヘシ

(3)經濟問題ニ就テ更ニ重要ナルハ法幣崩落ニヨル異常ナ

ル外國輸入品ノ缺乏ト之ニ基ク物價暴騰ニ依ル中國國民ノ生活脅威ノ問題ナリ今日ノ現狀ヲ茲數ヶ月間放置スルニ於テハ四億ノ中國民衆ハ飢寒ヲ凌クニ由無ク大多數ハ土匪群ニ投シ新秩序建設、經濟復興ノ如キハ問題トナラス治安維持上極メテ寒心スヘキ事態ニ立到ルヘシト觀測セラルル處之カ救濟策トシテハ法幣ヲ崩落前ノ狀態ニ安定セシムルヨリ外途ナキ處之カ方法トシテハ

(A) 英米等ヲ誘ヒ平衡資金ノ設定ノ爲ニ借款ヲ供與セシムルコト一案ナルモ此種平衡資金ノ管理運用ハ從來ノ如ク國際管理ニ陥ルコトヲ避ケ新政權ヲシテ主動的立場ニ立タシメ日本之カ内面指導ニ當ルコト必要ナルカスノ如キ條件ヲ以テ英米ノ借款ヲ誘致シ得ルヤ否ヤハ大イニ考慮ノ餘地アリ右不可能ノ場合ニハ(B) 勢ヒ法幣ヲ例ハハ一志二片ニ釘付シテ爲替貿易ノ管理ヲ行フコト必要ナルヘキカ此措置ハ英米カ從來主張セル在支權益ノ保護乃至門戶開放商業上ノ機會均等ニ正面ヨリ反對スルコトナリ之カ爲兩國ニ對スル關係上極メテ困難ナル問題ヲ起スコトトナルヘキ

ヲ以テ本案採用ノ場合ニハ例ヘハ

(イ) 排英運動ノ徹底的打切り(ロ) 從來毀損セル英米權益ニ對スル合理的調整(ハ) 現二行ヒツツアル空爆ノ適當ナル調節及(ニ) 長江ノ一部開放等ヲ實行シ日本カ事變以來中外ニ聲明シツツアル外國權益尊重門戶開放機會均等主義ノ遵守等ノ方針ヲ着實ニ實行スル用意アルコトヲ彼等ニ納得セシメ而モ此ノ貿易爲替ノ管理ハ支那ヲ滅亡ヨリ救ヒ其經濟ト市場ヲ復興セシムル爲ニ絶對的必要ナル措置ニシテ何等排外的又ハ門戶閉鎖ノ措置ニ非ラサルコトヲ納得セシメ之ニ對スル協力ヲ勸説スルコト必要ナリト考ヘラル。

(四) 前記事變處理ノ政治經濟上ノ措置ハ一面支那國民ノ人心ヲ收攬シ之ニヨリ蔣介石ノ長期抗戰ヲ解消セシムル上ヨリ必要ナルノミナラス他面英米其他ノ列國ヲシテ其ノ援蔣政策ヲ放棄セシメ帝國ノ事變處理ニ協力セシメル爲ニモ極メテ必要ナリト思考ス。

蓋シ近く成立スヘキ汪精衛ヲ中心トスル新中央政權ニシテ既ニ前述ノ如ク傀儡政府ニ非ラス支那全國民ノ支持スルカ如キ立派ナル政權タリ其政治上ノ方針ハ反共親日主

義ニ基キ日本トノ合作ヲ強化スルモ同時ニ何等列國ヲ排斥スルコト無ク門戶開放機會均等ノ主義ヲ嚴守シ但從來ノ蔣介石政權ト異ル所ハ從來列國ノ貿易企業力常ニ隨伴シタル支那ニ對スル政治的霸制ヲ排除スルニ過キサルトヲ如實ニ示現スルニ於テハ列國トシテハ之ヲ相手ニシ之二依リ貿易企業等自國ノ經濟文化ノ權益ヲ保持増進セシメ得ヘキモノナレハ強ヒテ蔣介石ヲ援助シ之ニヨリ權益ノ擁護ヲ計ル要ナキニ到ルヲ以テナリ。然シテ新政權ヲシテ右ノ如キ經濟的ノ門戶開放機會均等ヲ如實ニ實行セシメルニハ差當リ尠クトモ前記(三)(B)貿易爲替管理實行ノ前提トシテ掲ケタル四個ノ調整ヲ實行セシムルコト必要ニシテ右ノ内長江ノ一部開放ニ就テハ相當異論アルヘキモ現狀ノ下ニ於ケル長江ノ閉鎖ハ作戰上ノ必要ヨリモ寧ろ日本人ノ貿易海運上ノ利益ヲ確保スルコトヲ目的トスルモノト認メラレ(長江ニ於テ土產買入ノ爲ノ支那人同業組合ノ結成艇組合ノ組織等各種ノ措置ハ英米ノ既ニ感知スル所ニシテ我方ニ於テ作戰上ノ理由ヲ強調スルトモ彼等ヲ首肯セシメ難キモノト思考セラル)即帝國國此上無限ニ長江ノ閉鎖ヲ維持スルコトハ正シク經濟上ノ

排他的目的ヲ達スル爲ニ支那ノ門戶ノ閉鎖ヲ固執スルニ外ナラス如之キハ英米ニ於テ實力ニ訴フルトモ容認シ能ハサル所ナルヘシ。猶長江ノ一部開放ハ米國ニ於テ門戶開放ノ主義上極テ重視スル所ナルモ同國ニ對シテハ差シタル實質的の利益ヲ與ヘス寧ろ英國ニ對シ實際上ノ利益ヲ提供スルモノナレハ此點ハ對英關係ノ取扱上充分利用スヘキモノト考フ

猶前記四個ノ調整ヲ實行スルニ當ツテハ帝國出先機關ニ於テ中央ノ方針ヲ確實ニ實行スル様周到ナル措置ヲ講スル要アルコトニ付殊ニ意ヲ用フル必要アリ

更ニ對英米關係ニ於テ殊ニ考慮ヲ用フヘキハ帝國力客年十一月英米ニ對スル回答ニ於テ列國ノ在支權益ヲ尊重シ門戶開放機會均等主義ヲ尊重スヘキコト勿論ナルモ東亞新秩序建設ノ爲ニハ之ニ對シ或程度ノ制限ヲ加ハサルヲ得スト言明シ居ル點ナルカ右言明ハ英米ニ對シ帝國力恰モ廣汎多岐ナル制限ヲ加フルカ如キ印象ヲ與ヘ彼等ヲシテ深く危懼ノ念ヲ抱カシメ其結果事變處理非協力ノ態度ヲ一層硬化セシメ居ル現狀ニ鑑ミ將來對英米關係ヲ調節シ彼等ヲシテ事變處理ニ協力セシメル爲ニハ右制限ノ範

308

昭和14年11月3日

在上海三浦総領事より  
野村外務大臣宛(電報)

野村外相の就任により日米関係が修復に向か

圍ヲ明示シ帝國カ新秩序建設ノ爲ニ必要トスル外國權益  
等ノ制限ハ極メテ小範圍ニ止マルコトヲ理解セシムルコ  
ト必要ナルヘシ(例ヘハ經濟開發ノ基礎的産業タル鐵道  
鑛山電力ノ如キ國防ニ關係アル産業ニ就テモ前述ノ如ク  
日本ハ外資歡迎ヲ必要トスル現狀ニ於テ右範圍ノ限定ハ  
困難ナラサルヘシ)

猶前記事變處理ニ必要ナル外交的措置ノ實現ニ當リテハ  
内政上ハ素ヨリ外交上ニ於テモ右ハ帝國ノ事變處理ニ對  
スル既定方針ノ推進又ハ發展ナルコトヲ充分納得セシメ  
決シテ從來ノ方針ノ百八十度ノ轉換ナリト云フカ如キ宣  
傳ニ累セラレサル様充分ノ措置ヲ講スル必要アリ

(欄外記入)

十月二十三日大臣幹部會議ノ結果ヲ纏メタルモノ  
大臣ヨリ二十四日首相關係閣僚ニ腹案トシテ披露

~~~~~

うとの論調を受け重慶側に焦燥の色が見られ
る旨の観測報告

上海 11月3日後發
本省 11月3日後着

第三〇六二號

一、獨蘇不可侵條約締結ノ後ヲ受ケテ阿部内閣成立スルヤ當
地外人方面ニ於テハ日本ハ愈英米トノ關係調整ニ乗出ス
ヘシトノ觀察ヲ下ス向多ク英國系新聞ノ如キハ進テ我方
ニ接近セントスルノ「ジエスチユア」ヲ示シ論調著シク
協調的トナリ其ノ後續テ野村外相ノ就任ヲ觀ルヤ前記觀
察ハ更ニ一般的トナレリ
米國ニ多數ノ知己ヲ有スル野村大將ノ外相就任ハ政府カ
對米關係ヲ重視シ居ルヲ示スモノナル旨九月二十三日東
京發同盟ニ依リ報道セラルルヤ當地各英字紙ハ社説ニ於
テ新外相ノ主ナル任務ハ日米關係ノ調節ニアリトカ(上
海「タイムス」)野村大臣ノ就任ニ依リ日本ノ對米政策ハ
次第二建設の方面ニ向フヘシトカ(イブニングポスト)論
評シ又九月二十七日「チャイナプレス」ハ外交方針ニ關
スル外相ノ談論ヲ論評シ(イ)事變處理(ロ)歐洲戰爭不介入(ハ)

國際關係調整ノ三原則ニ言及シ殊ニ最後ノ點ニ付テハ新外相ハ米國ヲ刺戟セサル様有ユル手段ヲ講スヘキモ米國權益侵害ハ依然懸案トシテ殘存スヘシト述ヘ我方カ對英米接近ヲ企テタルヲ豫期スルカ如キ筆致ヲ示セリ

前記²⁾ノ如キ新聞論調ノ反響トシテ重慶側ニ於テハ明カニ不安焦躁ノ色ヲ示シ日米和解ノ困難ナルコトヲ躍起トナリ宣傳シ始メタルカ九月二十八日ノ王寵惠ノ「ユーピー」特派員「モリス」ニ對スル談話(往電第二七九六號)十月十七日同特派員ニ對スル孔祥熙ノ談話(往電第二九三四號)等ハ其ノ著シキ例ニテ支那側宣傳ハ當地友人筋ニハ寧口逆效果ヲ呈シ日米關係好轉ノ印象ヲ與ヘタル節アリ

三、十月一日西尾總司令官ノ聲明發表セラレタルカ第三國權限ハ努メテ保護尊重スル旨ノ言明アリタルニ依リ外人間ニ好印象ヲ以テ迎ヘラレ更ニ二十五日首相ノ新聞記者ニ對スル談話ハ我方ト第三國トノ關係改善ノ前兆ナリトシテ歡迎セラレタリ

三、十月三十日「グルー」大使ノ日米關係ニ關スル演説及之ニ對スル我方新聞ノ論調ハ前記國際好轉ノ當地空氣ヲ曇

ラセタルモ日本ト英米トノ國交調節ノ印象ハ相當強キモノアリ殊ニ最近東京同盟及「ロイター」電トシテ政府カ英米トノ會談ヲ開始スヘシトノ報道傳ハラレ當地英米側ハ右會談ニ大ナル期待ヲ掛クルニ至レリ

斯ル³⁾一般ノ空氣ナリシヲ以テ須磨情報部長談トシテ日本政府ハ公式非公式ヲ問ハス英米トノ會談ヲ開始セント試ミタルコトモ無ク其ノ意思モナキ旨十月三十日及十一月一日同盟及「ロイター」電ヲ以テ報道セラルルヤ當地英字紙ハ何レモ之ヲ「トツプニユース」トシテ取扱ヒ各方面トモ頗ル期待外レニテ奇異ノ感ヲ抱キタルモノノ如シ

四、前記情報部長談ハ表面ノ談話以外ニ何等カ意味ノアルコトト思考セラルル處當地租界問題乃至第三國權益問題ニ關聯シ英米側ト折衝スル上ニモ又外國新聞記者トノ應酬ノ上ニモ心得置クノ必要アルニ付其ノ眞意御回電アリタシ

北京、天津、南京、漢口、香港、廣東へ轉電セリ

309
昭和14年11月15日

外務省が作成し陸海軍の了解を求めた「對外
施策方針要綱」

付記一 昭和十四年十一月十九日、東亞局作成

「對外施策方針要綱 陸軍當局ニ手交ニ關スル件」

二 昭和十四年十一月二十三日、東亞局第一課作成

「對外施策方針要綱ニ對スル陸軍側修正意見

ニ關スル件」

三 昭和十四年十二月二十八日

「對外施策方針要綱決定ノ件」

對外施策方針要綱

(昭和一四、一一、一五、委員會決定)

歐洲戰爭ノ勃發ニ依リ國際情勢ノ急轉ヲ見タル現下ノ時局ニ於テ之ニ對スル帝國ノ對外政策ハ東亞新秩序ノ建設ヲ基本目標トシ、差當リ對外施策ノ重點ヲ次ノ如ク定メ、情勢ノ變化ニ即應スヘキ方策ニ付テハ更ニ考究整備スルモノトス

第一 歐洲戰爭對處方針

一、歐洲戰爭ニ對シテハ戰局ノ段階進行シ各般ノ情勢ニシテ明カニ帝國ノ參戰ヲ得策トスルノ時期到來スレハ格別差當リハ不介入ノ方針ニ則リ帝國ノ中立的立場ヲ最モ有效ニ活用シ國際情勢ヲ利導シテ支那事變處理ノ促進ニ資スルト共ニ南方ヲ含ム東亞新秩序ノ建設ニ對シ有利ノ形勢ヲ醸成スル如ク施策スルモノトス

二、帝國ノ中立的立場ノ運用ニ當リテハ特ニ帝國ノ支那事變處理ニ對スル當該國ノ同調性竝ニ帝國國運ノ發展ニ對スル當該國ノ障礙性等ヲ考量ニ入レ適宜按配スルモノトス

三、歐洲戰爭ニ關聯スル國際情勢ノ利用ニ當リテハ戰局ノ變化情勢ノ急轉等ヲ注視シテ機ヲ逸セサル様留意スルモノトス

第二 支那事變對處方針

一、支那事變處理ハ既定ノ基本方針ニ依ルモノトス

二、支那事變處理ノ促進ヲ圖リ此ノ際特ニ支那新中央政府ノ樹立工作ヲ中心トスル政治的施策ノ效果ヲ確實ナラシムル如ク努ムルト共ニ日滿支經濟建設ニ付テハ成ルヘク速ニ其ノ實效ヲ舉クルコトヲ目途トシテ内外ノ情

勢ニ應シ適當ナル施策ヲ行フモノトス

三、歐洲戰局ノ進展等ト睨ミ合セツツ支那新政權ヲ指導シテ事變目的ノ達成ニ障害アル支那ノ舊國際秩序(例ハ租界及治外法權)ヲ逐次調整セシムルノ方針ヲ採ルモノトス但シ我方ニ對スル利害關係ノ重大ナルニ鑑ミ其ノ時期及方法ニ付テハ之ヲ慎重考慮ス

第三 主要列國ニ對スル施策方針

一、帝國ハ不動ノ國策トシテ防共ノ方針ハ之ヲ堅持スルモ蘇聯ニ對シテハ特ニ支那事變中兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ就中國境ノ安全ヲ保持シ且國境ニ於ケル紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和の折衝ニ依リテ之ヲ解決ヲ圖ル爲所要ノ外交措置ヲ講スルモノトス但シ蘇聯ノ政策ハ時ニ急角度ノ轉向ヲ爲スコトアリ且其ノ赤化政策ハ執ナルモノアルヲ以テ警戒ヲ怠ラサルヲ要ス

(イ) 國交平靜化ノ爲ニハ一般の國境問題ノ解決、通商協定ノ締結及漁業基本條約、北樺太利權(情況ニ依リ北樺太ノ買收)等ノ懸案解決ヲ考慮ス

(ロ) 國境問題ハ平和的折衝ニ依リ解決スヘク紛爭處理及國境確定ノ兩委員會設置ヲ企圖ス

(ハ) 不侵略條約ハ蘇聯ノ對支援助放棄及日滿脅威軍備ノ解消等不侵略態勢カ大體確實トナルカ或ハ我方ノ對蘇軍備充實シ必勝ヲ期シ得ル迄ハ之ヲ公式ニ取扱ハス

而シテ先方ヨリ之レカ提議アリタル場合ニハ條約締結ヨリモ本質の態勢確立カ急務タルヘキヲ力説シ此種先方ノ氣持チヲ諸懸案ノ解決促進ニ利用シツツ本質の態勢ノ確立ニ誘導スルモノトス

二、米國ニ對シテハ我事變處理ニ對シ經濟的手段等ニ依リ妨害干渉ヲ加ヘ來ルヲ防止シ少クトモ無條約狀態ニ陥ラサルヤウ努ムルト共ニ實質的ニ我事變處理ニ同調の態度ヲ執ラシムルコトヲ目途トシテ施策スルモノトス米國ノ對日態度ノ惡化ハ主トシテ(イ) 在支米人若ハ米國ノ宗教的文化的施設ニ對スル我軍事行動ノ餘波(ロ) 支那ニ於ケル米國ノ經濟活動ニ對スル影響(ハ) 支那新秩序ノ實體ニ關スル疑惑不安等ニ起因スルモノナルニ因リ其原因ヲ除去スルノ工作ヲ爲スモ(別紙對米施策參照)我方ノ弱味乃至焦燥の氣分ヲ示スコト無キヤウ留意スルト共ニ場合ニ依リテハ牽制の手段(獨蘇又ハ中南米ト

ノ關係等ヲ考慮シ得ヘシ)ヲ仄カスノ要モアルヘク且米國カ飽クマテ政治的意圖ヲ以テ日本掣肘ノ態度ヲ固持スル場合ニ對スル措置ヲモ考究シ置クヲ要ス

尙情勢ノ推移ニ依リ米國ヲ歐洲戰ニ專念セシムル爲又ハ戰亂ノ太平洋方面ニ波及シ來ルヲ防止シ若ハ我南洋對策遂行ヲ容易ナラシムル爲ニ必要アル場合ニハ米國ニ對シ政治的了解ヲ逐クル等適宜施策スルコトアルヘシ

「フイリツピン」ノ獨立ハ南方亞細亞解放ノ第一歩ナルコトヲ念頭ニ置キ比島ニ對スル米國ノ對日不安ヲ除去シ同島獨立ノ妨害トナラサルヤウ措置スルト共ニ是レト友好經濟關係ノ擴充ニ努力ス

三、英國ニ對シテハ同國カ支那ニ於テ政治的目的ヲ有セストノ同國ノ意嚮及帝國ノ中立的立場ノ利用竝ニ其ノ在支權益ニ對スル取扱等ニ依リ之ヲ利導シテ帝國ノ企圖スル東亞新秩序建設ニ對シ逐次同調スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムル如ク施策スルモノトス

支那問題ニ關シテハ我國ハ英國ニ對シ種々ノ牽制手段ヲ有シ且英國カ歐洲戰ニ漸次深入リシ來ルヲ見越シ

徐々且逐次ニ前記在支權益ノ調整等ヲモ加味シ個々ノ具體的問題ニ關シ讓歩セシメ牽テ我事變處理乃至東亞新秩序建設ニ資スヘキ基本的了解ノ素地ヲ作ルカ如ク指導スルモノトス尤モ歐洲戰ノ推移未タ逆睹スヘカラス又日支新關係設定モ進行中ノ今日前記在支權益ノ調整等ノ程度ハ英國ノ我事變處理ニ對スル同調的態度ノ程度ニ應シ適宜之ヲ定ムルモノトス

(イ)天津會談ハ前記日英交涉ニ入ルノ端緒トスルノ含ヲ以テ成ルヘク速ニ其後始末ヲ講スルモノトス

(ロ)英國ノ和平斡旋申入ニ對シテハ蔣介石ノ下野及國共

絶緣カ先行條件ナリトノ趣旨ニテ應酬シ又英國ノ汪

蔣間ノ妥協斡旋ニ對シテモ汪政權ヲシテ前記ノ趣旨

ニテ應酬セシムルモノトス

前記支那ニ關スル對英措置ト相俟テ歐洲情勢ノ機微ヲ利用シ英帝國諸地域トノ通商障害ヲ除去シ且特ニ南洋方面ニ對スル我方進出ヲ可能ナラシムル如ク努ムルモノトス(別紙南洋對策^(省略)參照)

對英米施策ニ關シ

(イ)支那新秩序建設ニ同調セシムルコト主眼點ナルニ依

リ先ツ支那新中央政府ノ樹立及日支新關係調整ノ内容ヲ確立スルヲ要ス其確立前ニ於テハ主トシテ先方肚裏ノ測定乃至懸案ノ交渉ヲ限度トシ我方ヲ拘束スルコトナシニ折衝ス

(四) 英米ノ不可分關係ニ留意スルト共ニ英ハ支那ニ於テ多大ノ權益ヲ有スレトモ之ヲ保全スルノ實力ナクモハ支那ニ於テ僅少ノ權益ヲ有スルニ過キサレモ日本ヲ掣肘スル力ハ最モ大ナルモノアルノ事實ヲ考量シ英米共通ノ利害アル問題ト雖モ別個ノ施策ヲ行フト同時ニ對英交渉ノ進捗ニ依リ共通問題ニ對スル米國ノ對日態度ヲ緩和セシムル如ク努ム

(ハ) 九國條約問題ハ支那新政權樹立後同政府ト協力シテ解決スヘク此際特ニ之ニ觸ルルヲ避ク

四、佛國ニ對スル施策ハ概ネ對英措置ニ準スルモ特ニ其東洋ニ於ケル立脚點ノ脆弱ナルヲ利用シテ對英措置ヲ容易ナラシムル如ク誘導スルノ考慮ヲ加フルモノトス
情勢ノ推移ニ應シ特ニ佛領印度支那ニ關シ先ツ蔣政權側ニ對スル軍需品輸送ノ停止竝ニ通商關係ノ改善排他獨占の政策ノ修正等ニ付我方要望ヲ容レシムル如ク施

策スルモノトス(別紙南洋對策參照)

五、獨蘇協定成立以來情況ノ變化ハアリタルモ獨伊兩國カ世界新秩序ノ建設上帝國ト共通ノ立場ニ立チ得ヘキ點ニ着目シ適度ノ提携及友好關係ヲ持續シ特ニ之カ活用ニ努ムルト共ニ日獨伊ノ疎隔ヲ印象付タルカ如キ措置ハ嚴ニ之ヲ慎ムモノトス

六、蘭國ニ對シテハ蘭領印度ニ關スル同國ノ不安ヲ考量ニ容レツツ我方進出ヲ可能ナラシムル如ク誘導シ差當リ特ニ此ノ方面ヨリノ我所要物資ノ獲得ヲ便ナラシムル如ク施策スルモノトス(別紙南洋對策參照)

七、「タイ」國ニ對シテハ眞ノ獨立完成ヲ支持シ且我方トノ文化的經濟の提携ヲ緊密ナラシムル如ク施策スルト共ニ適當ノ時機ニ於テ一定ノ政治的の了解ニ到達スル様誘導スルモノトス(別紙南洋對策參照)

第四 對外經濟政策大綱

日滿支經濟圈內ニ於ケル自給自足ノ促進、竝ニ現下國際情勢及戰後ノ事態ニ對處シ得ル帝國新經濟政策ノ樹立ヲ目標トシ特ニ左記諸點ニ留意シテ適正ナル施策ヲ行フモノトス

(イ)日滿支經濟圈ヲ一体トシ之ト諸外國トノ經濟關係ノ調整進ヲ計ルコト

(ロ)帝國產業貿易ノ特定國ニ對スル偏在的依存關係是正ニ努メ特ニ中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟的進出ニ留意スルコト英米ニ對スル過度ノ經濟的依存關係ハ成ルヘク速ニ脱却スルノ要アルモノ一舉ニ之ヲ爲シ得サル現狀ナルニ鑑ミ英米兩國トノ關係ニ付テハ充分ノ注意ヲ拂ヒ新支那經濟建設ニ協力セシムル様其ノ誘導ニ努ムルコト

(ハ)通商條約ノ締結等ニ依リ列國トノ經濟關係ヲ調整シ輸出貿易ノ振興ト帝國ノ不足資源ノ獲得ニ力ヲ致シ特ニ左記諸點ニ留意スルコト

- (1) 求償乃至互惠主義ニ重點ヲ置クコト
- (2) 當該相手國トノ政治的關係利導ニ努ムルコト
- (3) 採算上多少ノ不利ヲ忍ビテモ不足重要資源ノ確保ニ努ムルコト

(ニ)國防經濟自給圈確立ノ見地ヨリ特ニ南方諸地域ニ對スル經濟的進出ニ努ムルコト

(別紙)

當面ノ對米施策要綱

(昭四二、五、委員會決定)

一、目標

米國ノ對日強壓態度ノ故ヲ以テ東亞新秩序建設ノ大方針ヲ枉クルコトヲ許サス此ノ限度ニ於テ日米國交ノ調整ヲ圖リ實質的ニ我事變處理及新秩序建設ニ同調的態度ヲ執ラシムル如ク施策ス

右ト併行シ通商條約問題ニ付テハ少クとも無條約狀態ニ陥ラサルコトヲ期シテ交渉ス

二、要綱

(一)新秩序ノ闡明

米國ノ所謂「經濟上ノ機會均等ノ原則」カ新秩序ノ建設ニ依リ如何ナル程度迄制約ヲ受クヘキカヲ個々ノ具體的事例ニ付テ明確ニ説明ヲ與フルト共ニ新中央政權成立ノ進行ニ伴ヒ之ト我國トノ關係竝ニ該政權ト第三國トノ關係ノ公正ナルヘキコトヲ説明シ米國側ニシテ飽迄東亞新秩序建設ヲ妨害スルノ政治的意圖ヲ有スルモノニ非ル限リ我方ト同調シ得サル理ナキコトヲ領得

セシム

新中央政權ニ關スル説明ニ關聯シ之カ成立ニ際シ萬一米國カ全面的否認態度ニ出ツルニ於テハ日米國交現狀打開ヲ期スルノ余地無キニ至ル可キコトヲ適宜了解セシム

敍上ノ説明ニ力ヲ竭スニモ不拘尙米國カ政治的動機ヨリ之ヲ容認セサル態度ヲ示シタル場合ニ對シテ別ニ施策ヲ考慮スルモノトス

(二)懸案ノ解決

日米關係ヲ現狀ニ至ラシメタル重要原因ヲ成ス懸案解決ニ於テハ左ノ通り施策措置ス

- (イ)懸案解決ノ前提トシテ(一)支那ニ於テ大規模ノ軍事行動ノ行ハレ來レル事實竝ニ(二)帝國將兵ノ第三國權益尊重ニ對スル誠意及努力ヲ充分考慮ニ入レサル限り懸案ノ妥當ナル解決ヲ期シ得サルコトヲ了解セシム
- (ロ)軍事行動ノ結果生シタル被害事件ニ付テハ此際事變被害調査委員會ノ活動ヲ一層敏活ナラシメ既定方針ニヨリ文化施設ニ對スル解決ヲ先ニシテ處理シ急速解決ヲ期シ得サルモノニ付テハ其ノ理由ヲ明示ス

(ハ)軍事行動ニ關聯シテ又ハ新事態發展ニ伴ヒ米國人ノ

- 經濟活動ニ課セラレタル制限障礙ニ關スル懸案中(一)新中央政權ニ引繼カル可キモノ、(二)軍事行動ノ遂行中ハ如何トモシ難キモノ、(三)現在何等カノ考慮ヲ拂ヒ得ルモノトノ三種ニ截別シ、前二者ニ付テハ充分其ノ理由ヲ説明シ、第三種ノモノニ付テハ現地解決ヲ促進ス(其ノ爲必要ニ應シテハ中央ヨリ陸海外興等ノ係官ヲ合同出張セシメテ一舉ニ解決ヲ計ルモノトス)

- (二)前記(ロ)及(ハ)ニ關聯シテ將來此ノ種事案ノ發生スルコトナキヤウ適當ナル措置ヲ講スルコト肝要ナリ即チ(一)我軍占據地域ニ於ケル米國人及其ノ財産ノ取扱ニ注意シ(二)空爆實施ニ付テハ米國ヲ含ム第三國被害ヲ絶無又ハ極メテ減少セシムル様考究シ又(三)我方現地機關ニ於テ米國人經濟活動ニ何等制限ヲ加フル場合ハ事前ニ中央又ハ出先最高機關ニ經伺セシムルコトトスル等事案發生防止方ニ付現地ニ充分徹底セシムルコトヲ努ム

又現在實施中ナル對在支米國人宣教師工作ヲ進捗強

化ス

(三)通商條約問題開談ノ時機

以上(二)及(三)ニ關スル談合進行シ米國側ノ意嚮ニ對スル見透シツキ兩國々交現狀打開ノ一般問題ヲ取上ゲ得ル時機ニ達シタリト認メラレタル際機ヲ逸セズ現下ノ行詰リ狀態ニ陥ラシメタル通商條約廢棄問題ノ前後^(善)処置ニ付キ開談スル如ク誘導ス

(四)經濟壓迫措置ノ防止

米國ノ經濟壓迫措置ヲ防止スルカ爲メニハ通商關係カ無條約狀態ニ入ラサルコトヲ急務トナシ之カ爲メニハ新條約締結ニ努ムルコト勿論ナルモ右ニシテ不可能ナルニ於テハ出來得ル限り有利ナル暫定取極成立ヲ期スル等凡ユル努力ヲ爲ササルヘカラス併シ乍ラ極メテ惡化セル日米國交ノ現狀ニ於テ右モ不可能ナル場合アルヲ以テ右ノ如キ場合ニ備フル外交方策トシテ左ノ通り施策ス

(イ)主トシテ我方國內ノ輿論指導及對米宣傳工作ニ依リ強固ナル決意ヲ有スル日本ニ對スル米國ノ經濟壓迫ハ米國ヲ日本トノ戰爭ニ捲込ム危險アルコトヲ米國

民ヲシテ悟ラシメ、米國政府ヲ牽制セシムル如ク努ム

(ロ)日米國交現狀打開ニシテ不可能ナリトセンカ日本ハ蘇聯トノ間ニ何等カノ協定ヲ遂ケサルヲ得サルノ羽目ニ陥ルノ可能性少シトセス然ル場合ニ於テハ支那ノ赤化ハ免レサルヘキヲ以テ新秩序ノ建設カ全然別ノ形態ヲ採ルコトトナルヘク米國權益ノ保全伸長ハ期シ得サルヘキコトヲ了解セシムルコトニ努ム

但シ前記(イ)及(ロ)ノ宣傳工作實施ニ當リテハ最モ慎重巧妙ナルヘキコトヲ要ス

(ハ)中南米及南洋ニ對スル經濟工作ヲ強化シ又對露通商關係ヲモ改善シテ我國經濟ノ對米依存性ヲ減セシムルコトニ努ム

編 注 本要綱は外務省欧州戰対策審議委員會が起草。

(付記一)

對外施策方針要綱 陸軍當局ニ手交ニ關スル件

(昭和一四、一一、一九、亞)

(本覺ハ必シモ事務上ノ必要ヨリ記錄シ置クモノニ非
スシテ極ク最近ノ陸軍當局ノ赤裸々ナル外務省ニ對ス
ル觀方ヲ事務上ノ參考トシテ部外絶對極秘ノ含ミニテ
記錄シ置クモノナリ)

調査部第一課長ノ依頼ニ依リ十一月十八日土田東亞局第一
課長陸軍省ニ有末軍務課長ヲ往訪シ谷次官發阿南陸軍次官
宛封書ヲ手交スルト共ニ陸軍省及參謀本部用トシテ本件要
綱(別紙歐洲新情勢ニ對應スル南方政策及當面ノ對米施策
要綱ヲ附シタルモノ)ヲ手交シ外務省ニ於テ審議ノ結果決
定ヲ見タルモノニテ貴方ノ參考ニ供スル次第ナリト説明シ
尙近ク支那問題ヲ中心トスル對英米施策決定ニ至ルヘキニ
付出來ノ上ハ直ニ御目ニ掛クヘシト述ヘタル處有末課長ハ
本件要綱ノ陸軍省案ハ既二一ヶ月半前ニ外務省ニ御渡シ置
キタルモノナルカ茲二三ヶ月ノ極メテ重要ナル世界情勢ヲ
控ヘ外務當局カ容易ニ結論ヲ決定サレス今頃トナリテ頂キ
テモ實ハ餘リ熱ヲ持チ得ス尤モ外交施策ハ外務省ニ於テ指
導ノ立場ニ立チ自主的ニ遂行セラルルコト本筋ニシテ右カ
所謂外交一元化ナリト思フ次第ナルヲ以テ之ハ能ク拜見シ
置クヘキモ自分トシテハ内容ニ付彼是文句ヲ申上ケル積リ

ハナシ但シ前ニモ申上ケタル通り要ハ現在ノ緊要ナル時期
ニ於テ事カ具體的ニ着々ト運フコトカ最モ必要ナルニ付事
實問題トシテ着々實行ニ移サレンコトヲ希望スル次第ナリ
トノ所感ヲ述ヘタリ此ノ時永井、高山、石井三中佐等ノ課
員課長室ニ入室シ來リ交々本案ヲ繞リテ感想ヲ述ヘ居タル
カ其ノ中參考トナルヘキモノ左ノ通り

一、陸軍省案カ一ヶ月半ノ長期ニ亘リ放置サレタルカ如キ感シ
ヲ受ケ最早書物ヲ頂戴シテモ大ナル熱意ヲ以テ研究スル
氣持ニナリ得ス

二、陸軍側トシテハ現下時局ノ超重大性ニ鑑ミ外交ノ本家タ
ル外務省カ根本方針ヲ容易ニ決定出來ス從テ實際ノ手ヲ
打チ得サルカ如ク感セラレ先頃迄ハ隨分焦慮スル氣分ナ
リシカ今ハ諦メニ近キ考ニナリ居レリ

三、外務省カ貿易省問題ニテ外交一元化ノ原則ヲ守リ通シタ
ルコトニ付テハ種々ノ觀方アルヘキモ自分等トシテ八十
分肯キ得タル次第ナルカ扱テ事實ニ付觀ルニ前記ノ如キ
始末ナルヲ見テ甚タ落膽シ居レリ

四、世間ニテモ前記ノ如キ自分等ノ感想ニ同感ヲ表スル向多
ク外務省頼ミニナラストノ話ヲ度々耳ニスル實情ナリ

五、書物ハ書物トシ今後共外務當局ニ於テ本要綱ヨリ湧キ出
タサルル實際ノ外交手段ヲ着々執ラルル様熱望シテ止マ
ス

(右ニ對シテハ土田一課長ヨリ成程書物ヲ御渡シスル時
期ノ遅延シタルコトハ事實ナルモ今日持參セル要綱ハ外
務當局ノ榮智ヲ集メテ十分練リタルモノナルニ付内容ヲ
能ク檢討セラレ度、書物ハ書物トシテ着々手ヲ打タレ度
シトノ御希望ハ無論尤モノ次第ニテ本要綱研究中ニ於テ
モ既ニ必要ナル手ハ夫々打チ居ルコト御承知ノ筈ナリ今
後本要綱ヲ基トシ必要ノ具體的工作ヲ行フコトハ御申出
ナク共當然外務省ニテヤルヘキコトナルニ付爾ク落膽セ
ラルル必要ナシ等然ルヘク應酬シ置ケリ)

六、本要綱ヲ一瞥シタル處ニテハ餘程海軍側ノ意見カ重キヲ
爲シ居ル様感ヲ受ク殊ニ二ツノ別紙ハ大体ニ於テ海軍側
ノ常ニ問題視シ居ル所ト思ハレ海軍色甚タ濃キ案ノ如ク
思ハル

(右ニ對シテハ土田第一課長ヨリ此ノ際海軍ノ意見トカ
陸軍ノ意見トカヲ問題トスルコトハ首肯シ難シ、外務省
ニ於テ當然考慮ヲ拂フヘキ現下外交ノ重要項目ヲ取上ケ

出來上リタル二ツノ別紙ヲ要綱ト共ニ持參シタルニ過キ
ス近日中ニ支那問題ヲ中心トスル對英米施策ヲ決定ノ上
差上タルコトハ前ニモ申シタル通ナリトノ趣旨ヲ以テ應
酬シ置ケリ)

尙要綱ノ取扱ニ付テハ外陸海三大臣ノ申合位トシ外相ヨ
リ閣議ニ適當ノ機會ニ説明セラルル位カ宜シカルヘシト
述ヘ居タリ

(付記二)

對外施策方針要綱ニ對スル陸軍側修正意見ニ關スル件

(昭和一一、一一、一三三、亞一)

十一月二十三日陸軍省軍務課高山中佐土田東亞局第一課長
ヲ來訪シ先日土田ヨリ陸軍側ニ參考迄ニ交付シタル本件要
綱ニ付大要左ノ通り述ヘタリ

本件要綱ニ付其ノ後陸軍省及參謀本部合同檢討ヲ加ヘタ
ルカ大体ニ於テ之ニ基キ外務省ニ於テ御活躍願ヒ度シト
ノ熱望ニ一致シタルカ唯全体ノ外交ノ手ノ打方ニ付多少
陸軍ノ考ト違フ點アルヤニ觀測シ居レリ即チ陸軍ニ於テ
ハ事變處理ヲ當座ノ帝國ノ基本目標トシ續イテ東亞新秩

序ノ建設完成ニ至ル順序ヲ以テ出來得ル限り速ニ英・米・蘇等主要列國ノ動向ヲ前記目的ニ引付ケ來ルヤウ工作ヲナスコト必要ナリト考ヘ居リ實ハ此ノ點ハ一刻ヲモ争ヒ度キ様ノ氣分ニテ或ハ多少焦慮シ過キル如ク外部ヨリ取ラルルヤモ知レサルモ何トカシテ速ニ事變ヲ收メ度シト日夜苦慮シ居ル次第ナリ

次ニ要綱中出來得レハ御訂正ヲ願ヒ度キ點左ノ如シ

一、第三、主要列國ニ對スル施策方針一ノ(ハ)「不侵略條約ハ」以下ヲ削り次ノ項ノ冒頭「而シテ」ヲ削り直ニ「先方ヨリ之カ提案云々」ニ續クルヤウ致シ度シ(理由ハ今ヨリ將來ノコトヲ書キ置ク必要ナク又將來ヲ縛ルノモ適當ナラスト考ヘ居ルカ故ナリ)

二、第三、主要列國ニ對スル施策方針三ノ(ロ)中「蔣介石ノ下野及」ヲ「差當リ」ト變更致シ度シ(理由ハ重光在英大使ニ對スル訓令ノ趣旨ト合致セシメ度キ希望ナリ)

三、第三、主要列國ニ對スル施策方針五ノ中「適度ノ提携」トアルヲ「依然提携」ト改メ度シ(理由ハ原案ニテハ明瞭ヲ缺キ且現在我方ニ於テ提携ノ程度ヲ減ラスカ如キ考ハナキヲ以テナリ)

四、別紙歐洲新狀勢ニ對應スル南方政策中三、個別的的政策(四ノ對蘭政策ノ下ニ「至急實施」ナル字ヲ入レ度シ

(付記三)

對外施策方針要綱決定ノ件

十一月十五日附ノ委員會決定案ハ其ノ後陸海兩省ト交渉ノ結果左記四點ノ修正ヲ加ヘタル上十二月二十八日外務、陸軍、海軍三省間ノ決定事項ト爲シ三大臣之二署名セリ

一、原案第三、一(ハ)ヲ左ノ通り追加修正セリ(陸海兩方ノ希望)

「不侵略條約ハ少ク共蘇聯ノ對支援助拋棄及日滿脅威軍備ノ解消等ヲ前提要件トシ其ノ見透シ確實トナル迄ハ之ヲ公式ニ取扱ハス從テ我方ヨリ之ヲ提議スルコト無シ而シテ先方ヨリ之カ提議アリタル場合ニハ條約締結ヨリモ右前提要件確立カ急務タルヘキヲ力説シ此ノ種先方ノ氣持ヲ諸懸案ノ解決促進ニ利用シツツ不侵略態勢ノ確立ニ透導^(誘)スルモノトス

但對米施策ヲ有利ナラシムル爲日蘇接近ノ氣配ヲ裝フコトアリ」

三、第三、三(ロ)第一行目(「蔣介石ノ下野及國共絶縁」ノ下ニ

「ハ我方ノ對重慶方針ナルモ英國利用ノ觀點ヨリシテ差
當リハ國共絶縁」ヲ加フ(東亞局及陸軍ノ希望)

三、第三、五冒頭第二行目ノ「適度ノ提携」ヲ「依然提携」

ト修正ス(陸軍ノ希望)

四、第四、一(ロ)(ハ)(ニ)ノ各項ノ順序ヲ入れ替ヘ(ニ)ヲ(ロ)トシ(ロ)(ハ)

ヲ夫(ハ)(ニ)ニ繰下ク(海軍ノ希望) 以上

尚本「方針要綱」ノ附屬タル「南方施策」及「對米施策要
綱」ハ今回ノ三大臣申合セヲ一應保留セルコトトセリ



310

昭和14年12月16日

野村外務大臣より

在英國重光大使、在米國堀内大使、在
上海加藤(外松)公使他宛(電報)

事變處理に関する当面の外交施策方針につき通報

本省 12月16日午前0時30分發

合第二八五四號(極秘、館長符號扱)

一、現下帝國ノ直面セル内外ノ情勢ニ鑑ミ且帝國國運ノ前途
ヲ按スルニ現段階ニ於ケル帝國當面ノ緊要事ハ支那事變
ノ處理ニ在リ從テ目下帝國諸般ノ主要施策カ事變處理ノ

完遂ヲ目指シテ企劃運用セラレツツアルコト御承知ノ通
リニシテ帝國當面ノ外交施策ノ基本目標モ要スルニ事變
處理ノ完遂ヲ輔翼スルコトニ存スル次第ナリ

二、事變處理ノ方法トシテ軍事的手段ト相並ヒテ政略的施策
ノ重要ナルコト言フ俟タス目下右政略的施策ノ一トシテ
御承知ノ通り汪精衛ヲ中心トスル新中央政府ノ樹立工作
カ進メラレツツアル處右ハ夤意改替セル重慶側ヲ之ニ合
流セシメ以テ事變處理ノ目的達成ヲ促進セシメントスル
モノナルカ之カ爲ニハ一面第三國ヲシテ我ニ同調セシム
ルノ施策ヲ必要トスルコト敢テ指摘スル迄モナク從テ此
ノ角度ヨリスルモ今次事變ニ於テハ曩ノ滿洲事變ノ際ニ
於ケルト事情ヲ異ニシ其ノ處理ノ方法トシテ政略的施策
トシテノ外交工作ノ重要性ノ比重カ特ニ大ナルモノアル
ヲ感セラルル次第ナリ

三、事變處理ノ完遂輔翼ヲ當面ノ基本目標トスル現下帝國外
交施策ノ任務ハ差當リ物動計畫生産力擴充計畫等我戰時
經濟ノ運行ニ重大ナル齟齬ナカラシムル上ヨリスルモ又
我軍事的力量ヲ支那事變處理以外例ハ對蘇關係ニ於テ
消耗スルノ機會ノ發生ヲ防止シ我事變處理態勢ヲ鞏化ス

ルノ必要ヨリスルモ將又前記重慶ヲ睨ム新中央政府樹立工作ノ政治的目的達成ノ上ヨリスルモ益々其ノ重要性ヲ加重シツアル次第ナル處當面ノ外交施策ノ重點ニ關シ中央ニ於テ抱懷スル意見(總理、外、陸、海大臣諒解濟)要領左ノ通りナルニ付出先ニ於テモ夫々右御含ミノ上此ノ上トモ善處セラレ度

(1) 事變處理上對英米外交ハ對蘇外交ト並ヒテ極メテ重要ナル地位ヲ有スルモノナルカ先ツ米國ニ對シテハ我事變處理ニ對シ經濟的手段等ニ依リ妨害干涉ヲ加ヘ來ルヲ防止シ少クトモ無條約狀態ニ陥ラサル様努ムルト共ニ新中央政府成立ノ曉實質的ニ同政府ノ立場ヲ認メ之ト協調的態度ヲ執ラシムルコトヲ目途トシテ施策シ之カ爲差當リ(イ)在支米人又ハ米國ノ宗教的文化的施設ニ對スル我軍事行動ノ餘波ニ基ク被害事件ノ速カナル合理的解決ヲ圖ルト共ニ將來同種事故ノ再發ヲ防止スル爲有效ナル措置ヲ講シ(ロ)在支米人ノ通商的活動ニ對スル既存ノ制限ヲ成ルヘク緩和除去スルト共ニ新ニ通商制限ヲ課スル場合之ヲ合理的ナラシムル爲所要ノ處置ヲ執リ(ハ)上海共同租界北部地域問題及滬西問題等ノ解

決ヲ促進シ(ニ)右等措置ニ依リ今後ニ於テモ第三國側ノ貿易企業投資等ニ付既存事實ハ尊重セラレ又將來ニ向テモ廣汎ナル活動分野ノ開放セラレ居ルコトヲ諒解セシメ以テ支那ヨリ閉メ出シヲ喰ハサルルニ非スヤトノ第三國側ノ不安ヲ除去スルノ要アリ

(2) 英國ハ目下歐洲戰爭ノ關係上東亞ニ於テハ積極的態度ニ出ツルヲ得サル立場ニアリト雖モ特ニ重慶政府ニ對スル「インフルエンス」ノ大ナルニ鑑ミ事變處理上對英施策ハ極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノナルヲ以テ之ニ對シテハ歐洲戰爭ニ對スル帝國ノ中立的立場ノ利用及其ノ在支權益ニ對スル取扱等ニ依リ之ヲ利導シテ我方ニ惹キ付ケ前記重慶ヲ睨ム新中央政府樹立工作ノ政治的目的達成ヲ助成セシムル結果トナルカ如ク施策スルノ要アリ而シテ右在支權益ノ取扱ニ付テハ前記米國ニ對スル取扱ト大体其ノ趣旨ヲ同シウシ英國ノ我事變處理ニ對スル同調的態度ト睨合セツツ之ヲ實行シ(支那ニ於ケル排英乃至排外運動ノ取締ノ勵行ヲ含ム)而シテ天津租界問題交渉ハ對英施策推進ノ端緒トスルノ含ミヲ以テ速カニ之ヲ實施スルノ要アリ

尙對英米施策ニ當リテハ英米利害關係ノ共通性大ナルニ鑑ミ大体ニ於テ双方施策ノ竝進ヲ計ルヲ要ス

(3)蘇聯ニ對シテハ我事變處理態勢ヲ鞏化スルノ必要ヨリ兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ就中國境ノ安全ヲ保持シ且國境ニ於ケル紛争ハ武力ニ訴フルコトナク平和的折衝ニ依リテ之カ解決ヲ期スル爲所要ノ外交措置ヲ講スルト共ニ通商協定ノ締結及漁業條約北極太利權等ノ懸案解決ヲ考慮スルノ要アリ

(4)佛國ニ對スル施策ハ概ネ對英措置ニ準スルモ其ノ東洋ニ於ケル立脚點ノ脆弱ナルヲ利用シテ之ニ依リ對英措置ヲ容易ナラシムル如ク考慮ヲ加ヘ又特ニ佛領印度支那ニ關シ先ツ蔣政權側ニ對スル軍需品輸送ノ停止竝ニ通商關係ノ改善排他的獨占的政策ノ是正ニ付我方要望ヲ容レシムル如ク施策スルヲ要ス

(5)獨伊兩國ニ對シテハ兩國カ世界新秩序建設上帝國ト共通ノ立場ニ立チ得ヘキ點ニ着目シ依然友好關係ヲ持續シ支那新中央政府樹立工作ノ目的達成竝ニ對英米佛施策上ニ於テモ之カ活用ニ努ムルト共ニ日獨伊ノ疎隔ヲ印象付クルカ如キ措置ハ嚴ニ之ヲ慎シムノ要アリ

(6)蘭領印度、「タイ」國其ノ他南洋諸國ニ對シテハ我經濟自給圈ノ一環タラシムルノ考慮ヨリ差當リ我所要資源ノ獲得竝ニ我商品ノ進出、邦人企業ノ發展ヲ便ナラシムル如ク施策スルノ要アリ

(7)帝國產業貿易ノ特定國ニ對スル偏在的依存關係ノ是正ニ努メ特ニ中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟的進出ニ留意スルノ要アリ

本電宛先 在外各大公使(加藤公使ヲ含ム)、在支各總領事、香港、「シドニー」、「バタヴィア」、河内、新嘉坡

各大公使ヨリ夫々裁量ニ依リ管下領事ニ本大臣ノ訓令トシテ轉電アリタシ

311 昭和14年12月21日 在上海三浦總領事より野村外務大臣宛(電報)

外交施策方針実施に当たっては軍中央の統制による軍側現地機関への方針徹底が肝要の旨意見具申

上海 12月21日後発
本省 12月21日夜着

第三三二二號(館長符號扱)

貴電合第二八五四號ニ關シ(事變處理ニ關スル當面ノ外交
施策方針ノ件)

段々ノ御訓示ノ次第ハ職ヲ外務省ニ奉スルモノトシテ素ヨ
リ同感ノ次第ニシテ本官ニ於テ此ノ上トモ全力ヲ盡シ御垂
示ノ御方針實現方努力致スヘキモ右實行ニ關聯シ現地ニ於
ケル職務遂行上絕對ニ必要ナル左ノ點ノ實現方然ルヘク御
高配相煩度シ

事變以來ノ經緯ニ鑑ミルニ現下ノ對外諸懸案ハ何レモ軍事
行動ニ關聯シテ發生シタルモノニシテ之カ現實ノ調整ハ軍
部ニ於テ實權ヲ握リ居リ現地外務機關ハ謂ハハ一種ノ取次
機關ニ過キサルヲ以テ其ノ最善ノ努力ニモ拘ラス之ヲ調整
スルノ決心ト熱意トカ無キ限リ其ノ解決ハ得テ望ムヘカラ
サル所ナリ而シテ軍部現地機關各個ニ於テモ各其ノ立場ヲ
異ニスル結果必スシモ意見ノ完全ナル一致ヲ見ス獨自ノ行
動ニ出ツルコト往々ニ之有ル有様ナリ從テ是等懸案ノ解決
ニハ陸海軍ノ中央當局ニ於テ確固不動ノ方針ヲ定メ之ヲ其

ノ現地機關ニ徹底セシムルト共ニ同一地ニ在ル同部内各機
關自體ノ内部的統制ヲ計リ以テ

中央ノ意圖ヲ如實ニ遵奉セシムルヨリ外ニ有效適切ナル方
策ヲ發見スルニ苦シム次第ナルニ付貴大臣ニ於カレテハ既
ニ篤ト御承知ノコトト存スルモ右軍ノ中央ト出先官憲トノ
方策ノ密接ナル聯繫ノ實現方盡力アランコトヲ切望シテ熄
マス更ニ本件方針ノ樹立(不明、照會中)ニ當リテハ現地ノ
特殊事情ヲ篤ト研究シ其ノ實施ノ準備完了ヲ見極メタル上
實行ニ着手スルニアラスンハ却テ國際信義ヲ失フノミナラ
ス寧口新タナル懸案ノ續出ヲ來スニ過キサル俱多分ニアリ
所期ノ目的タル國交調整ト凡ソ隔絶セル現象ヲ生スルコト
トナルヘキヲ以テ實施ニ關スル充分ノ準備ヲ整フ迄之ヲ表
面化セサルコト極メテ肝要ナリト存ス
在支各總領事、香港ヘ轉電セリ

312 昭和14年12月29日

在上海加藤公使より
野村外務大臣宛(電報)

土橋中将など派遣軍の將官達が南京政府要路
に対し事變解決には蒋介石との和議が必要の

旨汪兆銘に伝達方依頼したとの情報報告

上海 昭和14年12月29日發
本省 昭和15年1月31日着

郵第八〇號(館長符號扱)

二十九日興亞建國運動組黨準備委員會主席團ホーキミンカ
二十七日汪派國民黨中央委員唐麟(日本陸士出身)ヨリ聞込
トシテ内報スル所左ノ通り右ハ或ハ中央ニテモ御存知ト存
セラルルモ爲念

最近唐カ土橋藤田廣野各中將等ニ面會ノ際同中將等ハ汪派
ノ現状ニ鑑ミ假令新中央政權成立スルモ重慶側トノ和議出
來サル限り戰爭繼續セラルヘク斯ノ如キ和平ハ無意義ナレ
ハ事變ノ解決ノ爲ニハ汪精衛ニ於テ何等カノ手段ニ依リ蔣
介石ヲ引出シ兩人協力ノ上和平交渉ヲ爲スコト必要ナリト
考ヘ居ル處汪ニ於テ果シテ此種方針ヲ容諾スル度量アリヤ
否ヤ又此種方針ニ依ルコトカ結局ニ於テ汪自身ノ工作ニ取
リ不利トナルヘキヤノ點唐ニ研究方竝ニ右適當ノ機會ニ汪
ニ傳達方依頼シタル由ナルカ其際唐ハ此ノ種蔣ヲ和平交渉
ノ矢面ニ立ツルコトハ汪トシテハ河内ニ在リタル當時迄考
ヘ居タル所ニシテ汪自ラ乗出セシハ日本側ニテ蔣トノ直接

交渉ヲ欲セサリシ結果ナリ從テ若シ日本側ニ於テ汪蔣合作
ヲ以テ和議ノ相手トスルコトニ承知ナル以上勿論異存無カ
ルヘシ尤モ右意見ハ果シテ日本政府ノ意見ヲ代表スルモノ
ナリヤ一部個人ノ意見ナリヤト反問セルニ同中將等ハ阿部
首相ニ於テモ贊成ナルカ同内閣ノ基礎頗ル動搖シ居リ從テ
本方針ノ實行ハ内閣ノ改組乃至新内閣ノ出現ヲ俟テ爲サル
ヘシ同中將等ノ意見ハ既ニ東京ニ具申シアル處何レ近ク何
等カノ回答アル筈ニテ東京ニテ同意アリタル際ハ唐モ一肌
脱キ必要ニ依リテハ日本側代表ト共ニ赴カシ度シト述ヘ居
タル趣ナリ

尙其際ホーヨリ唐ニ對シ右將軍連ノ意見ハ汪精衛ニ報告濟
ナリヤト問ヘルニ唐ハ汪ニ對シテハ東京ヨリノ回答ヲ待ツ
コトトシ先ツ陳公博(陳今次ノ汪派參加ハ蔣ノ意嚮ヲ受ケ
居レリトノ別途確報アリ)丈ケ耳ニ入レ置キ度シト再三電
話セルモ未タニ會ヘサル次第ナリト答ヘ居タル趣ナリ又其
際同中將等ハ在東京佛大使ヨリモ汪蔣合作ニ依ル和平斡旋
方東京政府ニ建議アリタリトモ語り居タル由右御參考迄

昭和15年1月16日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

米内新内閣に対する重慶方面の論調報告

上海 1月16日午後

本省 1月16日夜着

第八三號

米内新内閣ニ關シ重慶側官邊ハ全部ノ閣僚ノ顔振カ判明スル迄批評ヲ差控ヘ居ルモ日本ノ事情ニ精通セル支那人間ニ於テハ米内内閣ハ恐ラクヨリ適當ナル人物ノ發見セラルル迄ノ混亂期ニ於ケル過渡的内閣ナルヘシトナスト共ニ米内大將カ近衛、平沼内閣ニ於テ獨伊トノ軍事同盟締結ニ反對セル人物ニシテ日本ニ於ケル自由主義者ト認メラレ居ル點ヲ強調シ同大將ノ希望ハ英米蘇ニ對シ妥協政策ヲ採ル意圖ニ出ツルモノナルヘキモ新内閣ハ既ニ陸軍ノ完全ナル支持ヲ失ヒ且國際關係ヲ改善シ得ルニ足ル海外方面ノ協力少キヲ以テ生彩ニ乏シク結局同内閣ハ國內危機ヲ一時緩和シタル後他ノ支那事變ヲ處理シ得ル人物ニ内閣ヲ讓ルヘシト認メ居レリ十五日中央日報ハ社説ニ於テ何人カ首相ニナルトモ日本ヲ救フコトハ不可能ナリト斷シ米内大將ハ國際事情

ニ精通スルモ日本ノ海軍軍人ハ何人モ米國ヲ假裝敵國トスル傳統的思想ヲ有スルコトヲ強調シ日米關係ノ惡化ト日本ノ對支軍事行動ノ強化ハ必至ニシテ之ハ結局日本ヲ最後の破滅ニ導クヘシト論セリ又大公報ハ新内閣ハ阿部内閣ノ爲シタル長江開放ノ如キ種々ノ約束ヲ反古ニスル可能性アリト斷シ阿部内閣ノ相剋摩擦ヲ強調シテ同内閣ノ後繼者ハ何人モ不幸ナリト論シ居レリ(以上十五日重慶發路透社及「ユピー」電)尙當地漢字紙中申報、大美報、中美日報等ハ十六日社説ニ於テ何レモ新内閣ノ對米政策ニ重點ヲ置キ米内、有田ノ「コンビ」ニテハ從來ノ對内外認識ノ不足ヲ是正セサル以上日本ノ國際的地位ヲ改善シ得スト云フニ大體一致シ居レルカ中華日報ハ米内大將カ近衛内閣ノ一員タリシコトヲ指摘シ新内閣カ引續キ聲明ノ原則ニ依リ歴代内閣ノ完成シ得サリシ問題ヲ一括解決センコトヲ期待スル旨強調スルト共ニ日本ハ對支全面的和平ヲ求メテコソ始メテ對英米關係ノ調整ヲ行ヒ得ヘシト爲シ新内閣ニ對シ日支和平運動ノ前途ヲ把握シ一段ノ協力ヲ要望シ居レリ

支、天津、南京、漢口へ轉電シ香港へ略送セリ

314

昭和15年1月24日

在香港黃田(多喜夫)総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

高宗武と重慶側との関係に関する諜報報告

香港 1月24日後発

本省 1月24日夜着

第五二號

XYZカ杜月笙近親者ヨリノ聞込左ノ通り

一、高宗武ハ張群ヲ經テ豫テヨリ蔣介石ニ聯絡シ居タルカ上海ノ日本側ヨリ常ニ異端者扱ヒサレ且彼ノ目指ス蔣汪合作ニ依ル和平カ望ミ薄ナル爲陶希聖ヲ動カシ當地ニ逃ケ發表ノ協定ハ杜カ重慶ニ携行シ(KCニ依レハ杜ハ吳鐵城ト其ノ取扱方ニ付協議セリ往電第四一號參照)蔣ノ意思ニテ蕭同茲ヲシテ發表振りノ采配ヲ振ラシメタルモノニシテ(蕭ハ杜ト同道十八日夜來香ス)重慶側ハ之ニ依リ日米接近ヲ阻止シ且將來國際調停ニシテ成功セル場合其ノ條件ト本件協定トノ開キヲ國民ニ知ラシメ反對ヲ押ヘ得ト爲シ居レリ(別途諜報ニ依レハ宋美齡、孔祥熙、王寵惠カ汪政權ノ成立ヲ危惧シ居ル折ヲ利用シ調停ヲ依頼スヘシト主張シツツアリ)又陳公博ハ重慶トノ關係密接

ニシテ或ハ再度赴渝スルコトトナルヤモ知レス(陳ハ往電第四八號等ノ同人ニ關スル言分ニ對シ未タ何等應酬セス)

二、往電第三八號閻錫山ノ新軍ハ八路軍、舊軍勢力ハ蔣介石ニ於テ夫々支持ス當分ハ激化セサルヘキモ何レ爆發スヘシ賀國光成都ニテ刺客ニ襲ハレタルモ辛ウシテ難ヲ免レタリ

上海、廣東へ轉電アリタシ

315

昭和15年1月25日

在香港黃田総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

高宗武背反の國際的反響などに鑑み重慶政權
は対日和平には当分応じないと杜月笙内話
情報報告

第五三號

香港 1月25日後発
本省 1月25日夜着

JK

一、杜月笙ニ依レハ重慶ハ英米側ヨリ入手ノ情報ニ基キ日本

ハ資源拂底シ今後半年モ戰ハハ内部ノ崩壞ヲ免レラスト爲
ス一方汪トノ協定暴露ニ依リ汪政權ノ流産ヲ豫想セラレ

假令之カ外レテモ少クトモ英米ヲ重慶ニ抱キシメル上ニ
效果アリト見居ル處汪ハ蔣トノ合作ニ依ル和平ヲ狙ヒ幹
部ノ重慶内通ヲ許シ居タルモ却テ蔣ニ背負投ヲ喰ヒタル
形ニテ今後蔣汪合作ハ勿論日本ト蔣トノ交渉モ當分望ナ
シト見ラル(CFニ依レハ重慶ノ汪同情ノ空氣モ日本ト
直接和平ヲ講セントスル機運モ共ニ一掃サレ黃埔系及中
共ノ鼻息殊ニ荒シ又別途聞込ニ依レハ高宗武ハ二十日海
防行ノ旅券ヲ取りタル由重慶ニ赴クモノト思ハル)

三、新四軍長葉挺ハ軍ノ實權ヲ行營ニ握ラレ且軍内精銳ニ壓
迫セラレ澳門ニ逃ケ來レルカ蔣介石モ同人ノ陳述ニ對シ
取合ハサル爲當分同地ニ閑居ノ筈

上海、廣東へ轉電アリタシ

316

昭和15年2月11日

在北京藤井(啓之助)大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

閩錫山歸順工作の促進を意図した軍側による

山西省との物流増大計画の実施について

第一一二號(部外極秘)

北京 2月11日後発
本省 2月11日夜着

閩錫山歸順工作ニ關シ十日大倉組林ノ原田へノ内話左ノ通
リ

一、本月初當地ニ於テ開催ノ參謀長會議ニ出席セル山西部隊
田島參謀長ハ自分(林)ニ對シ依然對峙中ノ閩錫山軍ニ對
シ適當ノ方法ヲ以テ歸順ニ導キタキ處何等妙案ナキモノ
ナリヤト内密相談アリタルニ付私案トシテ閩ニ對スル直
接ノ和平工作ハ從來ノ經緯ニモ鑑ミ未タ其ノ時機ニアラ
サルニ付右ハ第一段トシテ差當リ閩治下ノ人民ヨリ手懷
ケ漸次閩ニ及ホスヲ可トスヘク即チ閩治下ニダブツキ居
ル雜穀其ノ他ノ物資ヲ當方占領地區内ニテ聯銀券ヲ以テ
高價ニ買付ケ右聯銀券ハ其ノ儘地區内擔保ニ止メ置キ右
ヲ以テ先方ニ必要ナル物資ヲ購入セシメ相互物資ノ交流
ヲ計ル一方山西省政府側ニテ回收セル舊山西票ヲモ適宜
利用スルコト等ニ依リ經濟的ニ物及人ノ交流ヲ計ラシメ
以テ地區内民心ヲ我方ニ引付ケ現在ノ膠着狀態ヲ緩和セ
シメタル上第二段トシテ圓(圓)ニ對スル政治工作ニ移ラント

スルモノニシテ右ニハ日本側ハ介入セス飽迄山西人ヲシテ當ラシメントスル案ヲ開陳セリ

一、右ニ對シ同參謀長ハ極メテ贊意ヲ表シ來京中ノ各部隊參謀長及方面軍司令部參謀ヲ交ヘ正式會議ニ附シタル結果愈々案實施ノコトニ決定ヲ見タル次第ニテ自分(林)ハ司令部囑託ノ資格ニテ兩三日中太原ニ赴キ之ニ着手ノコトトナレリ尙右進行經過ハ追テ在太原白井領事ヲ通シ貴官ニ内報スヘキ處軍側ニ於テハ本案ニ對シテ效ヲ收ムルコトトモナレハ之ヲ他地方ニモ及ホシ本格的ノ宣撫工作ニ乗出サント考慮シ居ル次第ナリ云々

上海公使、南京、漢口、太原ニ轉電セリ

317 昭和15年2月14日 在北京藤井大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政府が成立しても時局收拾に大して有益とは思われないとの許修直内話について

北京 2月14日後発
本省 2月14日夜着

第一二四號

時局收拾ニ關シ十二日許修直ハ左ノ通り諜者ニ語レル趣ノ處當方面及王側ハ一般ニ大體右ト同様ノ考ヲ懷キ居ルニ付御參考迄

中央政府ハ近く成立スヘキモ現在ノ模様ニテハ臨時、維新兩政府ト大差ナク時局收拾ニ左シテ役立タサルヘシ強ヒテ之カ方法ヲ求ムレハ重慶政府トノ直接折衝及之カ撃滅ノ兩者ヲ擧ケ得ヘキ處右ハ現狀ニテハ何レモ實行困難ニ付此ノ際日本トシテハ支那人心ノ收攬ト生産ノ増進トヲ計リツツ氣長ニ可然キ機會ヲ待ツ外ナカルヘシ
尙日本トシテ深ク慎ムヘキハ聲明ノ亂發ニ依リ時局收拾上融通性ヲ失ヒツアルコトナリ云々
上海、南京、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

318 昭和15年3月26日 在香港岡崎總領事より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政權樹立への重慶側の反発に関する李思浩内話について

香港 3月26日後発
本省 3月26日夜着

第一五四號

二十六日館員李思浩ニ面會ノ機會ニ新政權ニ對スル腹藏ナキ意見ヲ求メシメタル處左ノ通り内話セル趣ナリ

新政府ニ對シテハ樂觀悲觀兩說相讓ラサル處顏觸ニモ相當苦心ノ跡見エ現在ノ所之以上ニハ出來サルヘシ要ハ今後出來得ル限り自主的立場ニ於テ實際政務竝ニ外交ヲ運用シ殊ニ財政金融ニ周到ナル注意ヲ拂フニ在リ

重慶側ハ新政權ニ對シテハ臨時維新政府ト異リ非常ナ關心ヲ拂ヒ執拗ナル妨害工作ヲナシ今尙自分ニモ新政府部内ノ緣故者買收方申入來ル有様ナリ又數日前愈々新政府成立カ明カトナルヤ法幣ノ下落ヲ懸念シ香上銀行ヲ經テ額ハ明カナラサルモ相當多額ノ法幣買上ヲナシタルコトアリ自分ハ重慶側ノ前記ノ如キ申入ニ對シテハ之カ事變解決ノ根本ニ何等利益ナキヲ理由ニ拒絕シタルカ新政府トシテハ何處迄モ人民ヲ主トスル善政ヲ心掛ケ日本モ之ヲ支持セラルルコト切望ニ堪ヘス尙宋子文錢新之ハ二十日頃赴渝シ宋美齡ハ近ク歸渝ノ筈

上海公使、廣東、北京、南京ハ轉電アリタシ

319

昭和15年4月4日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

「支那事變處理方策要綱」の重点および留意

点について

付記一 昭和十五年三月六日

「支那事變處理方策要綱」

二 昭和十五年三月六日

「新中央政府外交指導要綱」

上海 4月4日前發
本省 4月4日前着

第一五二號(至急、極祕、館長符號扱)

⁽¹⁾ 東亞局長ヘ杉原ヨリ

一、極メテ困難ナル環境ト複雑ナル諸條件ノ下ニ於テ各方面ノ絶大ナル苦心經營ノ結果愈新中央政府ノ成立ヲ見ルニ至リタルコトハ我事變處理方策ノ有力ナル一翼ヲ形成スル具體的端緒ヲ見タルモノトシテ御同慶ニ堪ヘサル處新政府樹立ノ事變處理上ニ於ケル意義ヲ所期ノ如ク眞ニ生カシ得ルヤ否ヤハ一ニ今後ノ施策ノ宜シキヲ得ルヤ否ヤ其ノ成績ノ如何ニ懸ル次第ニシテ此ノ點ハ今後展開セラ

ルヘキ對重慶工作及第三國外交施策並ニ軍事行動ノ成績ト共ニ今後ノ我事變處理完遂ノ成否ヲ決スル關鍵ナルコト敢テ指摘スル迄モ無キ儀ナリ

二、抑々我事變處理ノ政略の方法タル(イ)新中央政府工作(ロ)對重慶工作及(ハ)對第三國外交工作ハ(ニ)軍事の戰略の方法ト相竝ヒテ我事變處理方策ノ主要部門ヲ形成シ而シテ右(イ)(ロ)(ハ)(ニ)各部門ハ夫々各自特殊意義ヲ有スルト共ニ事變處理ノ目的完遂ヲ中心トシテ相互ニ密接不可分ノ關聯性ヲ持チツツ全體トシテ一ニ統合的ナル體系ヲ構成シ共同ノ目的ト使命トヲ有スルモノナルコト言フ俟タス而シテ今ヤ新政府ノ成立ヲ契機トシ我方トシテハ内外ニ於ケル現實ノ情勢ニ對シ活眼ヲ開キテ八方睨ノ姿勢ヲ執リツツ茲ニ事變處理段階ニ於ケル一大劃期線ヲ鮮カニ刻スルノ抱負ヲ以テ前記事變處理方策ノ各部門ノ綜合的躍進の推進ヲ圖ラサルヘカラス

三、今後實踐ニ移スヘキ我事變處理方策ノ具體の内容ニ關スル卑見トシテハ過般上京中田尻課長ト相談ノ上整理シタル「支那事變處理方策要項」^(附)ノ「ライン」ニ依ルヲ大體適當ト信スルモ更ニ右要項掲記ノ方策中ノ重點ノ所在點

及右方策運用ニ當リ留意スヘキ事項等ニ關スル管見左ノ通り稟申スルニ付對重慶工作及承認問題等ニ關スル既電稟申ノ分ト併セ事變處理方策御企畫ノ最後ノ參考ニ供セラレタシ尙御裁量ニ依リ適當ノ部分ハ特派大使ノ出發前ニ荒拵ヘラセラルル爲本省ニ於テ打合セラルル場合ノ一參考資料ニセラレタシ

(一)²⁾新中央政府ニ對スル施策ノ一大重點ヲ新政府ノ自主的活動ニ對スル我方ノ掣肘干渉ヲ出來得ル限り手控ヘキノ自由裁量ノ範圍ヲ可及的廣ク認メ自主性ノ點ニ於テ既成政權トハ異ル本質ヲ有スルモノタルノ實證ヲ如實ニ示シ而シテ先ツ地域のニハ中支就中滬、寧、江、浙ノ地方ニ於テ内外人ニ對スル善政ノ謂ハバ模範區ヲ建設セシムルコトニ存スト思料ス其ノ理由ハ縷述ノ要ナキモ國家ノ「獨立自由」ノ體面保持ニ對スル支那ノ國民的要望カ今日如何ニ熾烈ナルカハ殆ト日本人ノ想像以上ニシテ此ノ一點ニ於テ其ノ國民的面子ヲ損スルカ如キコトニ節制ヲ加ヘスシテ一方ニ於テ新中央政府ニ對シ其ノ使命ヲ發揮スルノ能力ヲ期待セントスルハ全ク躓ニ向ツテ走ルコトヲ求ムルコトニ等シク又右ノ點

カ第三國側ノ新政府ニ對スル態度決定ノ根本要因ノ一ナルコト明カニシテ更ニ治安民生經濟活動等ノ分野ニ於テ内外人關心ヲ滬寧江浙地方ニ於テ所謂模範區ヲ建設スルコトハ新政府ノ基礎強化及其ノ和平能力培養ノ直接要因タルノミナラス重慶崩壞及第三國誘引ノ基本工作トシテ最も重要且效果的ナルコト一點ノ疑ヲ容レサル所ナリト信ス

(二)今後ノ我カ事變處理方策ノ實行過程上ニ於テ現實ニ幾多ノ問題ヲ惹起シ來ルヘシト豫想セラルルハ所謂北支特殊化ノ要請ニ關聯スルモノニシテ北支政務委員會ト中央政府トノ關係ノ如キモノニ付テモ遠カラスシテ種々面倒ナル事態ノ發生力豫感セラルル次第ナリ其ノ間ニアリテ最必要ナリト認メラルルハ北支ニ對スル我カ絕對的要求ノ種目範圍限度ヲ具體的ニ明確化スルコトニ依リ所謂北支特殊化ノ具體的內容ノ指標ヲ與フルト共ニ北支ト中支トノ間ノ相互理解ノ基礎ヲ作ルコトニシテ此ノ點ニ於テ大局ヲ誤ラサル様中央及現地ノ責任當局ニ於テ今後一層切實ナル考慮及工夫ヲ加フルノ要緊切ナルモノアリト思料ス

(三)對重慶工作ニ關シ本省ニ於テ懷キ居ラルル考へ方ハ小官モ全然同感ナルニ付該工作自體ニ於テ此ノ際言及スルハ無用ナリト存スルモ小官ノ今日迄諸方面ト接觸シタル印象ヲ綜合シテ得タル感想ヨリスレハ重慶工作ニ熱中スル所謂重慶派ト新政府工作ニ熱中スル謂ハハ汪精衛派ノ人々ノ間ニ於ケル意思疏通ノ不充分ナルコト驚クヘキモノニシテ此ノ點ハ動モスレハ感情的對立トスラ見ラルルカ如キ迄激シキモノアルヤニ觀測セラル(勿論全部ニアラス好ク分り居ル人士モ鮮カラサルコト事實ナリ)重慶工作モ新政府工作モ前記ノ如ク事變處理方策ノ全體系中ニ於テ夫々ノ地位ト意義トヲ有シツツ相互ニ關聯性ヲ有スルモノニシテ一ヲ以テ他ヲ排斥スルモノニアラス然ルニ之ヲ二者擇一ノ關係ニ於テ把握シ相互ノ關聯性ヲ切離シテ何レカ一方ノミニ單一獨立性ヲ認メ事變處理ノ政略的方法トシテノ意義ヲ何レカ一方ニミ屬セシメントスルハ共ニ誤レルモノナルコト言フ俟タサル所ナルヲ以テ重慶工作及新政府工作ノ兩者ヲ之ヲ體系的ニ把握シ相互補翼(補佐)的ノモノナルコトヲ徹底セシメ所謂重慶派ト所謂汪精衛派トノ對立

の空氣ヲ緩和解消スルコト内輪ノ結束ヲ固ムル上ニ於テ絶對必要ナリト愚考ス

(四)³⁾ 新政府ノ承認問題及基本協定締結問題ニ關シテハ既ニ稟申ノ次第アルヲ以テ茲ニ再說スルヲ避クルモ基本協定ノ内容ヲ曩ニ電報ヲ以テ申進シタル趣旨ノ如キモノ(支那ノ主權尊重原則ヲモ折込ム)トスルトキハ承認問題以外單ニ和平促進策ノ角度ヨリスルモ有意義ナリト認メラルルニ付本件ニ付テハ速ニ政府ノ方針御確定ヲ請フ(尙秘密取極ヲ以テ梅協定ノ内容具現ヲ計ルヘキ旨ヲ定ムルコトヲ妨ケサル意見ナリ)

(五) 重慶トノ全面的停戦ニ至ル過程トシテ新中央政府成立ヲ契機トシ各地方ニ於ケル個別的停戦ノ機會ヲ作り停戦支那軍ト新政府トノ結付ケヲ策スルコトハ今後着眼スヘキ重要點ノ一ナルヘシト認メラル

(六) 中國共產黨及共產軍問題ハ當面ノ問題トシテ觀ルモ將又東亞ノ將來ノ問題トシテ觀ルモ帝國ノ深刻ナル關心事タラサルヲ得サル重大問題ナルカ此ノ問題ノ政治的ノ取扱ニ付テハ帝國ノ態度ハ少クトモ當分ハ中共對日滿支間限りノ問題トシテ取扱ヒ中共問題ニ蘇聯問題ヲ

結付ケテ之ヲ一體トシテ政治的二取扱ヒ而モ之ニ對スル我方ノ陣營ニ東亞以外ノ勢力例ヘハ英米等ヲ加ヘタル國際戦線ヲ結成シテ對抗スルカ如キ取扱方ハ現段階ニ於ケル國際情勢ヨリ觀テ嚴ニ避クルヲ要スト信ス從テ日支間ノ防共協定ニ英米等ヲ參加割込ヲ認ムルカ如キハ今日ノ國際情勢ヲ基礎トシテ觀レハ絶對ニ不可ナルノミナラス新政府ノ反共方針モ支那國內ニ於ケル範圍ニ限局シ日本及滿洲國ノ關係ヲ別ニスレハ專ラ國內政治的方面ニ限定シ而モ北支方面ハ兎モ角中支方面ニ於テハ民衆ニ呼掛クル政治的「スローガン」トシテハ「反共」ヨリモ寧ロ「和平」ニ重點ヲ置クヲ却テ實際的ナリト愚考ス

(七) 對第三國外交工作ニ關シテハ前記「要項」中ニモ要録セラレ居ル外本省ニ於テ高キ觀點ヨリ廣ク見渡シテ萬遺憾ナキヲ期シ居ラルルコトト信スルヲ以テ愚見ヲ開陳スルヲ憚ル次第ナルモ單ニ二、三小官ノ氣付ヲ申上クレハ

(甲)⁴⁾ 歐洲ノ情勢ヲ觀ルニ蘇芬協定ノ成立トシテ「スカンデナビア」「ダニユーブ」及巴爾幹等ノ小中立國群

ニ與ヘタル政治的心理的影響「ヒトラー」及「ムツソリニ」ノ「ブレネル」會談「テレッツキ」ノ伊太利訪問英佛ニ於ケル内閣交迭又ハ改組問題等最近ノ一連ノ事象ニ依リテ象徴セラルル所ヨリ察スルモ英佛側ノ對獨屈服戰ハ其ノ宣傳ノ如クニハ容易ナルモノニ非サルヘク左レハトテ獨逸カ米國ノ後盾アル英佛側ヲ破ルコトモヨリ多大ノ困難ヲ伴フヘク若シ夫レ蘇聯邦ノ態度ニ至リテハ今日ヲ以テ明日ヲ測ルヘカラス又伊太利ノ態度モ未タ英佛側ヘハ勿論獨逸側ヘモ完全ニ「コミット」シ居ルモノト斷スヘカラススル情勢ノ下ニ於テ英國ノ現在ニ於ケル對日政策ノ基調ヲ臆測スルニ其ノ骨子ハ

(イ) 現下ノ國家的死活問題タル對獨戰ノ關係ニ於テ戰爭中日本ヲシテ敵方ニ廻スカ如キコト無カラシムルコト

(ロ) 現下ノ對獨戰爭中ハ勿論戰後ノ將來ヲ考慮ニ容ルルモ蘇聯邦牽制ノ爲出來得ル限り日本ノ力ヲ利用スルコト

(ハ) 歐洲戰爭ダニ片付ケハ其ノ上ハ極東問題ハ米國等

ノ力ヲ借りテ如何様ニモ再調整スルノ途アリトノ相當ノ自信ヲ有シ居ルヘキコト

(二) 從テ(イ)及(ロ)ニ基ク對日妥協ハ將來(ハ)ニ依リ復舊シ得ヘキ限度ニ於テハ之ヲ敢テスルノ用意アルヘキコト

等ニ存スト判斷セラル若シ果シテ然リトセハ我方トシテハ自ラ對英施策ノ方途及其ノ限度ヲ定ムルノ目安ヲ明瞭ニ畫キ得ル次第ニシテ此ノ際外交ノ手腕ヲ發揮スルハ對英關係ニ於テ其ノ餘地最大ナリト感セラル

(乙) 米國ニ對スル關係ニ於テ最近興味アル一ノ事實ト目セラルルハ極東問題ニ對スル米國ノ態度ト英佛現下ノ態度トノ間ニ於ケル比較對照ノ中ニ發見セラルルモノニシテ最近兩者ノ間ニ色彩濃淡ノ懸隔カ可成リ強クナリツツアルモノト觀測セラル勿論兩者ノ間ニ本質ノ同一性ノ伏在スルハ之ヲ否定シ難シト雖現在ニ於テ前記ノ如キ現象ノ現レツツアルコトハ我方トシテ確實ニ之ヲ捉ヘテ新政府及對重慶問題等ニ利用スルノ途ヲ講セサルヘカラス尙卑見ヲ以テスレハ米

國側ノ新政府問題其ノ他極東問題ニ對スル聲明等ニ對シテハ我方トシテハ餘リ之ヲ氣ニセス一々取合ハヌ様ナ氣構ヲ以テ取扱フコト却テ米國側聲明等ノ對外的政治的效果ヲ減殺スル所以ナルニアラスヤト愚考ス

(丙)伊太利トノ關係ハ極メテ重視スヘキモノト信ス對英佛對獨及對蘇何レノ關係ニ於テモ日伊ハ現在極メテ「デリケート」ナル類似ノ地位ニ在ル事實ニ鑑ミ伊太利トノ聯絡了解ヲ密ニスルコトハ將來ニ備フル所以ニシテ又伊太利ノ新政府ニ對スル態度ノ如キハ決シテ之ヲ粗末ニ取扱フヘキモノニアラス對伊關係ヲ從來ヨリ一層重視シテ帝國ノ戰時外交施策ヲ構成セラレンコトハ小官ノ切ニ希望スル所ナリ

北京、南京へ轉電セリ

(付記一)

昭和十五、三、六

支那事變處理方策要綱

公使機關

第一、目標

支那民心ノ把握及第三國ノ利導ニ留意シ新中央政府ノ成立發展ヲ助成スルト共ニ重慶側ニ對シ軍事行動ト相呼應シテ政治工作ヲ行ヒ重慶政權ノ懸念合流ヲ施策スルコトニ依リ遅クモ本年一杯ニ事變ノ終結ヲ期ス

第二、實施要領

一、新中央政府關係

1、速カニ新中央政府ヲ樹立セシム

2、新中央政府成立ト共ニ大正六年勅令第六四號ニ依ル特派大使ヲ南京ニ派遣シ且興亞院連絡部機構ニ對シ適當ノ調整ヲ加フ(詳細別紙「特派大使機關案」^(省地)參照)

3、新中央政府成立後事變處理ノ大局的見地ヨリ適當ナル時期ヲ選ヒ成ルヘク速ニ同政府ヲ正式ニ承認ス右正式承認ノ形式ハ諸般ノ事情ヲ考慮ニ入レ將來ノ決定ニ俟ツモ大体基本條約ノ締結ニ依ルモノト豫期ス

4、客年末日支工作員間申合ノ内容ヲ條約化スルニ當リテハ重慶側及第三國側ニ對スル施策上ノ效果ヲモ

睨ミツツ事情ノ許ス限り名ヲ棄テ實ヲ收ムル心組ニテ其ノ形式ヲ選フト共ニ其ノ内容モ絶對必須ノ程度ニ止ムルノミナラス第一次ニ締結スル基本條約ノ内容ハ根本原則ノミニ止ム

5、新中央政府當面ノ政綱ハ反共和平建國ニ重點ヲ置ク

6、新中央政府ノ對外方針ハ(イ)對日關係ニ於テハ客年末日支工作人員間申合ニ則リ之カ具現ヲ圖ラシメ日滿支三國ノ緊密ナル提携合作ヲ誘致セシムルト共ニ(ロ)第三國關係ニ於テハ各友邦ノ正當ナル權益ヲ尊重シ以テ友誼ヲ増進スルコトニ依リ新中央政府ノ國際的地位ヲ培養強化スル一方重慶政府ト第三國トノ離間ニ資セシムルコトヲ基調トシ(ハ)國權回收ニ付テハ合法的の漸進主義ニ依ラシム(詳細別紙「新中央政府外交指導方針要綱」^{編註}參照)

7、第三國トノ間ノ問題ニシテ帝國カ直接當事者トナルヘキ事項ニ關セサル限り帝國ハ新中央政府ノ職能ヲ代行セス第三國ヲシテ新中央政府ヲ相手トセシムル如ク施策ス

8、占領地域ニ於ケル人(外支人ヲ含ム)及物ノ活動流通ニ對スル制限ヲ能フ限り緩和撤廢シ(長江開放ノ範圍擴張ヲ含ム)經濟復興及貿易振興ニ努メ關稅鹽稅及統稅收入ノ増加ヲ計ル

9、中南支ハ固ヨリ北支ニ於テモ軍事上ノ絶對的必要アルモノノ外軍管理中ノ工場鑛山等ノ移管ヲ速ニ實施シ、日支合辦事業ニ關スル支那側關係者ノ權利利益ノ尊重ニ付適正ナル調整ヲ加へ、悪性營業(阿片窟、賭博場等ヲ含ム)ヲ肅正シ、邦人ノ支那人家屋占據ヲ適法ノモノタラシメ、難民ノ綏撫流亡ノ安定ニ力ヲ盡シ且日本側ノ經濟進出ノ結果支那側ノ民業壓迫ノ弊ニ陥ラサル様特ニ留意シ以テ民心ノ把握ニ努ム

前記財産整理、合辦事業調整及必要ニ應シ既成政權トノ契約事項再審議ノ爲所要ノ各委員會ヲ設置ス

10、新中央政府ニ於テ速ニ財政計畫ヲ確立シ内債及外債ノ支拂ヲ爲ス建前ヲ執リ支拂ノ困難又ハ不可能ナルモノニ付テハ適當ノ調整方法ヲ講シ以テ外支財界ノ協力促進ヲ圖ル

11、新中央銀行ノ設立及新通貨ノ發行乃至通貨ノ安定等通貨金融政策ノ確立ヲ圖ル爲必要ナル準備ヲ促進ス

12、速ニ占領地ニ於ケル食糧政策ヲ確立シ且北支中間ニ於ケル物資ノ流通ニ必要ナル諸般ノ措置ヲ講ス

13、速ニ中央及地方行政機構ヲ整備シ且稅制ノ確立及稅務機構ノ復舊ヲ圖ル

右ニ關スル新中央政府ノ措置ハ差當リ滬寧方面ニ重點ヲ置ケ

14、新中央政府ノ宣傳機關ヲ整備擴充シ輿論ノ善導ニ努ム

三、第三國關係

1、帝國ノ外交態勢ヲ鞏化シ我事變處理ノ完遂ヲ輔翼スル爲列國ニ對シ別紙（見別紙）「帝國對外施策方針要綱及追補事項」ニ依リ施策ス

2、右施策ノ實行殊ニ支那ニ於ケル排外運動ノ禁遏、權益毀損ニ對スル補正、通商制限ノ緩和除去、租界問題調整等第三國側ノ權益ニ關スル諸措置ノ實施ニ當リテハ第三國ニ對スル心理的效果ヲ考慮ニ入レ且

新中央政府ノ成立トモ睨ミ合セ特ニ其ノ時期ニ付最モ效果的ナラシムル様留意スルト共ニ第三國側ノ要望ニ對シ帝國ノ容認シ得ル限度ヲ明示ス

3、英米佛獨伊等第三國ニ對シ必要ニ應シ日本側及汪側協議ノ上双方ヨリ客年末日支工作員間申合ノ内容及之ト第三國ノ權益トノ關係ヲ適宜説明シ第三國ヲシテ新中央政府樹立工作ヲ阻害セシメス之ニ對シ理解アル態度ヲ執ラシムル如ク誘導ス

三、重慶政府關係

1、迫力アル軍事行動ノ展開ト相呼應シテ汪側乃至新中央政府側ト密ニ連絡シ之ト合作シテ重慶政權ノ躡意合流ヲ施策スルト共ニ敵軍ノ寢返リ工作ヲ計リ全般の停戦ヲ目途トシツツ先ツ地方的停戦ヲ講ス

2、重慶側ニ對スル我方ノ右政治工作ノ出先主任機關ハ差當リ外陸海興ヨリ各主任者ヲ定メ右主任者一休トナリ之ニ當ル

右工作主任機關ハ梅機關乃至特派大使機關ト密ニ連絡ヲ保持ス

前記主任機關以外ノモノニ依ル我方對重慶工作ハ之

ヲ嚴禁ス

- 3、第三國ヲ利用シ具體的ニ重慶側ニ働キ掛クルコトハ以上ノ工作カ相當見透シ立チタル上情勢ニ依リ之ヲ考慮ス

編注 本書第319文書付記ニとして採録。

(付記一)

昭和十五、三、六

公使機關

新中央政府外交指導方針要綱

第一方 針

新中央政府ヲシテ先ツ對日關係ニ於テハ客年末日支工作員間申合ノ内容ニ則リ之カ具現ノ歩ヲ進メツツ正式國交調整ノ基本態勢ヲ整備セシメ帝國ニ於テ諸般ノ情勢ヲ見極メタル上自主的ニ決定スル適當ノ時期ニ帝國政府トノ間ニ正式國交調整交渉ニ入ラシメ且日滿支三國ノ緊密ナル提携合作ヲ誘致セシムルト共ニ第三國關係ニ於テハ各友邦ノ正當ナル權益ヲ尊重シ友誼ヲ増進スルコトニ依リ

新中央政府ノ國際的地位ヲ培養強化スル一方重慶政府ト第三國トノ離間ニ資セシムルモノトス

國權ノ回收ニ付テハ合法的の漸進主義ニ依ラシム

第二、要 領

一、對日關係

- 1、差當リ客年末日支工作員間申合ノ内容ニ則リ之カ具現ノ歩ヲ進メツツ正式國交調整ノ基本態勢ヲ整備ニ專心セシム

- 2、右申合ヲ基礎トスル新中央政府ト帝國政府トノ間ノ正式國交調整交渉開始ノ時期ハ帝國ニ於テ諸般ノ事情ヲ考慮ニ入レ自主的ニ決定スル所ニ依ラシム

- 3、支那ノ輿論ヲ指導シ成ルヘク速ニ日滿支三國ノ緊密ナル提携合作ノ空氣ヲ醸成シ終局ニ於テ日滿支三國中核トスル東亞聯盟ノ結成ヲ實現スヘキ地盤ヲ培養セシム

二、第三國關係

- 1、既存ノ國際義務ハ國際法及通例ノ國際慣例ニ基キ之ヲ尊重セシメ且右趣旨ヲ聲明セシム

- 2、重慶政府カ事變發生以來新ニ締結セル契約等ハ差當

- リ之ヲ積極的ニ否認セサル態度ヲ採ラシメ適當ノ時期ニ之カ調整ヲ期セシム
- 3、既存ノ外債ハ主義上之ヲ認メ且特ニ擔保確實ナルモノニ付テハ成ルヘク速ニ部分的ナリトモ之カ支拂ヲ開始セシム但シ財政上支拂ノ困難又ハ不可能ナルモノニ付テハ外國側ト協議ノ上適當ノ調整方法(所要期間「モラトリウム」ヲ含ム)ヲ講セシム
- 4、既存ノ借款契約ニシテ政治的色彩濃厚ナルモノニ付テハ逐次合法の手續ニ依リ之カ調整ヲ計ラシム
- 5、日支合辦事業ヲ含ム既設及新規ノ企業ニ對シ第三國側ノ投資ヲ誘致スル如ク施策セシメ且第三國側ノ單獨又ハ支那側若ハ日本側トノ合辦ニ依ル企業ノ設立經營ヲ許容セシム但シ政治的色彩アル企業ニ付第三國側カ經營上ノ優越的地位ヲ占ムルコトナカラシム
- 6、關稅上ノ差別待遇殊ニ特惠關稅ノ設定ヲ爲サシメス
- 7、一般ニ通商上ノ均等待遇ヲ認メ爲替管理貿易管理ヲ實施スル場合ニ於テモ差別待遇ヲ爲サシメス
- 8、通貨金融政策ノ確立ニ付第三國側ノ協力ヲ得ル如ク施策セシムルモ支那ノ通貨金融ヲ第三國側ノ支配下ニ

- 置カサル様留意セシム
- 9、第三國側ノ布教教育病院經營等ノ文化的活動ニ關シテハ新中央政府ノ基本政綱ニ反セサル限り之ヲ許容セシム
- 10、租界、公使館區域、治外法權、內水航行權等ノ不平等條約關係ノ清算其ノ他國權回收ニ付テハ合法の漸進主義ニ依ラシメ暫ク急激ナル發動ヲ爲サシメス
- 11、海關、鹽務、郵政其ノ他ノ具體的涉外事項ノ處理ニ關シテハ別紙「海關鹽務郵政等涉外事項處理要領」ニ依ラシム
- 12、歐米依存政策ヲ根本的ニ清算セシメ東亞ノ自主性及日滿支ノ連帶性ヲ自覺セシムル意味ニ於テ九國條約廢棄及國際聯盟脫退ノ基本觀念ヲ内部的ニ確立セシム但シ之カ實施ニ付テハ差當リ觸レズ且將來時期到來ノ場合ニ於テモ之カ實施ニ付テハ帝國ト協議ノ上爲サシムルモノトス
- 13、反共政策ハ差當リ專ラ國內ニ於ケル反共措置ヲ徹底セシムルコトニ重點ヲ置キ當分對外的ニハ第三國トノ間ニ防共協定ノ締結又ハ參加ノ措置ヲ執ラシメス

14、蘇聯ノ重慶政權援助ノ緩和乃至打切りヲ施策セシム

右對蘇施策トシテハ差當リ内蒙ト外蒙トノ友好關係保持及反共政策ノ國內性ノ宣明等ヲ考慮セシム

15、第三國關係ニ付テハ一般ニ帝國ノ對第三國外交方針ト同一歩調ヲ執ラシム

備考、本要綱ハ當面ノ指導方針要領ヲ定メタルモノ

ニシテ今後ノ各段階ニ於ケル方針ハ逐次之ヲ策定ス

320

昭和15年6月24日

有田外務大臣より
在独国米栖大使宛(電報)

重慶政權との和平および第三国利用に関する

わが方見解について

本省 6月24日後9時30分發

第四〇〇號(極秘、館長符號扱)

貴電第六五八號ニ關シ

一、重慶側ハ新中央政府成立ニ對シ凡ユル妨害ヲ試ミ之カ爲政府成立直前日本トノ直接交渉ニ依リ事變解決ヲ圖ルカ如キ氣勢ヲ示シタル實例モアリ今次新政府ヲ相手トスル

條約交渉進行スルニ伴ヒ再ヒ之カ妨害ヲナスモノト豫期

セラルル處新政府ヲ中心トシテ事變處理ヲ計ラムトスル既定方針ノ實現ニハ幾多ノ困難アリ即急ニ其ノ目的ヲ達

シ得サル見透ナルコト往電合第一三一〇號^(編注)ノ通ナルヲ以テ帝國トシテハ世界新秩序ニ對處スル爲速ニ消耗態勢ヲ

脱却スル必要上何等便法アラハ蔣介石側トノ間ニ停戰ヲ

講シ之ヲ基礎トシテ事變ノ終結ヲ圖ルコト望マシキ次第ニシテ之カ前提トシテハ重慶カ容共抗日政策ノ拋棄ヲ聲

明スルト共ニ蔣介石自ラ共產黨軍ノ討伐ニ當ルコト是非必要ナルカ蔣カ右ノ如キ政策轉換ヲ行フ場合ニハ蔣ヲ

相手ニセストノ我方方針ハ必スシモ再考ノ餘地ナキニ非スト考ヘラル

二、然レトモ蔣介石ハ一面帝國ノ戰時態勢ノ強化不徹底ノ現情ヲ皮相的ニ觀察シテ長期抗抵ノ結果有利ナル和平條件

ヲ獲得シ得ルモノト考ヘ居リ他方抗日戰線ノ強化ニ依リ維持サレ居ル國共合作ヲ核心トスル重慶陣營ノ現情ニ鑑

ミ蔣ニ於テ今遽カニ前記所述ノ如キ反共政策ニ轉換シ得サルモノト考ヘラルル處最近英佛敗退ノ歐洲情勢ハ重慶側ニ相當ノ衝動ヲ與ヘ居ルハ事實ニシテ其ノ結果蔣トシ

テハ世界大戦ヲ前ニシ日支雙方相争フノ愚ナルコト乃至支那再建設ノ爲速ニ憲政ヲ實施スル要アルコト等ノ口實ヲ以テ所謂主戰派或ハ共產黨ノ煽動ヲ抑ヘル可能性ナキニシモ非スト認メラル

三、前述重慶側ノ現情ニ鑑ミ之ヲ和平ニ誘導スル筋道トシテハ新政府要人ヲ通シ行フコト最モ希望スル所ナルカ汪蔣ノ關係ハ現在ノ段階ニ於テ之ヲ許ササルヘク(昨年末ノ日支間協議書類ハ全部重慶側ニ筒拔トナリ居レリ)又我方カ直接之ニ當ルコトハ從來ノ經驗ニ鑑ミ未タ其ノ時期ニアラス一方第三國ヲ之ニ利用スルコトヲ考フルニ英米蘇聯ハ其ノ日本トノ關係ニ鑑ミ利用ノ限ニ在ラス結局歐洲戰爭ノ展開ニ伴ヒ或ル時期ニ到達セハ獨逸ヲシテ是カ役ヲ買ハシムル可能性アルヘキモ(往電合第一三〇號ノ三、參照)獨逸ヲ右ニ利用スル場合其ノ後ニ來ルヘキ惡影響ニ付テハ或ハ英米ヲ利用スル場合ニ比シ甚シキモノアリヤ否ヤモ検討ヲ要スヘク殊ニ獨逸カ英佛ノ勢力ヲ繼承シテ政治的二東洋ニ乗出スカ如キ場合ヲ想定スル必要アル事勿論ナルカ當方ニ於テモ利用ノ可能性アル見透シノ下ニ戰後ニ於ケル獨逸ノ東亞ニ對スル出方等モ考量ニ

入レ今日ヨリ獨逸ニ對スル政治的關係ノ促進方ヲ慎重ニ考量シツツアル次第ナリ但シ目下ノ情勢ニ於テ日本ノ對蘇、對英米、對獨逸外交ハ鼎ノ三足ヲナスモノナルニ付前記考量ハ固ヨリ此ノ三者ニ對スル關係ト綜合的之二之ヲ爲スヘキコト勿論ナリ右不取敢貴大使限りノ御含ミ迄

編注一 本書第四文書。

二 本書第573文書。

321 昭和15年7月7日

事変三周年に際しての有田外相演説

昭和十二年七月七日蘆溝橋事件勃發以來早クモ茲ニ三週年ヲ迎フルコトトナリマシタ。熟々考フルニ日支兩國ハ東亞ニ於ケル同文同種ノ二大民族國家トシテ、互ニ友好親善ノ長イ歴史ヲ持チ遠ク隋唐兩朝トノ交通以來、支那文化カ我國ニ傳來シ、我國固有ノ文化ト交流シテ茲ニ東亞獨自ノ發展ヲ遂ケタコトハ申ス迄モナイノテアリマス。斯クノ如ク日支本來ノ關係ハ長短相補ヒ所謂唇齒輔車ノ關係ニ在ルニ

モ不拘、不幸今次事變ノ勃發ヲ見マシタノハ蔣政權カ日支ノ提携ヲ實現セントスル帝國ノ眞意ヲ解セス、一黨一派ノ利己的政權欲ニ捉ハレタル爲テアリマス。

然ルニ今ヤ皇軍ノ武威ハ全支ヲ風靡シ、重慶政權ハ奧地敗殘ノ地方政權トシテ餘命ヲ繫クニ過キス、然モ彼等カ頼ミトシテキタ援蔣國家ノ補給路モノノ内、最モ輸送能力ノ大キカツタ佛印經由ノ輸血路ハ最近我國ヨリノ嚴重ナル申入レノ結果、佛印側ニ於テ援蔣物資ノ禁絶ヲ應諾シマシタノテ、我方カラ検査員ヲ派遣シテ之カ實況ヲ監視シテ居リマスコトハ既ニ御承知ノ通りテアリマス。更ニ我國ハ目下「ビルマ」國境ヨリ昆明ニ通スル滇緬公路及ヒ香港領域カラスル輸血路ノ切斷ニ關シテモ「イギリス」政府ト交渉中テアリマス。

斯クノ如ク重慶政權ト外部トノ交通遮斷及ソノ他ノ諸般ノ措置カソノ效果ヲ顯シマスレハ事變以來嚇々タル戦果ヲ擧ケテ居リマスル皇軍ノ積極的作戰ト相俟ツテ重慶政權ハ戦争ヲ繼續スル力ヲ失ヒ、自滅ハ免レサル處ト信スルノテアリマス。

重慶政權カ衰亡ノ一途ヲ辿ツテ居リマスルニ反シ、去ル三

月南京ニ成立シマシタ汪精衛氏ヲ首班トスル新中央政府ハ既ニ四ヶ月ヲ經過シ其ノ基礎ハ愈々鞏固トナツテ參リマシタ。新中央政府ハ重慶政權カ謬レル抗日政策ヲ固執シテ居リマスルニ反シ、故孫文氏ノ大「アジア」主義ノ理想ヲ繼承シ近衛聲明ノ三原則ニ共鳴ト同感ノ意ヲ表シ、善隣友好、反共、經濟提携ヲ以テ東亞ノ新秩序建設ニ協力センコトヲ根本方針トシテ宣言シテ居リマス。斯クシテ蔣政權ノ抗日政策ヲ糺彈シ、和平救國ノ國民運動^{運動}ハ澎湃トシテ全支ニ漲テキルノテアリマス。

ソコテ我國ト致シマシテハ東亞民族ノ使命ニ覺醒セル新支那トノ間ニ將來ノ平和的關係ヲ確立スル爲ニ、去ル七月五日ヨリ日支基本條約ノ締結交渉ヲ開始シタノテアリマシテ、之カ成立致シマスレハ、日支共存共榮ノ新關係カ樹立サレ茲ニ輝カシイ東亞ノ黎明ヲ迎フルコトトナルノテアリマス。但シ茲ニ私カ諸君ノ注意ヲ喚起致シタイト思ヒマスル點ハ、東亞新秩序ノ建設ハ決シテ一朝一夕ニハ完成サレナイト云フコトテアリマス。日支間ノ戰爭狀態カ終熄致シテモ東亞新秩序ノ建設ヲ完ウスルニハ長イ間ノ忍耐ノ努力ヲ必要トスルノテアリマシテ、國民ト致シマシテハ更ニ一段ノ覺悟

ヲ致サネハナラナイノテアリマス。纏ツテ歐洲ノ情勢ヲ考ヘマスルニ獨逸ノ勇猛果敢ナル作戰カ見事效ヲ奏シ「ノルウエー」、「デンマーク」、「オランダ」、「ベルギー」、「ルクサンブルグ」及「フランス」ノ諸國ハ相次イテ「ドイツ」ノ支配下ニ入り、爲ニ戦局ハ急激ナル大變化ヲ遂ケマシタ。其ノ結果、東亞ニ於ケル「オランダ」領東印度、「フランス」領印度支那ノ地位ニ關シテモ尠カラサル影響ヲ與ヘント致シテ居リマス。

然シ乍ラ斯ル世界の大變動ニ直面致シマシテモ帝國外交ノ根本方針ハ肇國以來一定セル搖キナキ基礎ノ上ニ立ツテキルノテアリマシテ、即チ萬邦ヲシテ各々ソノ處ヲ得セシムルニアルノテアリマス。コレコソ實ニ世界平和ノ基礎テナケレハナラヌノテアリマス。而シテコノ理想ヲ實現致シマスル爲ニハ地理的、人種的、文化的、經濟的ニ密接ナル關係ニアル諸民族カ共存共榮ノ分野ヲ作り、先ツ其ノ範圍内ニ於ケル平和ト秩序トヲ確立スルト共ニ順ヲ追ツテ他ノ分野トノ間ニモ同様ノ關係ヲ樹立セネハナラヌノテアリマス。帝國カ東亞新秩序ノ建設ニ邁進シテキルノモ總テコノ意味ニ外ナラナイノテアリマシテ、從テ歐洲戰爭ノ餘波カ東亞

ノ安定ニ好シカラサル影響ヲ及ホスカ如キコトハ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ使命ニモ鑑ミ到底默過出來ヌコトハ諒々ヲ要シナイ處テアリマス。

斯クノ如クニシテ我國ノ外交ハ支那事變ノ處理、東亞新秩序ノ建設ニ最善ノ努力ヲ怠ラス、興亞聖業完成ノ根本方針ヲ堅持シテ參ルヘキテアリマス、ソシテコソ之ヲ基礎ト致シマシテ客觀情勢ノ變化ニ應シテ、隨時、隨所ニ臨機應變ノ手ヲ打ツテ行クコトモ出來ルノテアリマス。世界ハ洵ニメマクルシイ變化ヲ遂ケツツアリマスケレトモ、此ノ根本方針サエ確立シテ居リマスレハ少シモ慌テル必要ハナイノテアリマス。

例ヲ取ツテ申シマスト、丁度劍道ノ試合ニ於キマシテ劍ハ一筋テアリ、目標ハ相手ノ急所ヲ狙フコトニアルノテアリマスカ、然シ周圍ノ狀態ト相手ノ姿勢ノ變化ニ應シ、或ハ正眼ノ構ヘトナリ、或ハ上段、下段ニ構ヘルト同様テアリマス。即チ帝國ノ目標ハ東亞安定ヲ起點トシ世界ノ安定ニ貢獻スルニアリマスカ、之ヲ實現シ、之ヲ遂行スルニ當ツテハ、國際間ノ客觀的諸條件ニ對應シテ多種多様ノ姿勢ヲ取ツテ之ニ處スル處カナクテハナラナイ譯テアリマス。

殊ニ國際關係ハ大戦ノ進展ニ依リ、却ツテ我國ノ爲有利ニ推移シテ居ルト申ス向モアリマスカ、卒直ニ申セハ、我國ニトツテ、有利ナラシムルモ有利ナラシメナイノモ一懸ツテ吾々國民ノ覺悟ニアルノテアリマス。即チ我國民力國家ノ總力ヲ總動員シテ、其ノ精神力ヲ最大級ニ昂揚シ、不退轉ノ勇猛心ヲ喚起セネハナラナイ所以ハ茲ニ在ルノテアリマス。

今日我等ノ日常生活カ、此ノ非常時體制ノ強化ニ連レテ、種々ノ不便ニ遭遇スルコトハ固ヨリ覺悟シナケレハナラナイノテアリマス。然シ現在我國民ノ生活ノ如キ、之ヲ「ヨーロッパ」交戦國ノ状態ニ比較致シマスレハ、未タ未タ種々ノ點ニ於テ餘程餘裕カアルコトカ分ルノテアリマス。今日日本ニ取り最大ノ問題ハ、日常生活ノ難易トカ、物資ノ多或少ナイトカ云フカ如キ事實ニ存スルノテハナク、凡ユル困難ヲ克服シ、所期目的ニ邁進スル旺盛ナル精神力ニ在ルト思フノテアリマス。

大戦以來、「ヨーロッパ」諸國カ遭遇シタ運命ヲ觀察致シマス、頼ムヘキハ自力ノ外ニナイト云フコトヲ痛感スルノテアリマス。自力ヲ計ラス、他國ノ援助ニノミ自國ノ存

立ヲ托シタ國家ノ悲惨ナル運命ハ哀ムヘキモノテアリマス。自力ニ依頼スルホト強イモノハナイノテアリマス。日本ハ惠マレタル環境ニ立チ大戦ノ齎ス影響ヲ有利ニ活用シ、他國ノ興隆ヲ他山ノ石トナシ、生産力ノ擴充ト軍備充實トヲ怠ツテハナラナイノテアリマス。

要之今日我帝國ハ世界政局ノ大轉換期ニ際シ、支那事變ノ處理ニ邁進シ、東亞新秩序ノ建設ヲ完遂スルト同時ニ歐洲戰爭力招來シツアル客觀的情勢ノ激變ニモ對應シ自主的立場ヨリ萬遺憾ナキヲ期シ仍テ世界の新秩序ニモ大ナル役割ヲ果スノ要アルノテアリマスカラ我々ト致シマシテハ上下舉ツテ肇國以來ノ大精神ニ透徹シ、舉國一致ノ體制ヲ強化シ、最大限ノ綜合國力ノ發揮ニ盡瘁シ、以テ皇國大理想ノ實現ニ勇往致サネハナラヌノテアリマス。終ニ臨ミ今次事變勃發以來東亞永遠ノ平和建設ノ人柱トナツタ我忠勇ナル戰歿將士ノ英靈ニ對シ茲ニ心カラナル感謝ヲ捧クルト共ニ國民諸君ト誓ツテ相俱ニ今次聖戰ノ目的完遂ニ邁進セントスルノ決意ヲ新ニスルモノテアリマス。

編 注 本文書は、昭和十五年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第五號)から抜粋。

322

昭和15年7月18日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

米内内閣総辞職に関する報道振り報告

上海 7月18日後発

本省 7月18日後着

第一四八二號

今次ノ我政變ニ關シ十八日當地漢字紙ハ一齊ニ之ヲ重視シ
大々的ニ報スルト共ニ社説ヲ掲ケ居レルカ何レモ米内々閣
總辭職カ陸軍ノ壓力ニ依リ生シタル點ヲ指摘シ假令近衛内
閣ノ出現ヲ見ルトモ軍部ノ壓力ヲ封シ得サルヘシトテ新内
閣ノ前途モ悲感^(戰)的觀測ヲ下シ居ル處申報ハ近衛ノ抱懷スル
新政治體制ハ軍權カ一切ヲ超越シ依然封建制ニ富ム社會機
構ヲ有スル日本ニ於テハ異常ナル困難ニ當面スルハ明カナ
リ現下ノ國際情勢ニ刺戟セラレ實力以上ノ冒險ヲ敢テセン
トスル現日本ハ後繼内閣カ何人ナルニセヨ軍部ノ壓力ヲ封
スル由ナク其ノ外交政策モ極端ナル轉換ヲ餘儀ナクセラレ
國運ヲ狂瀾ニ賭スルコトトナルヘシト論シ居レリ尙中華日

報ハ近衛内閣ノ出現ヲ歡迎シ其ノ新政治體制ニ基ク政治改
革ハ現下日本ノ地位及國際情勢上最モ重大意義アリトナシ
殊ニ日支事變カ日本ノ基本國策タル近衛聲明ノ基礎ノ下ニ
迅速ナル解決ヲ見ルヘシト大ナル期待ヲ寄セ居レリ
北大、天津、南大、漢口へ轉電シ香港へ暗送セリ